

# JCCA中国

Japan Civil Engineering Consultants Association Chugoku Branch.

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会中国支部

2023.3

VOL. 51



## CONTENTS

### VOL.51 目次 2023. 3.

#### ■巻頭言

- 01 Z世代と共に 副支部長 小谷 裕司

#### ■夢迫人

- 03 本部からのメッセージ  
日本経済を憂う  
建設コンサルタンツ協会 顧問 多田 智
- 07 大学からのメッセージ  
オルタナティブな地域組織としての地域運営組織  
島根大学教育学部 教授 作野 広和

#### ■会務

- 15 令和4年度中国支部第52回定時総会  
15 役員会  
16 役員、常設部会委員の異動

#### ■総務

- 17 総務部会等の開催  
18 国土交通功労表彰  
33 令和4年度鳥取県委員会主要活動報告  
34 令和4年度災害時対応演習  
37 若手の会の活動報告  
39 大学・高専・高校への業界説明会開催  
40 講習会等  
41 官民合同新年互礼会

#### ■業務

- 42 業務部会の開催  
43 令和4年度意見交換会実施概要  
44 広島高速道路公社との意見交換会  
45 発注者と建設コンサルタンツ協会の意見交換会  
61 鳥取県との意見交換会  
67 広島県との意見交換会  
77 中国地方整備局との意見交換会  
89 広島市との意見交換会  
97 岡山県との意見交換会  
103 協会本部と中国支部意見交換会

#### ■技術

- 104 技術部会の開催  
104 技術講習会、見学会  
110 講師の派遣  
111 河川委員会の活動報告  
112 道路委員会の活動報告  
113 構造委員会の活動報告  
114 港湾委員会の活動報告  
116 防災委員会の活動報告  
119 地域計画委員会の活動報告

#### ■厚生

- 121 令和4年度親睦活動  
121 第57回ゴルフ大会  
125 第12回フットサル大会  
129 第55回ボウリング大会  
131 若手の会との意見交換会

#### ■グループ活動

- 132 バスケットボール以外の趣味発掘生活  
八千代エンジニアリング株式会社 小倉 孟
- 133 登ろう会の紹介  
復建調査設計株式会社 濱田 卓治
- 135 ウエスコ 支社対抗ソフトボール大会の紹介  
株式会社ウエスコ 藤田 喜文
- 136 佐北駅伝 35回連続出場  
中電技術コンサルタント株式会社 山原 康嗣
- 137 コロナ禍におけるイベントの開催  
株式会社荒谷建設コンサルタント 薦本 純也

#### ■寄稿

- 139 海外の仕事をしてみて  
株式会社ウエスコ 渡辺 敏

#### ■読者のコーナー

- 140 自己紹介と入社感想 福山コンサルタント 欧 静寧
- 140 入社して感じたこと 福山コンサルタント 吉田 健人
- 141 入社して感じたこと 荒谷建設コンサルタント 石川 鷹
- 141 1年を振り返って 荒谷建設コンサルタント 藤田 琴好
- 142 入社して感じたこと 中電技術コンサルタント 寺尾 陸
- 142 入社して感じたこと 中電技術コンサルタント 桐山 魁
- 143 幅広い知識を身につける 復建調査設計 中尾 雪音
- 143 入社して感じたこと 復建調査設計 島津 尚弥
- 144 入社して感じたこと 復建調査設計 河野 駿太
- 144 振り返りと今後の目標 長大 村上 悠斗
- 145 入社1年目を振り返って 長大 竹内彩結実
- 145 入社して感じたこと 長大 宇野 将平
- 146 「事業推進」のできる社員を目指して エイト日本技術開発 藤本 雄太
- 146 入社のきっかけ エイト日本技術開発 榎尾 果歩
- 147 入社して感じたこと ウエスコ 岡田 将範
- 147 技術者として活躍するためにウエスコ 渡邊 友泰

#### ■新任自己紹介

- 148 ご挨拶 西日本高速道路エンジニアリング中国 北村 弘和
- 149 着任のご挨拶 建設技術研究所 小瀧 訓一
- 150 ご挨拶 福山コンサルタント 小笹 俊成
- 150 新任ご挨拶 ウエスコ 北村 彰秀
- 151 新任のご挨拶 パシフィックコンサルタンツ 木村 誠
- 151 新任のご挨拶 荒谷建設コンサルタント 下山 勉
- 152 新任ご挨拶 中電技術コンサルタント 佐伯 隆之
- 152 ご挨拶 長大 大塚 真弘
- 153 新任の御挨拶 建設技術研究所 端 健司
- 153 新任ご挨拶 長大 栢 裕一郎

#### ■事務局

- 154 支部日誌  
158 事務局からのお知らせ

#### 表紙写真説明

撮影者：村田 利子

タイトル：『夏の思い出』

撮影者コメント：例年でしたら、この橋の下から蚩舟が出る場所ですので、撮影は不可能ですが蚩舟中止となり蚩の乱舞と趣のある橋とのコラボとなりました。

第12回建コンフォトコンテスト 特別賞



## Z世代と共に

(一社) 建設コンサルタンツ協会中国支部

副支部長 小谷 裕 司

令和となって5年目を迎えます。国内では、2008年からは完全な人口減少に移行し、その後、新型コロナウイルスがパンデミック化し、テレワークの進展により孤立感が高まり、今後の生産性において人口減少化時代が大きな問題となるだけでなく、ジェネレーションギャップも深刻化しています。

人口や経済が拡大を続けた「昭和の時代」は、良くも悪くも集団の同調性や求心性が重視され、経済成長への道を上り続けた時代であったと思います。「平成の時代」はバブル崩壊により、生活や経済の転機を迎え、東京圏を中心に各主要都市への「小極集中」が進んだとは言え、第二次ベビーブームの世代が主体で、同調性は多少保たれていたと思います。

今、巷で若者のことを「Z世代」という言葉をよく耳にします。1996年から2010年の間に生まれた世代と定義されています。インターネット環境が飛躍的に進化した時代に育ち、インターネットでの情報検索やSNSを利用したコミュニケーションを使いこなす、情報リテラシーに優れた世代です。2025年には15歳から29歳を迎え、世界全体では人口の4分の1以上を占める世代です。令和のスタートとともに社会に飛び出し、Society5.0で実現するこれからの時代を切り拓く世代と言えます。また、2010年以降に生まれた世代のことを「α世代」と言うそうです。今時点で小学生くらいの年代で2030年頃には社会に進出し消費・生産活動の中核を担う世代です。IT技術が生活にもたらす利便性やAI技術を利用した社会環境が身近となり各分野の価値観が様変わりしている頃と予想されます。

まずもって我々は、「Z世代」の特徴を理解しないと今後の事業展開は難しい時代とも思えます。よく言われている、この世代の特徴をいくつか示します。

一つ目の特徴は、「デジタルネイティブ」です。生まれた時点で様々なデジタル機器がそろっていたので、インターネットサービスに触れながら成長してきた傾向があります。二つ目は、「SNSネイティブ」です。スマホの普及とともに、Twitter、FacebookなどのSNSの利用が拡大し、情報収集や知人とのコミュニケーションに利用しています。三つ目の特徴は、「タイムパフォーマンス(タイパ)を重視」している点です。お金と同様に自分が使う「時間」の価値を大切にする考えで、短時間で満足感を得られるモノやコトの消費・活用が盛んな傾向にあるといわれています。四つ目は、「透明性・プロセスの重視」です。SNSを通じて、あらゆるモノ・コトのトレーサビリティが可能になったことから、商品の原価率や環境負荷、労働環境などに目が行き届くようになり、情報の先出しや透明性の担保が求められています。五つ目は、「社会課題への関心が高い」という点です。小中学生時代に東日本大震災や大規模災害があり、昨今ではSDGs(持続可能な開発目標)に関する情報が日常的にみられ、災害や社会課題について考えることは当たり前という認識が強い傾向にあります。高校生へのリサーチでは、親世代や社会・政府は、ジェンダーの多様性の理解が足りないと感じているようです。六つ目は、正解より「納得感の重視」です。情報が溢れていて、いろいろな選択肢があり、先行きが見通しにくい現代において「正解」は誰も見

つけづらい、コロナ禍で孤独感が増したこともあり、心の内面や自分自身への関心が高まっていることから、唯一、信じられるのは自分への投資という「納得感」の重視です。

このような「Z世代」の特徴を踏まえて、働き方改革や技術伝承をどのように進めることが重要か考えなくてはなりません。「Z世代」の心をつかんで共に発展していくことが必要です。

心をつかむポイントとして示されているのは、一つは、「長期的な価値を伝えること」です。モノ・コトの消費や活動に対し、支払う金額に対する「コスパ」と費やす時間に対する「タイパ」に対してシビアな目を持つこの世代には、我々の仕事が人命や生活を守る重要な仕事であることを説明し、仕事の効果の重要性を伝える努力が必要です。二つ目は、「共感を得られるポイ

ントをつくる」ことです。ジェンダーレスなモノやサステナブルな取り組みから生まれたサービス・商品など、社会課題に広く関心のあるZ世代だからこそ共感できるポイントを作る必要があります。ただし、社会に対する企業の姿勢とサービス・商品のコンセプトにずれがないことが重要です。三つ目は、「オンライン・オフラインどちらからでも体験できる環境を整える」ことです。インターネット上でのコミュニケーションは慣れているため、リアルな体験ができるオフラインの現場技術は、新鮮さを感じることができるかと認識されています。オン・オフを交えた体験を提供できることが大切です。

これらのことを踏まえ、新たな若手世代と共に、建設コンサルタントの更なる発展を祈念するばかりです。



## ■ 本部からのメッセージ



### 日本経済を憂うる

(一社) 建設コンサルタンツ協会

顧問 多田 智

私は昨年6月に、中国地方整備局長を最後に国土交通省を退職した。平成元年に当時の建設省に入省し、33年3か月の公務員人生であった。

私が入省した平成元年(1989)はバブル崩壊直前で、12月29日の大納会の日経平均株価は、終値の最高値38,915円87銭をつけた。これが日経平均株価のピークである。

私が東京勤務になったのが平成3年(1991)で、この年にバブルが崩壊した。その後2年くらいはバブルの影響がまだ残っており、東京では夜になるとタクシーがなかなかつかまらないなど、まだ世の中は元気な時代だった。ジュリアナ東京が誕生したのも平成3年である。

その後、日本経済は低迷し続け、いわゆる「失われた20年」と言われる時代を迎えることとなる。

バブル崩壊後の政治、経済、自然災害などに関する出来事を思いつくままに時系列で示してみると以下の通りである。

- 平成3年(1991) バブル崩壊、平成不況突入
- 平成7年(1995) 村山政権「財政危機宣言」  
阪神淡路大震災
- 平成8年(1996) 橋本政権「構造改革」  
財政支出削減、消費増税、  
規制緩和、自由化、民営化  
グローバル化
- 平成9年(1997) 消費税増税 3→5%
- 平成10年(1998) デフレ不況突入、以降、20  
年以上デフレが続く
- 平成13年(2001) 小泉政権誕生「構造改革」加  
速化

省庁再編

- 平成16年(2004) 新潟県中越地震
- 平成19年(2007) 新潟県中越沖地震
- 平成20年(2008) リーマンショック
- 平成21年(2009) 民主党政権誕生
- 平成23年(2011) 東日本大震災
- 平成24年(2012) 民主党政権崩壊、  
第2次安倍政権誕生
- 平成26年(2014) 消費税増税 5→8%  
内閣人事局設置  
8月豪雨による広島土砂災害
- 平成30年(2018) 7月豪雨による西日本豪雨災害  
北海道胆振東部地震
- 令和元年(2019) 消費税増税 8→10%
- 令和4年(2022) デフレは続く、給料は上が  
らない、物価は上がる

書いていて気が減入る出来事ばかりだ。バブル崩壊時に小中高校生だった世代、現在の40~50歳くらいの世代は、景気が良かった日本、成長していく日本というもの知らずに社会人生活を送ってきたのではないだろうか。

一体全体、これまでに日本経済がダメになった原因は何なのか。

ふと思いつき、様々な書籍やネットにおける論考を読み漁り、自分なりに熟考してみた。その中で最もすっと「腑に落ちた」意見を述べていたのが、中野剛志氏である。彼の著書「奇跡の経済学【基礎知識編】」が一番わかりやすかった。彼の考え方には、いわゆる主流派経済学者たちから様々な反論もあると思うが、的確

な反論になっていないと思うし、また、現実の日本経済に起きている現象を直視すると、中野氏の意見が正しいと感じるのである。

中野氏は、日本経済が成長しなくなった理由を以下のように述べている。

平成の日本経済が成長しなくなった理由はデフレである。

デフレとは物価が下がり続ける、つまり貨幣の価値が上がり続ける状態である。貨幣の価値が上がり続ける状態では、誰も支出したらないので、経済は成長しなくなる。

デフレで不景気の時に、個人や企業が消費や投資を控え、貯蓄に励むのは、極めて経済合理的な行動である。しかし、個人や企業が支出を減らしたら、需要が縮小して、景気はますます悪化する。この行動は正しくても、それが積み重なった結果、全体として、好ましくない結果になる。「合成の誤謬」である。

ミクロ（個々の企業や個人）の視点では正しい行動も、その行動を集計したマクロ（経済全体）の世界では、反対の結果をもたらしてしまう。

「合成の誤謬」の問題は、企業や個人といったミクロのレベルの行動では解決できない。この問題の解決は、マクロの経済全体の運営をつかさどる「政府」しかできない。

デフレ脱却に失敗しているのは、「政府」の責任である。

ごもっともとしか言えない。

では、デフレから脱却するためにはどうすればいいのか。「失われた20年」の間、政府は何を間違ってきたのか。デフレ対策について、中野氏は以下のように述べている。

デフレとは「需要不足／供給過剰」が持続する状態である。逆に、インフレとは「需要過剰／供給不足」が持続する状態である。

したがって、現在の日本は需要不足を解消しなくてはならない。すなわち、財政支

出の拡大、減税、金融緩和、産業保護、労働者保護（規制強化、国有化、グローバル化の抑制）など、「民主社会主義」のイデオロギーによる経済運営、「大きな政府」を目指すべきである。

ちなみに、インフレ対策は、デフレ対策の真逆をやればよい。すなわち、財政支出の削減、増税、金融引き締め、生産性の向上、競争力強化（規制緩和、自由化、民営化、グローバル化）など、「新自由主義」のイデオロギーによる経済運営、「小さな政府」である。

平成の日本の経済運営は、デフレ下にあったのに、新自由主義のイデオロギーを信じ、インフレ対策をやり続けた。その結果、平成日本はデフレから脱却できず、経済成長できなくなった。

これまた、ごもっともである。

冒頭に記したバブル崩壊後の経緯を見ていただきたい。

平成不況に突入後、平成8年からの橋本政権は、「構造改革」と称し、財政支出を削減し、規制緩和、民営化などを推し進め、平成9年には消費税を5%に増税するなど、“インフレ対策”を講じてしまった。

その結果、平成10年にデフレ不況に突入し、以後20年以上デフレが続いている状況である。

では、現在とるべき正しい経済政策は何か。中野氏はこう述べる。

デフレとは貨幣価値が上がり続ける状態なので、貨幣供給量を増やして、貨幣価値を下げなければならない。

日銀は現在、量的緩和（マネタリーベースの増大）を続けているが、貨幣供給量は増えていない。なぜなら、民間企業は投資、個人は消費を控えているので借り手がないからである。貨幣供給量を増やすのは、借り手の資金需要なのだ。

民間や個人の資金需要がないデフレ下で、貨幣供給量を増やすためには、政府が

資金需要を拡大するしかない。すなわち、需給ギャップを埋める大型の財政出動が必要である。

はい、3回目のごもつとも。

令和4年11月8日の朝日新聞によると、アメリカでは、「バイデン政権になってから積極的な財政出動でコロナからの回復を下支えし、雇用環境は大きく好転した。アメリカの失業率は新型コロナが感染拡大した2020年4月に過去最悪の14.7%を記録。だが、バイデン政権以降は低下し、今年2月以降は3%台という歴史的な低水準で推移している。」

「コロナ禍で傷ついた経済と家計を巨額の財政出動で支え、雇用を創出する『大きな政府』方針のもと、様々な施策を打ち出した。」

財政出動の規模も日本とは桁外れである。

「21年3月に、1人あたり最大1400ドル（約21万円）の現金給付などを柱とした総額1.9兆ドル（約280兆円）の追加経済対策法が成立。その後、インフラ整備に総額1兆ドル（約147兆円）を投入する法案や半導体産業に計527億ドル（約7.7兆円）の補助金を出す法案なども成立させた。」

財政出動の影響で、インフレを助長した可能性はあるものの、適度なインフレはデフレよりはるかにいい経済状況である。

デフレ下では、人々は消費しないのでマーケットは縮小する。すると、企業の売り上げは下がり、赤字に陥り、最悪の場合は倒産することもある。労働者は給料が下がったり、仕事そのものがなくなったりする。現在世代の貧困化が加速する。

また、投資とは将来に利益を得るために行うものであり、投資により将来世代が豊かになるものだが、デフレ下では企業が投資を控えるため、将来世代も貧困化することになる。

デフレは、現役世代も将来世代も貧困化する恐ろしい現象である。

さて、財政出動しなくてはならないが、その財源をどうするのが課題になる。こういう時に真っ先に思い浮かぶのは増税である。しかし、

前述したように、増税は“インフレ対策”であり、デフレ下の現在最も講じてはいけない政策である。そうなると、国債の発行によって財源を賄うしかない。

しかし、世間一般には、「現在、巨額の財政赤字を抱えているのに、これ以上借金をしたら、ギリシャやアルゼンチンのように財政破綻する。」という論調が蔓延している。

中野氏はこう述べる。

現在、日本は巨額の財政赤字を抱えている。対GDP比で250%以上。財政危機にあるギリシャ（約180%）やイタリア（約150%）よりもはるかに大きな値である。しかし、なぜ、財政破綻、デフォルトしないのか？

通常、財政赤字が大きすぎるのであれば、国債金利は暴騰し、インフレが行き過ぎるはずだが、日本はインフレどころか、20年以上もデフレが続いている。

現在、日本国債の金利はほぼ0%に近く、世界最低水準で推移している。これは、日本国債がどの国の国債よりも安全で、国家財政が信認されている証拠である。

また、政府は、自国通貨発行権を有しているため、自国通貨建て国債が返済不能になることはない。政府は通貨を発行する能力があるという点において、民間企業や家計とは決定的に異なる存在である。

自国通貨建て国債がデフォルトしないことは財務省も認めている。

平成14年（2002）に外国の格付け会社が日本国債の格付けを下げた時に、財務省は反論の意見書を出した。それには、「日・米など先進国の自国通貨建て国債のデフォルトは考えられない。デフォルトとして如何なる事態を想定しているのか。」と記されている。

「国債は将来世代へのツケ」という批判があるが、これは「国債の償還財源は将来世代の税金で賄わなければならない」という間違った発想によるものである。国債の

償還の財源は税である必要はなく、国債の償還期限が来たら、新規に国債を発行し、それで同額の国債の償還を行う「借り換え」を永久に続けることができる。

ということでこれまた納得である。

財源は国債を発行して調達すればよい。

日英米のように自国通貨発行権を持つ政府の自国通貨建ての国債はデフォルトしないので、変動相場制の下では、政府はいくらでも好きなだけ財政支出をすることができる。財源の心配をする必要はないのである。

財務省自身が認めているのだから間違いはない。

ちなみに、反論意見書を出した当時の財務省財務官は、日銀の黒田総裁である。

今の日本ではやるべきことが山積している。

南海トラフ地震・首都直下地震対策、ゲリラ豪雨・台風・高潮対策など国土強靱化、防災・

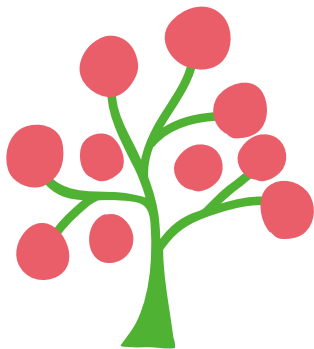
減災事業、高速道路のミッシングリンク解消・4車線化・6車線化・ダブルネットワーク化、インフラの老朽化対策・長寿命化、整備新幹線、リニア、防災拠点となりうる公共施設（県庁、市役所、町村役場、警察署、消防署、学校など）の建替え・耐震化、など挙げればきりが無い。

公共事業だけではない。

国防、教育・基礎研究、保健・医療、少子化対策、バイオテクノロジー、エネルギー（新型原子力発電、洋上風力発電、蓄電池開発、送電網強化など）、半導体、GX（脱炭素）（水素、アンモニア活用）、農林水産業強化、なども喫緊の課題だ。

そして、30年以内の発生確率約70%と想定されている首都直下地震を考えると、首都機能移転・分散化は不可欠であろう。最終的には遷都も考えなければならない。

今こそが、財政支出すべき最後のタイミングである。





## 大学からのメッセージ



### オルタナティブな地域組織としての 地域運営組織

島根大学教育学部

教授 作野 広和

#### 1. はじめに

近年、地域への期待が大きくなる一方で、地域は多くの問題を抱えている。具体的には、人材・労働力不足、産業の衰退、情報通信網の未整備・更新、地域交通問題、教育・子育て問題、高齢化・福祉・医療問題、住環境問題、土地利用・耕作放棄地問題、鳥獣害問題、防災・危機管理への対応など、枚挙に暇がない。これら問題は、中山間地域に限らず、都市地域にも広がっている。たとえば、都市地域にある住宅団地においても、シカやイノシシが出没し対応に追われる事象は珍しくなくなった。

このように、現在の日本社会は、人口減少が加速化している一方で、新たに対応すべき課題が増え続けている。これまで、国や地方自治体は様々な課題解決策を講じてきたものの、課題は解決するどころか増大するばかりである。しかし、従来の課題解決策は、「地域おこし」と称される地域活性化の類いが中心であった。しかも、多くの動きは住民の主体的な対応に任せられた。その結果、「やる気」のある地域では、住民が積極的に課題解決へ取り組んできた。一方で、主体的な取り組みを行わなかったり、「やる気」があっても合意形成が困難な地域においては、地域課題は蓄積されていった。そのような地域においては、地域課題が山積する中で、新たな地域活動を強いられるため、地域住民の疲弊は増大していった。近年では、当初から地域課題解決に取り組もうとしない、「不戦敗」を選択する地域が増大しつつある。

このような状況に陥るポイントは、「地域課

題に対処できる主体は、地域住民しかあり得ない」という認識を、地域住民はもちろんのこと、地域外の住民も共有しているからである。大都市圏においては、NPOなど志のある人々による主体的な対応や、企業等による社会性を重視した対応が期待できるが、地方圏において期待薄である。なぜなら、地域住民は「地域内における意思決定権は地縁型組織しかあり得ない」と考えているからである。その結果、地域外の住民や組織による協力や支援を受けることがあっても、主体として参画することは想定されていないのである。筆者は、このような状況を「地域代表性の担保」問題と称している。あるいは、「地縁型組織の絶対性」問題とも表現できる。その是非は別として、地域住民にとって、「地域代表性の担保」問題を解決しない限り、地域課題解決に地域外の住民や組織による参画は認められないのである。そして、「地縁型組織の絶対性」を変更することは選択肢に入っていない。その結果、地域課題解決の必要性は認識されるものの、地域住民のみでは多くの苦労や困難を伴うことが想像できるため、課題解決に着手しないのである。

このような状況を背景として生み出された新たな考え方に基づく地域組織が、地域運営組織である。地域運営組織は、既存の地縁型組織とは異なり、地域代表性を担保しつつ、地域課題の解決と、地域資源の活用により地域の魅力を伸ばしていくための組織である。また、地域運営組織の特徴は、地域住民が中心であるものの、当該地域に関わる組織・団体、事業所、学

校、出身者や関係人口等、多様な主体が関わることができる点である。いわば、オールキャストで持続可能な地域づくりを行うための仕組みである。このように、地域運営組織は既存の地縁型組織とは異なる、オルタナティブな地域組織として捉えることができる。本稿では、地域運営組織の基本的性格を整理した上で、地域運営組織の現状と課題を考察することで、今後における地域の持続可能性について展望する。

## 2. 地域運営組織の概要

総務省によれば、地域運営組織とは「地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織」と定義されている。これに基づけば、地域運営組織の目的は「地域の暮らしを守るため」であり、活動主体は「地域で暮らす人々」が中心となって形成されるとともに、「地域内の様々な関係主体が参加する」とされている。また、地域運営組織においては協議機能を有するとともに、地域づくり計画など「地域経営の指針」を定めることが推奨されている。さらに、地域運営組織の活動は「地域課題の解決に向けた取り組み」であるとされ、地域運営組織自体が「持続的に実践する」ことが定められている。このように、地域運営組織は地域の

持続可能性を担保するための組織であるといえる。

各地域においては、従来から多様な地域組織・団体が存在していた。それらは自治会や町内会といった地縁型組織、子ども会や老人クラブ、婦人会といった地域の属性型組織、消防団、地区社会福祉協議会、営農組織といった目的型組織など多様である(図1)。しかし、各組織・団体は同じ地域にありながら、ばらばらに活動しているため、行事が重複したり、活動に偏りが生じたりして、必ずしも地域課題解決には至らなかった。そして、高齢化や過疎化などにより、各組織・団体の担い手は減少していき、「どの会も同じ顔ぶれ」となる現象が全国各地で見られてきた。一方で、これらの組織・団体の廃止、統合、再編は容易ではなく、中には上位組織との関係から解散や休止すら許されない団体も存在していた。

地域運営組織において、これらの各組織・団体は主体的な活動を継続しつつ、地域運営組織の傘下に組み込み、部会を構成するなどして、地域全体が一体的に運営される。すなわち、地域を分野別に「串刺し」にして、地域課題解決を行う組織が地域運営組織である。

地域運営組織の特徴を以下にまとめる。

第1に、多様な主体の参画が挙げられる。従来の自治組織は、地域住民のみが所属する地縁型組織であった。しかも、地域住民が全員参加

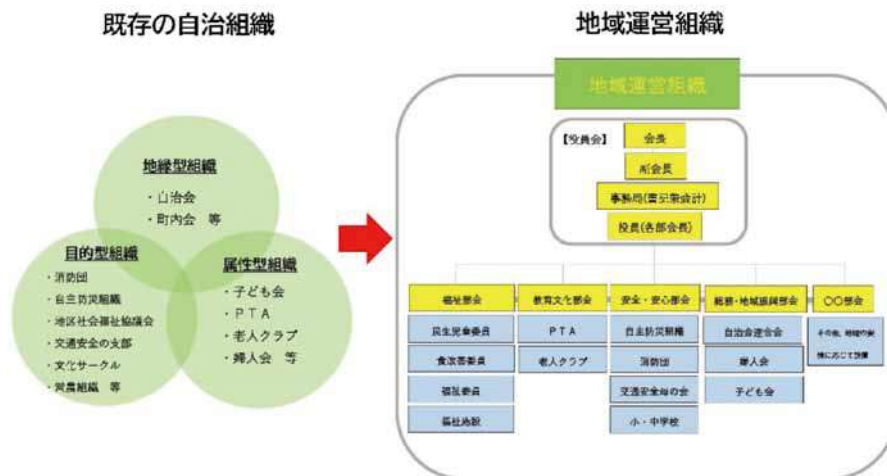


図1 既存の自治組織と地域運営組織の関係  
(新見市資料をもとに作成)

する地縁型組織は少なく、世帯主が参加する組織が大半であった。その結果、地縁型組織は高齢の男性が中心となり、硬直的な地域運営が行われてきた。これに対して地域運営組織は、原則として個人単位で参加し、地域住民以外の参画も可能である。また、個人以外にもJAや郵便局といった事業所、学校、出身者や関係人口など、構成員に制限はない。多様な主体が参画することにより、地域課題解決に対する柔軟な考えが生まれ、携わる組織・人員も補強することができる。

第2に、常設の事務局を設置することが挙げられる。事務局の実態は多様であるが、専従スタッフと固有の事務所を有することが多い。継続的に地域経営を行う場合、多くの事務作業や連絡調整が必要となるが、それを本業の片手間に行うことは極めて困難である。専従スタッフを置くことにより、書類づくりや会計処理などの細かな事務仕事や、情報の受発信などを一元的に取り扱うことにより、安定的な組織運営が行える。同時に、地域運営組織が専従スタッフを雇うことで、ささやかではあるが雇用機会の創出にもつながる。なお、地域運営組織の拠点となる事務所は組織構成員や地域住民が気軽に訪問できるサロンとして機能することが多く、地域住民のコミュニケーションを図る意味でも重要な場である。

第3に、安定的に活動資金を確保されていることが挙げられる。地域住民や関係組織から拠出される会費によってまかなうことも大切であるが、行政から「一括交付金」として安定的に共有されることも多い。また、地域運営組織が収益事業を行うことにより、資金を捻出している例もみられる。さらに、行政や民間企業が公募する交付金や助成金が得られる事業を実施することにより、まとまった事業費を確保することも可能である。農林水産省が2022年度から開始した「農村RMO」<sup>1)</sup>事業は、採択された場合、事業期間中にまとまった額の事業費を確保することができる。

### 3. 地域運営組織の成果と課題

地域運営組織は第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2019年12月20日閣議決定)の重要業績評価指標(KPI)として、2024年度までに地域運営組織を7,000団体にまで増加させることにしている。また、同じく2024年度までに生活支援などの自主事業の実施等による収入の確保に取り組む地域運営組織の割合を60%にすることも掲げられている。このように、地域運営組織の構築は、国を挙げて推進されている。そして、その数は増加傾向にあることから、地域においても必要な組織であることを物語っている(図2)。

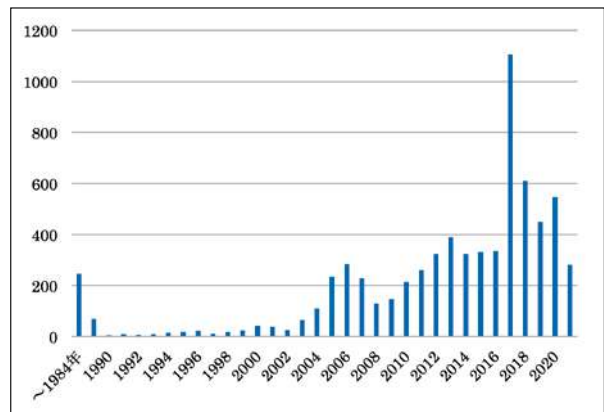


図2 地域運営組織設立数の推移  
(総務省報告書各年版より作成)

注 : 2017年度以降は前年度と当該年度の差分から設立数を算出

以下では、総務省(2022)<sup>2)</sup>に基づいて地域運営組織の実態を把握することで、その成果と課題を整理する。

2021年の組織数は全国で6,064組織あり、2016年度と比べて約2倍に増加しており、増加傾向にある。ただし、地域運営組織が形成されている市区町村は814であり、全国1,747市区町村の46.6%であり、半数に満たない。組織形態としては法人格をもたない任意団体が88.3%、NPO法人が4.2%、認可地縁団体が1.8%である。地域運営組織の設立目的としては<sup>3)</sup>、「課題を住民が解決できるようにする」が77.5%と最も多く、「自治会等の活動を補完・活性化」(57.0%)、「地域住民の意見を集約し行政に反映」(27.5%)などが続いている。これらの目的は、持続可能な地域を構築していく

ために不可欠な要素であると思われ、地域運営組織の設立理念としては適切であると評価できる。

地域運営組織の主な活動は<sup>3)</sup>、「祭り・運動会・音楽会などの運営」が43.6%と最も高く、「イベント型」の活動が多いことがうかがえる。一方で、「高齢者交流サービス」(32.5%)、「防災訓練・研修」(30.6%)、「声かけ、見守りサービス」(22.4%)など「課題解決型」の活動もある程度行われている。しかし、「コミュニティバスの運行、その他外出支援」(4.8%)、「家事支援」(4.3%)、「子どもの学習支援、学童」(4.2%)、「買い物支援」(3.9%)、「空き家や里山などの維持・管理」(3.4%)など、地域の本質的な課題解決に向き合っている組織は極めて限定的であることがわかる。

地域運営組織が収入源の第1位として選択した項目は、「市区町村からの補助金等」が62.1%と圧倒的に高い。また、「公的施設の指定管理料」が9.3%、市区町村からの受託事業収入が4.4%、国・都道府県等からの補助金等が1.6%となっており、公的資金が占める割合が高い。これに対して、「構成員からの会費」は6.6%、「収益事業の収益」は3.8%と、自立的

に収入を得ている地域運営組織は1割強に過ぎず、資金面での自立性の低さが浮き彫りになった。

地域運営組織の持続的運営に向けた課題としては<sup>3)</sup>、「活動の担い手となる人材の不足」(84.5%)、「次のリーダーとなる人材の不足」(59.3%)、「リーダーとなる人材の不足」(56.2%)、「事務局運営を担う人材の不足」(52.6%)の他、「団体の役員・スタッフの高齢化」(45.8%)など、人材に関する課題が圧倒的多数を占めた(図3)。また、「地域住民の当事者意識の不足」(48.3%)、「地域住民の活動への理解不足」(37.0%)など、地域住民に関する課題も多い。地域運営組織は、「住民による住民のための地域組織」であるにも関わらず、住民の主体性や当事者意識が低いことは深刻な問題である。

地域運営組織の立ち上げ経緯として「既存組織を見直し機能を追加した団体」は、「自治会町内会の連合組織を母体」とするものが45.2%、「自治会・町内会を母体」とするものが23.5%で、全体の3分の2を超えている。地域運営組織は、既存の地縁型組織とは異なるオルタナティブな存在であるべきである。その理

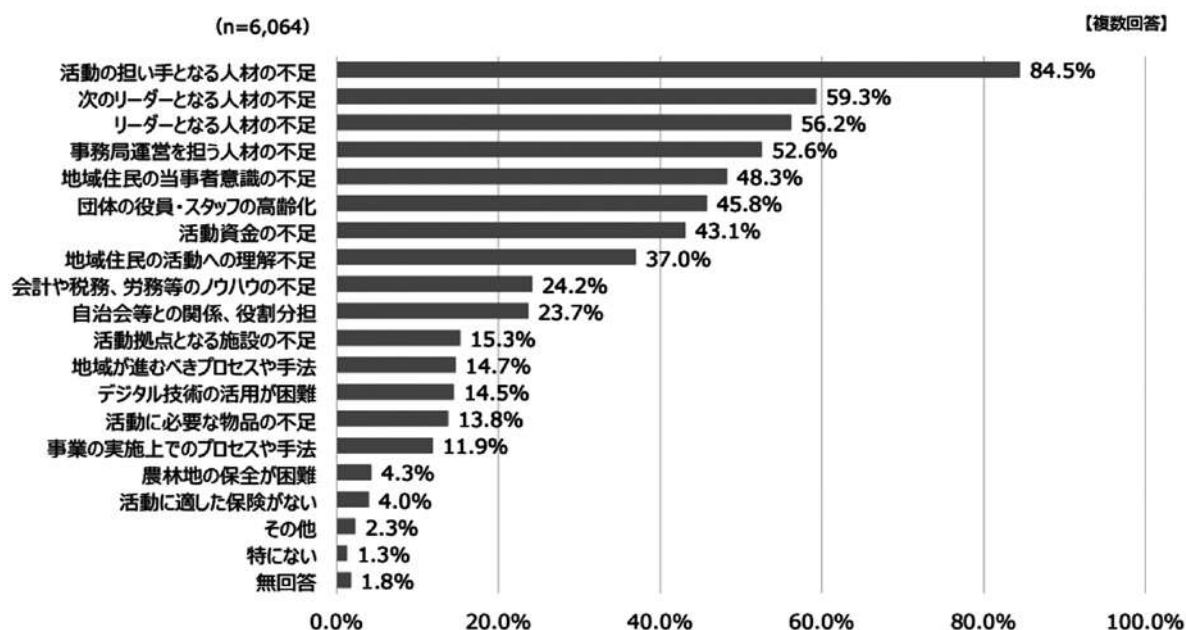


図3 地域運営組織の持続的運営に向けた課題  
 (「令和3年度地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業報告書(概要版)」より転載)

由として、地縁型組織はボンディング型のソーシャルキャピタルを基盤としているのに対し、地域運営組織はブリッジング型ソーシャルキャピタルを基盤とする性格を有することが求められるからである(表1)。既存の地縁型組織を基盤として発展的に地域運営組織に生まれ変わること自体は否定されるものではないが、地域運営組織として位置づけられたとしても、その実態は地縁型組織と性格を変えない組織も少なくない。地域運営組織の設立は行政が主導する場合が多く、結果として設立自体が目的化したり、十分な協議を経ないまま設立したりすることがある。地域運営組織の設立にあたっては、地域住民による十分な話し合いや合意形成を図ることで、住民による地域への所属意識を醸成するとともに、地域の未来を住民が主体的に描き、共有することが求められる。年配男性を中心とした一部の地域住民によって組織化を急いだ場合、地縁型組織の焼き直しの組織に陥る恐れすらある。その場合、地縁型組織の役員と地域運営組織の役員の重複がみられ、特定の人物に負担が集中するとともに、「人材不足」を自ら創出することとなる。地域運営組織は組織の立ち上げ時と、立ち上げ直後の研修などを行うことが、その後の成否を決める非常に重要な時期となる。その時期のプロセスを重視しなかった場合、地域運営組織が形骸化したり、運営が困難になったりする。そして、一度立ち上がった地域運営組織を再生するためには、大きなエネルギーを必要とする。以下では、兵庫県佐用町の地域運営組織である地域づくり協議会

の設立と再生過程を紹介する。

#### 4. 兵庫県佐用町における地域運営組織の再生

佐用町は、兵庫県の西端に位置し、岡山県美作市と接する人口15,863人(2020年国勢調査)の町である。高齢化率は43.2%(同)であり、全域が過疎地域に指定されている。佐用町は、2005年に佐用郡4町(佐用町、上月町、南光町、三日月町)が合併して誕生した。合併の際に策定された「新町まちづくり計画」において、住民と行政がそれぞれの立場や責任を明確にししながら、相互に協力しあい、よりよい地域づくりを実践する「協働のまちづくり」が提唱された。これを実現するために、2006年4月1日に、当時の小学校区(地区)を単位とした地域運営組織である地域づくり協議会が設立された。その目的は、弱体化が懸念される自治会を補完するためであり、自治会よりも広い範囲である地区単位の新しい住民自治組織に位置づけられた。

各地域づくり協議会には、拠点施設として地域づくりセンターが設置されるとともに、町の非常勤特別職としてセンター長が任命された。センター長とは、地域づくり協議会の運営、事業のマネジメント、地域課題の集約・整理・協議、地域と行政のパイプ役などの任務が想定された。また、各地域づくり協議会では、生涯学習・スポーツ事業(人権学習、歩こう会、運動会など)、地域福祉事業(ふれあい喫茶、見守り事業など)、防災防犯事業(防災訓練、防災マップづくり、交通安全啓発など)、環境事業

表1 既存の地縁型組織と地域運営組織の相違点

既存の地縁型組織(自治会, 町内会等)	比較項目	地域運営組織
集落、町内(狭域)	活動エリア	主に小学校区、公民館エリア(広域)
ボンディング型	ソーシャルキャピタル	ブリッジング型
世帯	基本単位	個人
1戸1票制	合意形成	1人1票制
住民(高齢男性が中心)	構成人員	住民+住民以外(年代、性別問わず)
相互扶助慣習的な行事の継承	主な活動	地域課題解決+地域資源活用 (地域福祉、生活交通、地域産業の維持)
会費(自治体によっては交付金)	活動資金	会費, 交付金, 事業費等
常勤職員は不在	人員体制	活動拠点に職員が常駐

注: 既存の地縁型組織、地域運営組織のいずれも典型例を示したもの  
実際の組織は多様であるため、全ての組織にあてはまるとはいえない。

(清掃活動、廃油回収、ホタル放流活動など)、伝統文化継承事業(歴史勉強会、盆踊りの実施など)が期待された(図4)。

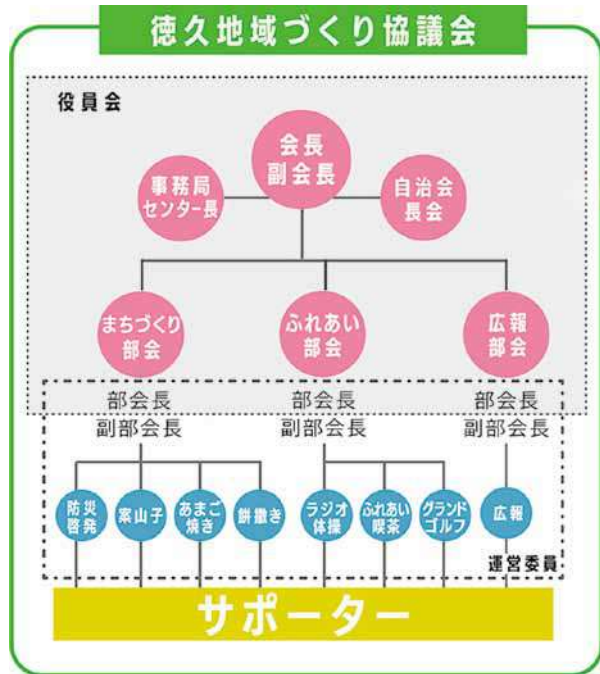


図4 佐用町徳久地域づくり協議会の組織図  
(徳久地域づくり協議会ホームページより転載)

地域づくり協議会が設立された後、各地区でそれぞれ工夫して地域づくり活動が展開された。例えば、江川地区においては住民自らが行う交通空白地有償運送として「江川ふれあい号」を運行している。また、長谷地区では、古民家風の建物を活用した「ゴトンボ荘」を運営し、大都市圏からの宿泊者を受け入れている。さらに、三日月地区では、「おいでな食堂」として給食や配食サービスを行っている。この他、全地区において「地域まちづくり計画」に基づいて住民が工夫しながら活動を行い、一定の成果を収めてきた。

佐用町の地域運営組織は、全国的に見ても早い時期に設立されるとともに、行政との協働や住民自治を謳った先進的な取り組みであったといえる。しかし、多くの地区においては、イベント型の活動に終始し、前述したような課題解決型の事業を行う地区は少なかった。また、住民主体を標榜しつつも、実際にはセンター長など一部の役員に負担が集中し、多くの住民が

「お客さん」となってしまった。さらに、画一的な組織名や規約、過大な組織構造が足かせとなり、地域づくり協議会の活動は停滞するとともに、住民からはその存在が認知すらされないような組織に陥っていった。

こうした状況を打破するために、佐用町では2018年度に「地域づくり協議会あり方検討委員会」を設けて協議・検討し、「地域づくり協議会あり方再構築の方針」を策定した。この方針には、地域運営組織である地域づくり協議会の役割が改めて明示され(表2)、2019年度から3か年計画で、全ての地域づくり協議会の見直しに着手した。具体的には、組織体制の見直し、地域課題の洗い出し、多様な主体の参画促進、まちづくり計画の見直し、活動内容の見直し、新規事業への着手などを行った。見直しにあたっては、合計8名の兵庫県地域再生アドバイザーが地域に関わり、話し合いの促進、会議のあり方改革、合意形成の改善などについて、伴奏型の支援を継続してきた。

また、行政側による地域への向き合い方改革もはじまった。第1に、従来から設置されている「まちづくり推進会議」において、町全体の地域課題解決に関する具体的な協議が行われるように改革された。また、アドバイザー会議を定期的で開催し、協働のまちづくりに関する「戦略会議」として位置づけ、行政に対する諮問機関的な役割を果たすようになった。さらに、役場職員や社会福祉協議会職員によるプロジェクトチーム会議も設置され、庁内連携や情報共有を推進していった。この他、役場の職員研修、地域づくり協議会に関するニュースレターの発行、地域に対する「出前講座」の実施、町民への情報発信、「フォーラム」の実施、大学との共同研究による基礎データの収集など、きめ細かい対応が続いている。

佐用町における一連の改革は、「みんなの地域づくり協議会活力向上プロジェクト」(通称「みん活」)と称し、地域住民、行政、アドバイザー等、多様な主体が関わり、文字通り「みんな」が関わって推進された。徐々にではあるが、「みん活」の成果はあがってきており、各地域

表2 佐用町が設定する地域づくり協議会（地域運営組織）が担う役割と役割を担う理由

地域づくり協議会の役割		地域づくり協議会が役割を担う理由
「守り」	身近な暮らしを守る ①自治会の補完機能の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子・高齢化などにより、今後ますます自治会の維持や活動が困難になることが予想されるため</li> <li>・ 広い範囲や複数の自治会で実施するほうがよい取り組みについて広域的に実施するため</li> </ul>
	地域の課題を解決する ②地域課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくため</li> <li>・ 若者が住み続け、結婚・出産・子育てがしやすい地域を作っていくため</li> <li>・ 地域全体で、将来を見据えた取り組みを行っていくため</li> </ul>
「攻め」	地域の魅力を発見する ③地域資源の発掘・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の魅力を発掘・再認識し、地域に愛着を持つため</li> <li>・ 地域外へ魅力をPRし、都市住民との交流や観光客誘致などにより、地域を活性化させていくため</li> <li>・ 伝統芸能や文化などを継承し、後世に引き継いでいくため</li> </ul>
	いろんな人が参加する ④多様な主体の参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な人が参画することで、多様なアイデアや技能を地域づくり活動に活かすことができるため</li> <li>・ 地域外の住民や企業などの参画により、地域づくり活動に必要な人材を新たに確保することもできるため</li> </ul>

（佐用町「地域づくり協議会あり方再構築の方針」をもとに加筆して作成）

づくり協議会では具体的な地域課題の解決に取り組めるようになった。今後は、後継となる担い手の育成、女性・若者・子どもなど、多様な主体による地域づくりへの参画、地域外住民が参画する地域づくりの仕組みづくりなどが期待される。

## 5. おわりに

地域運営組織は、既存の地縁型組織とは異なるオルタナティブな地域組織である。これまで、全国各地で地域運営組織は設立され、一定の成果を挙げてきた。地域運営組織が年々増加していることが、その優位性を物語っている。一方で、組織は設立されるものの、本質的課題解決に向き合う組織が少ないことが懸念される。さらに、2025年を目前に控え、地域運営組織の担い手であった「団塊の世代」の引退による担い手不足が懸念される。今後は、組織の弱体化が進み、組織の維持すらできないこともあり得る。

これまで、地域運営組織は対症療法的に地域課題解決を行ってきた。今後は、地域課題が生まれる要因そのものを取り払う根本療法を行う必要があると思われる。すなわち、地域の人口

減少や高齢化にあわせて、地域の機能、組織、行事そのものをダウンサイジングし、「小さくても持続する」地域を構築していくべきであろう。人口減少社会を生き抜くためには、このような地域の仕組み自体を身軽にしていき、いつまでも楽しく幸せに生きていける地域を構築していく必要がある。このような考え方を「縮充」と呼び<sup>4)</sup>、いくつかの自治体においてその取り組みをはじめようとしている。地域運営組織についても、これまでは設立することが目的化してきたきらいがある。今後は、「縮充」の担い手として、新たな試みを主体的に行っていくことが期待される。

注：

- 1) 正式には、農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業という。農村RMOモデル形成支援と、農村RMO伴走支援体制の構築を目指している。
- 2) 総務省地域力創造グループ地域振興室（2022）：「令和3年度地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業報告書」総務省、193p.
- 3) 複数回答が可能。

4) 地域づくりにおいて、「縮充」を提唱したのは、山崎 (2016) がはじめてであると思われる。山崎 亮 (2016):『縮充する日本:「参加」が創り出す人口減少社会の希望』PHP研究所、445p.

### 【プロフィール】

作野 広和 (さくの ひろかず)

役職：島根大学教育学部社会科教育専攻 教授

専門分野：人文地理学、地域づくり、集落・コミュニティ研究

委員等：国土審議会特別委員、総務省過疎問題懇談会構成員、総務省地域運営組織に関する研究会委員、農林水産省鳥獣害対策アドバイザー、島根県中山間地域研究センター客員研究員 等





## 令和4年度中国支部第52回定時総会

令和4年4月26日(火)、広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋ホール4Aにおいて、会員会社の代表者、役員その他関係者の出席のもと、第52回中国支部定時総会が開催されました。

令和3年度の事業報告、収支決算の承認に引き続き令和3年度活動計画、予算案の報告が行われました。

総会に引き続き、長年にわたり支部理事を務められ令和3年度をもって退任されました、松

原利直様と、長年にわたり支部監事を務められていました上原孝博様に「感謝状」が小田支部長から授与されました。

続いて、業務部会委員として積極的に支部活動の取組みをされた藤原博昭氏に「功労表彰」が小田支部長から授与されました。

その後、協会本部副会長兼専務理事の酒井利夫氏による「最近の建設コンサルタントを巡る状況等について」と題して特別講演が行われました。



特別講演会 酒井副会長

## 役員会

### ●第1回役員会

開催日：令和4年7月11日(月)

於：復建調査設計㈱会議室

内 容：(1)総務部会の活動について  
(2)業務部会の活動について  
(3)技術部会の活動について  
(4)厚生部会の活動について

### ●第2回役員会

開催日：令和5年1月24日(火)

於：復建調査設計㈱会議室

内 容：(1)第53回定時総会の開催日程について  
(2)第53回定時総会の議案について  
(3)役員改選について  
(4)その他

## 役員、常設部会委員の異動

### ●支部理事

	新支部理事	←	前支部理事
株式会社ウエスコ	北村 彰 秀		松原 利 直
	新支部理事	←	前支部理事
パシフィックコンサルタンツ株式会社	木村 誠		峯谷 明

### ●支部監事

	新支部監事	←	前支部監事
株式会社福山コンサルタント	小笹 俊 成		上原 孝 博

### ●総務部会委員

	新委員	←	前委員
株式会社長大	大塚 真 弘		香川 昭之介

### ●業務部会委員

	新委員	←	前委員
株式会社福山コンサルタント	小笹 俊 成		樋野 光 宏
	新委員	←	前委員
中電技術コンサルタント株式会社	佐伯 隆 之		蔦川 徹
	新委員	←	前委員
株式会社建設技術研究所	端 健 司		三砂 利 明
	新委員	←	前委員
荒谷建設コンサルタント株式会社	下山 勉		安田 眞 一 (ウエスコ)

### ●厚生部会委員

	新委員	←	前委員
株式会社長大	栢 裕一郎		貞入 将 人

### ●総務部会鳥取県委員長

	新委員長	←	前委員長
シンワ技研コンサルタント株式会社	井上 孝 之		下山 勉 (荒谷建設コンサルタント)

### ●独占禁止法に関する特別委員会

	新委員	←	前委員
復建調査設計株式会社	藤本 睦		行竹 和 幸
	新委員	←	前委員
株式会社ウエスコ	仲井 貴 義		佐野 茂 樹

### ●JCCA中国編集委員

	新委員	←	前委員
株式会社福山コンサルタント	小笹 俊 成		樋野 光 宏

## 総務部会等の開催

### ●第1回総務部会・県委員長合同会議

開催日：令和4年6月22日(水)  
場 所：TKPガーデンシティ広島駅前大橋  
カンファレンスルーム5B

議 題：

(1)令和3年度活動報告及び令和4年度の活動について

#### ①総務部会の活動

- ・土木技術者育成会議報告
- ・高専、大学での業界説明会(報告・予定)
- ・RCCM資格試験について
- ・災害時対応演習について
- ・建設技術フォーラム開催について
- ・新しい広報活動(まちあるき)について

#### ②各県委員会の活動

(2)第1回役員会について  
(3)その他

### ●第2回総務部会

開催日：令和4年12月20日(火)  
場 所：建設コンサルタンツ協会中国支部  
エイトビル2階会議室

議 題：

- (1)令和4年度第2回役員会について
- (2)第53回定時総会について
- (3)特別講演会開催について
- (4)表彰者推薦について
- (5)リクルート計画について
- (6)広報活動について
- (7)その他

### ●第26回中国支部若手の会

開催日：令和4年6月22日(水) Web会議  
議 題：令和4年度活動内容の検討

### ●第27回中国支部若手の会

開催日：令和4年7月27日(水)  
場 所：荒谷建設コンサルタント本社  
議 題：活動報告  
・本部若手の会活動報告  
全体討議  
・生産性向上WG、業界PRWGの方向性についてチームごとの検討  
・その他

### ●第28回中国支部若手の会

開催日：令和4年9月30日(金)  
場 所：市内レンタルスペース  
議 題：生産性向上、業界PRについて  
厚生部会との意見交換会

### ●第1回JCCA中国編集会議

開催日：令和4年10月27日(木)  
場 所：建設コンサルタンツ協会中国支部  
エイトビル2階会議室  
議 題：JCCA中国VOL.51の編集について

### ●第29回中国支部若手の会

開催日：令和4年11月9日(水)  
場 所：電気通信媒介業協会広島校舎  
議 題：生産性向上、業界PRについて具体的施策

## 国土交通功労表彰

令和4年度の国土交通功労表彰は、中国地方整備局の令和3年度事業を対象として、令和4年7月21日(木)、ホテルメルパルク広島6階[瑞雲]で功労者の表彰が行われました。中国支部会員の受賞は次のとおりです。

### ●業務関係受賞者

受賞種別	受賞総数	内会員受賞数	会員比率(%)
優良業務請負団体局長表彰	32	27	84.38
優良業務請負団体事務所長表彰	34	28	82.35
計	66	55	83.33
優秀建設技術者局長表彰	32	27	84.38
優秀建設技術者事務所長表彰	34	28	82.35
計	66	55	83.33
合計	132	110	83.33



国土交通功労表彰式会場写真



表彰者全体写真



中国地方整備局長から会員の受賞写真

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰(局長表彰)

表彰区分	部門	会社名	業務名	事務所名
局長表彰	土木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和2年度広島国道事務所管内修繕設計業務	広島国道事務所
	土木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	鳥取河川国道事務所管内交安測量詳細設計業務	鳥取河川国道事務所
	補償	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和2年度広島西部山系管内砂防事業補償説明等業務	広島西部山系砂防事務所
	土木	中電技術コンサルタント 株式会社	令和3年度倉吉管内橋梁補修設計他業務	倉吉河川国道事務所
	土木	中電技術コンサルタント 株式会社	令和3年度湖陵多岐道路外設計業務	松江国道事務所
	土木	株式会社 ヒロコン	令和2年度岩国・大竹道路測量設計業務	広島国道事務所
	土木	株式会社 ヒロコン	令和3年度笠岡バイパス道路設計他業務	岡山国道事務所
	土木	復建調査設計 株式会社	令和3年度依山・豊田道路依山地区構造物詳細設計外業務	山陰西部国道事務所
	土木	株式会社 総合技術コンサルタント	令和3年度藤生長野バイパス大坪橋外橋梁予備設計業務	山口河川国道事務所
	土木	株式会社 長大	令和2年度福山道路地頭分第1高架橋詳細設計業務	福山河川国道事務所
	土木	株式会社 長大	令和2年度志戸坂峠防災坂根地区外橋梁予備設計業務	鳥取河川国道事務所
	土木	株式会社 福山コンサルタント	令和3年度岡山国道管内交通量推計業務	岡山国道事務所
	土木	株式会社 福山コンサルタント	令和3年度中国圏広域地方計画外検討業務	企画部
	土木	八千代エンジニアリング 株式会社	令和3年度橋梁定期点検講習ツール作成業務	中国道路メンテナンスセンター
	港湾空港	八千代エンジニアリング 株式会社	広島沿岸壁構造検討業務	広島港湾空港技術調査事務所
	土木	八千代エンジニアリング 株式会社	令和3年度江の川・高津川事前防災行動計画検討外業務	浜田河川国道事務所
	土木	株式会社 建設環境研究所	令和3年度江の川上流環境整備事業評価検討業務	三次河川国道事務所
	土木	株式会社 エイト日本技術開発	令和2年度小田川付替環境調査他業務	高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所
	土木	応用地質 株式会社	令和3年度太田川水系水辺現地調査(両爬嘴)業務	太田川河川事務所
	地質調査	応用地質 株式会社	令和2年度福山河川国道事務所管内道路施設点検業務	福山河川国道事務所
	土木	令和2年度三次河川国道事務所管内道路防災設計その2業務 いであ・中国開発調査設計共同体	令和2年度三次河川国道事務所管内道路防災設計その2業務	三次河川国道事務所
	港湾空港	いであ 株式会社	広島県東部地域沿岸域環境調査業務	広島港湾・空港整備事務所
	地質調査	基礎地盤コンサルタント 株式会社	令和2年度中国管内道路防災診断業務	中国技術事務所
	港湾空港	基礎地盤コンサルタント 株式会社	徳山下松港新南陽地区土質調査	宇部港湾・空港整備事務所
	土木	株式会社 建設技術研究所	令和2年度高梁川水系河川整備計画他検討業務	岡山河川事務所
	土木	株式会社 タイヤコンサルタント	令和2年度山口トンネル点検業務	山口河川国道事務所
土木	日本工営 株式会社	令和2・3年度岡山三川河川管理施設監理検討業務	岡山河川事務所	

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰（事務所長表彰）

表彰区分	部 門	会 社 名	業 務 名	事務所名
事務所長表彰	土 木	殿ダム管理フォローアップ検討外業務 水源地環境センター・パシフィックコンサルタンツ設計共同体	令和3年度殿ダム管理フォローアップ検討他業務	鳥取河川国道事務所
	土 木	復建調査設計 株式会社	令和2年度倉吉管内橋梁点検外業務	倉吉河川国道事務所
	土 木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度大山砂防自然環境調査業務	日野川河川事務所
	土 木	令和3年度松江国道事務所管内橋梁点検効率化検討業務 いであ・インフラ・ストラクチャーズ設計共同体	令和3年度松江国道事務所管内橋梁点検効率化検討業務	松江国道事務所
	土 木	パシフィックコンサルタンツ株式会社	令和3年度松江・出雲都市圏道路網検討業務	松江国道事務所
	土 木	復建調査設計 株式会社	令和3年度松江国道事務所管内道路マネジメント業務	松江国道事務所
	土 木	株式会社 建設技術研究所	令和3年度斐伊川流域治水効果検討業務	出雲河川事務所
	土 木	日本工営 株式会社	令和2年度尾原ダム下流土砂還元モニタリング調査業務	出雲河川事務所
	測 量	株式会社 ウエスコ	令和3年8月豪雨緊急調査(その1)業務	浜田河川国道事務所
	土 木	いであ 株式会社	令和3年度国道9号益田地区電線共同溝設計業務	浜田河川国道事務所
	土 木	株式会社 建設技術研究所	旭川中上流ダム健全度評価業務	岡山河川事務所
	地質調査	株式会社 ウエスコ	令和2年度旭川中上流ダム地質調査その4業務	岡山河川事務所
	地質調査	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和2年度笠岡バイパス鋼管地区外地質調査業務	岡山国道事務所
	土 木	株式会社 ウエスコ	令和3年度国道180号測量設計業務	岡山国道事務所
	土 木	いであ 株式会社	令和2年度福山道路地頭分地区外設計業務	福山河川国道事務所
	土 木	復建調査設計 株式会社	令和3年度三次管内道路マネジメント業務	三次河川国道事務所
	測 量	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度太田川矢口第一流量観測外業務	太田川河川事務所
	土 木	いであ 株式会社	令和3年度安芸バイパス神原地区外測量設計業務	広島国道事務所
	土 木	日本工営 株式会社	令和2年度西条維持出張所管内道路施設点検業務	広島国道事務所
	土 木	中電技術コンサルタント株式会社	令和3年度無人航空機溪流点検方法検討業務	広島西部山系砂防事務所
	土 木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度佐波川岸見地区設計他業務	山口河川国道事務所
	土 木	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	令和2年度岩国トンネル検討業務	山口河川国道事務所
	土 木	シンワ技研コンサルタント株式会社	令和3年度岩国防府地区交安設計業務	山口河川国道事務所
	土 木	令和3年度八田原ダム水質保全対策外検討業務 水源地環境センター・建設環境研究所・西日本技術開発設計共同体	令和3年度八田原ダム水質保全対策外検討業務	八田原ダム管理所
	測 量	西部技術コンサルタント株式会社	令和3年度苫田ダム堆砂測量他業務	苫田ダム管理所
	港湾空港	いであ 株式会社	浜田港福井地区防波堤(新北)環境調査	境港湾・空港整備事務所
	港湾空港	いであ 株式会社	水島港環境調査	宇野港湾事務所
	港湾空港	日本工営 株式会社	広島港宇品地区岸壁(-12m)実施設計等業務	広島港湾・空港整備事務所

●『国土交通功労者』優良業務請負団体表彰（部長表彰）

表彰区分	部門	会社名	業務名	事務所名
部長表彰	土木	日本工営株式会社	令和2年度大規模災害活動計画検討業務	統括防災官
	土木	パシフィックコンサルタンツ株式会社	令和3年度中国管内小規模河川氾濫推定図関連検討業務	河川部
	港湾空港	復建調査設計株式会社	瀬戸内海総合水質調査データ整理等業務	港湾空港部

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

表彰区分	部門	氏名	会社名	業務名	事務所名
局長表彰	土木	矢田 淳一	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和2年度広島国道事務所管内修繕設計業務	広島国道事務所
	土木	山本 直子	中電技術コンサルタント株式会社	令和3年度倉吉管内橋梁補修設計他業務	倉吉河川国道事務所
	土木	野田 直樹	株式会社 ヒロコン	令和2年度岩国・大竹道路測量設計業務	広島国道事務所
	土木	宮里 隆	復建調査設計株式会社	令和3年度依山・豊田道路依山地区構造物詳細設計外業務	山陰西部国道事務所
	土木	竹野 剛	株式会社 福山コンサルタント	令和3年度岡山国道管内交通量推計業務	岡山国道事務所
	土木	日高 卓也	株式会社 長大	令和2年度福山道路地頭分第1高架橋詳細設計業務	福山河川国道事務所
	土木	日高 卓也	株式会社 長大	令和2年度志戸坂峠防災坂根地区外橋梁予備設計業務	鳥取河川国道事務所
	土木	反田 恒	株式会社 総合技術コンサルタント	令和3年度藤生長野バイパス大坪橋外橋梁予備設計業務	山口河川国道事務所
	土木	山本 浩貴	八千代エンジニアリング株式会社	令和3年度橋梁定期点検講習ツール作成業務	中国道路メンテナンスセンター
	港湾空港	国生 隼人	八千代エンジニアリング株式会社	広島港岸壁構造検討業務	広島港湾空港技術調査事務所
	土木	黒石 和宏	株式会社 建設環境研究所	令和3年度江の川上流環境整備事業評価検討業務	三次河川国道事務所
	土木	岡田 博明	株式会社 ヒロコン	令和3年度笠岡バイパス道路設計他業務	岡山国道事務所
	土木	進藤 俊則	株式会社 エイト日本技術開発	令和2年度小田川付替環境調査他業務	高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所
	土木	播磨 さおり	応用地質株式会社	令和3年度太田川水系水辺現地調査（両爬嘴）業務	太田川河川事務所
	土木	吉森 誠	中電技術コンサルタント株式会社	令和3年度湖陵多伎道路外設計業務	松江国道事務所
	土木	川上 浩太	令和2年度三次河川国道事務所管内道路防災設計その2業務 いであ・中国開発調査設計共同体	令和2年度三次河川国道事務所管内道路防災設計その2業務	三次河川国道事務所
港湾空港	水野 博史	いであ株式会社	広島県東部地域沿岸域環境調査業務	広島港湾・空港整備事務所	

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

表彰区分	部門	氏名	会社名	業務名	事務所名
局長表彰	土木	山下 健作	八千代エンジニアリング株式会社	令和3年度江の川・高津川事前防災行動計画検討外業務	浜田河川国道事務所
	地質調査	三浦 健一郎	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	令和2年度中国管内道路防災診断業務	中国技術事務所
	港湾空港	長谷川 勝喜	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	徳山下松港新南陽地区土質調査	宇部港湾・空港整備事務所
	土木	福井 洋幸	株式会社建設技術研究所	令和2年度高梁川水系河川整備計画他検討業務	岡山河川事務所
	地質調査	松井 宏樹	応用地質株式会社	令和2年度福山河川国道事務所管内道路施設点検業務	福山河川国道事務所
	土木	大田 健太郎	株式会社福山コンサルタント	令和3年度中国圏広域地方計画外検討業務	企画部
	土木	富山 博司	株式会社荒谷建設コンサルタント	鳥取河川国道事務所管内交安測量詳細設計業務	鳥取河川国道事務所
	土木	能美 享	日本工営株式会社	令和2・3年度岡山三川河川管理施設監理検討業務	岡山河川事務所
	土木	遠山 国彦	株式会社ダイヤコンサルタント	令和2年度山口トンネル点検業務	山口河川国道事務所
	補償	福井 竜則	株式会社荒谷建設コンサルタント	令和3年度広島西部山系管内砂防事業補償説明等業務	広島西部山系砂防事務所
事務所長表彰	土木	坂本 和雄	殿ダム管理フォローアップ検討外業務 水源地環境センター・パンフィックコンサルタンツ設計共同体	令和3年度殿ダム管理フォローアップ検討他業務	鳥取河川国道事務所
	土木	天満 真士	復建調査設計 株式会社	令和2年度倉吉管内橋梁点検外業務	倉吉河川国道事務所
	土木	安東 新吾	株式会社荒谷建設コンサルタント	令和3年度大山砂防自然環境調査業務	日野川河川事務所
	土木	都関 雄介	令和3年度松江国道事務所管内橋梁点検効率化検討業務 いであ・インフラ・ストラクチャーズ設計共同体	令和3年度松江国道事務所管内橋梁点検効率化検討業務	松江国道事務所
	土木	藤見 俊彦	パンフィックコンサルタンツ株式会社	令和3年度松江・出雲都市圏道路網検討業務	松江国道事務所
	土木	酒井 秀和	復建調査設計 株式会社	令和3年度松江国道事務所管内道路マネジメント業務	松江国道事務所
	土木	森川 浩	株式会社建設技術研究所	令和3年度斐伊川流域治水効果検討業務	出雲河川事務所
	土木	福田 悠太	日本工営株式会社	令和2年度尾原ダム下流土砂還元モニタリング調査業務	出雲河川事務所
	測量	吉原 勝治	株式会社ウエスコ	令和3年8月豪雨緊急調査(その1)業務	浜田河川国道事務所
	土木	浅利 貴之	いであ株式会社	令和3年度国道9号益田地区電線共同溝設計業務	浜田河川国道事務所



●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

表彰区分	部門	氏名	会社名	業務名	事務所名
事務所長 表彰	土木	矢野 晶人	株式会社 建設技術研究所	旭川中上流ダム健全度評 価業務	岡山河川事務所
	地質調査	安藤 秀一	株式会社 ウエスコ	令和2年度旭川中上流ダ ム地質調査その4業務	岡山河川事務所
	地質調査	北川 達	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和2年度笠岡バイパス 鋼管地区外地質調査業務	岡山国道事務所
	土木	秋田 悦史	株式会社 ウエスコ	令和3年度国道180号 測量設計業務	岡山国道事務所
	土木	重田 淳	いであ株式会社	令和2年度福山道路地頭 分地区外設計業務	福山河川国道事務所
	土木	森 三千浩	復建調査設計 株式会社	令和3年度三次管内道路 マネジメント業務	三次河川国道事務所
	測量	清木 智成	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度太田川矢口第 一流観測外業務	太田川河川事務所
	土木	重田 淳	いであ株式会社	令和3年度安芸バイパス 神原地区外測量設計業務	広島国道事務所
	土木	下園 晋一郎	日本工営 株式会社	令和2年度西条維持出張 所管内道路施設点検業務	広島国道事務所
	土木	河井 恵美	中電技術コンサルタント 株式会社	令和3年度無人航空機溪 流点検方法検討業務	広島西部山系 砂防事務所
	土木	梶村 博昭	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和3年度佐波川岸見地 区設計他業務	山口河川国道事務所
	土木	西浦 清貴	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	令和2年度岩国トンネル 検討業務	山口河川国道事務所
	土木	多田 潔史	シンワ技研コンサルタント 株式会社	令和3年度岩国防府地区 交安設計業務	山口河川国道事務所
	土木	坂本 和雄	令和3年度八田原ダム 水質保全対策外検討業 務 水源地環境センター・ 建設環境研究所・西日 本技術開発設計共同体	令和3年度八田原ダム水 質保全対策外検討業務	八田原ダム管理所
	測量	中山 哲也	西部技術コンサルタント 株式会社	令和3年度苫田ダム堆砂 測量他業務	苫田ダム管理所
	港湾空港	水野 博史	いであ株式会社	浜田港福井地区防波堤 (新北) 環境調査	境港湾・空港 整備事務所
港湾空港	飯田 仁士	いであ株式会社	水島港環境調査	宇野港湾事務所	
港湾空港	谷口 史一	日本工営 株式会社	広島港宇品地区岸壁(-12 m) 実施設計等業務	広島港湾・空港 整備事務所	
部長表彰	土木	松尾 環	日本工営 株式会社	令和2年度大規模災害活 動計画検討業務	統括防災官
	土木	原田 大輔	パンフィックコンサルタンツ 株式会社	令和3年度中国管内小規模 河川氾濫推定凶閘連検業務	河川部
	港湾空港	高橋 俊之	復建調査設計 株式会社	瀬戸内海総合水質調査 データ整理等業務	港湾空港部

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ◇中国地方整備局長表彰

#### ●矢田 淳一 氏

会社名：株式会社荒谷建設コンサルタント  
職 位：本社事業部 道路部 道路設計課 担当課長  
趣 味：釣り、自転車



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和2年度広島国道事務所管内修繕設計業務」に対して、中国地方整備局長より優秀建設技術者局長表彰を賜り、誠にありがとうございました。業務を通して、ご指導いただきました広島国道事務所の皆様には心より感謝いたします。

本業務では、越波対策検討、検討委員会対応を実施した大野地区防災対策設計、トンネル補修検討、パラペット転倒箇所対策設計等を実施した修繕設計、災害申請資料作成や崩壊対策設計を実施した2021年7,8月の豪雨災害対応、法面補修設計を実施した防災

カルテ対応を行いました。今回、評価して頂けたのは、局とやりとりを行いながら、大野地区防災対策検討を実施し、業務内で検討委員会を終わらせたこと、またさまざまな作業があり、その都度依頼された作業を迅速に実施したことが大きかったと思います。

国交省業務の管理ができるようになって日が浅く、周りの方に助けられて受賞できたと感じております。まだまだ至らない点が多いですが、日々研鑽してさらに良い動きができるように業務を実施していきたいと思っております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ◇中国地方整備局長表彰

#### ●山本 直子 氏

会社名：中電技術コンサルタント株式会社  
職 位：道路交通部 構造グループ 担当課長  
趣 味：コロナ禍によるアニメ鑑賞



#### ●受賞業務の概要と感想

この度、「令和3年度倉吉管内橋梁補修設計他業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務請負団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。業務遂行にあたり、御指導・御協力を頂きました倉吉河川国道事務所の皆様、ならびに関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。

本業務は、倉吉管内の橋梁の内、11橋の補修設計と1橋の耐震補強設計等を行ったものであり、厳しい塩害環境下にある橋梁の長寿命化に向けての提案や、耐震補強において既存の支承構造を最大限に生かした安価な工法の提案をさせて頂きました。また、コ

ロナ化における現地調査が難しかった上、早期対応の橋梁もあり、出来る限りの対応をさせて頂いたこと、係長並びに担当技術者も含め、女性が多かかった業務となり、それ故、良好な関係の構築と細やかな対応をさせて頂けたことが高評価につながったものと考えております。

昔に比べ、ドボジョは全体人数に対して増えてきており、このような賞を頂いたことは、若手ドボジョへのエールにもつながると思っております。これを励みに、自己研鑽に努め、インフラ整備に微力ながら貢献すると共に、若手技術者の育成に努めたいと考えております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ◇中国地方整備局長表彰

#### ●野田 直樹 氏

会社名：株式会社ヒロコン  
職 位：広島支社 技術部 課長  
趣 味：飲酒、ゴルフ



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和2年度 岩国・大竹道路測量設計業務」に対して、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠に光栄に存じます。業務期間を通じ、ご指導を賜りました広島国道事務所調査設計課の関係者の皆様方には、心よりお礼申し上げます。

本業務は、広島国道事務所管内の一般国道2号岩国・大竹道路の改築関係箇所において、測量、道路設計、一般構造物設計、関係機関協議資料作成、工事発注用資料作成および補償調査等を行ったものです。

特に事業化に向けて課題となっていた各申請資料作成（事業認可・土対法等）に対し非常にタイトなスケジュールで履行する中、多岐にわたる課題に対し、迅速かつフレキシブルに対応し、事業スケジュールの円滑化を図れたことが高評価につながった点かと考えています。

今後はこの表彰を励みに、技術者としてさらなる自己研鑽に邁進し、これからの社会資本整備の一翼を担えるように、個人としても会社としても頑張っていきたいと思っております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●宮里 隆 氏

会社名：復建調査設計株式会社  
職 位：道路・地域整備部 道路技術課  
趣 味：レモン酎ハイの飲みくらべ



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施いたしました「令和3年度岡山・豊田道路岡山地区構造物詳細設計外業務」に対して、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。業務期間を通じ、ご指導いただきました山陰西部国道事務所の皆様方には心より感謝申し上げます。

本業務は、山陰道の一部を形成する国道491号岡山・豊田道路における構造物詳細設計や、これに伴う関係機関との協議資料作成等を行ったものです。本業務では三次元データの活用に着目し、測量・調

査段階から設計段階へ、また設計段階から施工段階へと後工程で活用でき、フロントローディングとなる提案や成果作成を心掛けました。具体的には、設計段階で活用するための三次元地形モデル作成方法の提案、施工段階で利用するための三次元モデルの作成、提案に基づき作成した三次元地形モデルを使用し、事業プロセスを効率化した道路三次元設計の取組み等を評価していただいたと考えております。

今回の受賞を励みとして、さらなる技術力の研鑽に努め、三次元データを活用した建設業界全体の生産性向上に少しでも貢献できるよう邁進していきたいと思っております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●竹野 剛 氏

会社名：株式会社福山コンサルタント  
職 位：次長  
趣 味：磯ふかせ釣り、旅行



#### ●受賞業務の概要と感想

この度、「令和3年度岡山国道管内交通量推計業務」にて中国地方整備局長表彰を受賞いたしました。本業務の遂行にご協力・ご支援いただきました関係者の皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、本業務は、岡山国道事務所管内における道路事業計画の基礎資料となる将来交通量推

計及び費用便益分析を実施したもので、当社の基幹的な技術分野の一つである交通量推計業務で受賞できたことを大変嬉しく思っています。

今回の受賞を糧に、中国地方の道路行政の推進に貢献できるよう引き続き邁進して参りたいと思っております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●日高 卓也 氏

会社名：株式会社長大  
職 位：第二構造事業部 大阪構造技術1部 主幹技師  
趣 味：サッカー（シニア）



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和2年度福山道路地頭分第1高架橋詳細設計業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務及び優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

業務を通じてご指導賜りました福山河川国道事務所の関係者の皆様には、心より厚く御礼を申し上げます。

本業務は、土石流等の警戒区域にも指定される山岳部の高架橋について、土石流リスクの低減を踏まえた橋梁形式選定、橋梁詳細設計を行ったものです。詳細

な地質情報をもとに土石流のリスクを検証したうえで、リスクを低減できる下部構造の配置と構造形式を検討し、重要度の高い道路における信頼性向上、山岳部の維持管理の確実性や施工性の向上、コスト縮減等に対し積極的に取り組んだことが高い評価を頂いたものと考えております。

今回の受賞を励みに、更なる自己研鑽に努め、業界全体の課題となっている技術の継承や人材の育成にも取り組み、信頼性が高く持続性のある社会資本整備に微力ながら貢献していきたいと考えております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●日高 卓也 氏

会社名：株式会社長大

職 位：第二構造事業部 大阪構造技術1部 主幹技師

趣 味：サッカー（シニア）



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和2年度志戸坂峠防災根拠地区外橋梁予備設計業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務及び優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。

業務を通じてご指導賜りました鳥取河川国道事務所の関係者の皆様には、心より厚く御礼を申し上げます。

本業務は、一般国道373号の防災対策として、冬季のスタックや交通事故による交通途絶の回避を目的として整備するバイパスの高架橋4橋について、事業目的と路線の整合性を踏まえ、架橋地に最適な橋梁

形式の選定（予備設計）を行ったものです。

線形や地形的な制約から、構造制限を受けることや、河川付け替えや既設橋の拡幅が必要となる全体計画において、近接施工等に対する施工実現性、路面凍結や維持管理の容易さ等の配慮、現道の損傷実態等を検討し、経済性など総合的な観点から最適な橋梁形式の選定に積極的に取り組んだことが高い評価を頂いたものと考えております。

今回の受賞を励みに、更なる自己研鑽に努め、業界全体の課題となっている技術の継承や人材の育成にも取り組み、信頼性が高く持続性のある社会資本整備に微力ながら貢献していきたいと考えております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●反田 恒 氏

会社名：株式会社総合技術コンサルタント

職 位：部長

趣 味：写真撮影（最近はカメラを眺めるばかりです）



#### ●受賞業務の概要と感想

本業務は、山口県岩国市に計画された一般国道188号藤生長野バイパスにおける橋梁予備設計です。当路線は、多くの箇所が土砂災害警戒区域等に指定されており、橋梁計画にあたっては土石流や地すべりなどに配慮し、橋長や下部工位置を設定しました。

路線は13の橋梁が計画され、同時期に6業務の橋梁予備設計が行われたことから、他の設計コンサルタントと協同して、基本方針の設定や土砂災害に配慮した橋梁計画を検討させていただきました。各社が

ら様々な意見が出て、建設的に業務を進めることができ、関係機関との協議や条件設定は、発注者の指導のおかげでスムーズに進めることが出来ました。

当業務で高評価を頂いた要因として、他社と建設的なやり取りをさせていただけたこと、そのような場を作り出した発注者によるところが大きいと思っております。最後になりましたが、表彰を頂きました山口河川国道事務所の皆さまに御礼申し上げます。今回の表彰を励みとし、この賞に恥じぬ様日々精進してまいります。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●山本 浩貴 氏

会社名：八千代エンジニアリング株式会社

職 位：事業統括本部 社会マネジメント事業室 技術第二課 シニアコンサルタント

趣 味：映画鑑賞



#### ●受賞業務の概要と感想

この度、「令和3年度橋梁定期点検講習ツール作成業務」に対し、中国地方整備局長より、優良業務及び優秀技術者表彰を賜り、厚く御礼申し上げます。

本業務では、橋梁のメンテナンスサイクル（点検－診断－措置－記録）を回すための体制整備・人材育成を目的として、中国地整管内の直轄職員や自治体職員を対象とした、インフラDXの一環となる、VRを活用した橋梁定期点検に係る講習ツールを作成しました。コンセプトは、特に自治体における橋梁点検の初心者向けに、直営点検など今後の橋梁定期点検に係る実務または継続的な技術研鑽に向けた足掛かり

となる基礎的事項を習得するものとししました。また、VRを活用する意義を考慮し、VR実習のテーマを「診断」と設定した上で、VRツールは、様々なシーン（講習会用／任意設定用）を再現可能、かつ診断に必要な着視点・行為を機能として実装しました。

令和4年度より、実際に当該VRを活用した講習会が運営されていることに嬉しく存じます。今回の経験や受賞を励みに、特にリソース不足等に悩む自治体における持続可能なインフラ維持管理の仕組みづくりをはじめ、改めて広い視野で社会課題の解決策を考えて参ります。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●国生 隼人 氏

会社名：八千代エンジニアリング株式会社  
職 位：九州支店 河川・水工部 技術第四課 課長  
趣 味：釣り、キャンプ



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は「広島港岸壁構造検討業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、広島港出島地区の国際海上コンテナターミナルについて、貨物需要の増大やコンテナ船の大型化等への対応のため暫定整備を行う150m区間の岸壁(-12m)、及び背後エプロンの外周護岸(仮護岸)の基本設計を行ったものです。

河口付近に設置されるため、整備に伴う河川への影響を確認する必要があったことから、河川計画の専門技術者も執行体制に加え、総合力を発揮して取

り組んだ点、BIM / CIM活用業務であり、各施設の接続部など複雑な構造となる部分について、3次元モデルを用いて分かり易い資料作成を行った点、および検討工程がタイトでしたが、これまでの経験等より検討結果をある程度予測するなどし、効率的な最適構造・諸元の絞り込みを行った点などが評価されたと感じています。

最後になりましたが、業務期間中、ご指導また資料提供等に速やかに対応頂きました広島港湾空港技術調査事務所の関係者の皆様、業務に関わった担当者一同に心より感謝致します。今回の受賞を励みに一層の技術の向上に努めてまいります。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●黒石 和宏 氏

会社名：株式会社 建設環境研究所  
職 位：部長  
趣 味：まち歩き



#### ●受賞業務の概要と感想

本業務は、広島県三次市が進めている「三次市三川合流部かわまちづくり」について、国土交通省が整備を行う水辺整備に対し、事業評価を実施し、委員会に諮るための資料を作成した業務です。分析自体は、手引きに従い実施するものですが、受益範囲の妥当性や、仮想市場法(CVM)による調査票のわかりやすさ、アンケート対象の公平な抽出、工期内での実施等において、これまでの業務経験を活かし、効率的に実施できたものと考えます。

業務期間がコロナ禍と重なり、現地利用者数が正確に計測できないことから、以下の工夫を実施し、

利用者数増などの効果を把握しました。1つは、現地利用者へのアンケートにおいて、スマホなどの非接触方式で回答できるようにし、満足度等を把握したこと。2つ目は、携帯位置情報のビックデータを扱い、整備箇所の人流や移動地点を集計することにより、コロナによる利用者の行動変化や観光客の誘致圏を把握したことです。

本業務の遂行においては、調査計画設計、調査、効果分析、事業評価、会議運営など、多数の項目を短時間で実施する必要がありましたが、発注者の迅速な判断・調整等により、無事完遂できたことに感謝しております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●岡田 博明 氏

会社名：株式会社ヒロコン  
職 位：福山支社 技術部 支社長  
趣 味：釣り、スポーツ



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和3年度笠岡バイパス道路設計他業務」に対して、中国地方整備局長より優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、岡山国道事務所管内の一般国道2号笠岡バイパスの改築関係箇所において、測量、道路詳細設計、協議資料作成、平面交差点設計、立体交差点設計、一般構造物設計および用地調査等を行ったものですが、事業化に向けて関係機関調整等も多く非常にタイトなスケジュールで履行する中、多岐にわた

る課題に対し、迅速性および正確性を持って柔軟な対応に努めたことが高評価につながった点かと考えています。

今回の受賞は心から嬉しく思っており、今回の受賞を励みに、土木技術者として更なる資質向上に努め、社会資本整備に貢献するとともに、若手技術者の技術力やモチベーションの向上に努めて参りたいと思います。

最後になりましたが、業務期間中、ご指導賜りました岡山国道事務所の関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●進藤 俊則 氏

会社名：株式会社エイト日本技術開発  
職 位：中国支社 副支社長  
趣 味：テニス、釣り、旅行



#### ●受賞業務の概要と感想

このたびは、「令和2年度小田川付替環境調査他業務」に対し中国地方整備局長より優良業務表彰及び優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。

本業務は、小田川合流点付替え事業に伴う環境影響評価後の事後調査モニタリングとして、工事中の周辺環境への影響を把握するため大気環境、水環境、動植物、生態系等の現地調査及び環境保全措置の実施状況調査を行ったものです。

業務背景、過年度からの経緯をもとに、解決すべ

き課題の整理とその対応、工事進捗・現地状況に伴う適時の対応ならびに地元対応等によって課題解決に至ったことに対して評価をいただいたものと考えています。

担当者一同、本受賞を励みにさらなる資質向上に努めるとともに、次世代を見据えた人材育成にも取り組んでいく所存です。業務を通してご指導いただきました高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所の皆様には心より御礼申し上げます。また、社内関係者の方にも感謝いたします。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●播磨 さおり 氏

会社名：応用地質株式会社  
職 位：地球環境事業部 自然環境部 専門職  
趣 味：道の駅巡り



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施した「令和3年度太田川水系水辺現地調査(両爬哺)業務」に対して中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は河川水辺の国勢調査の一環として、太田川水系の河川および温井ダムを対象に、両生類・爬虫類・哺乳類調査を実施したものです。これらの生き物は、糞や足跡などの痕跡でしか確認できないことが普通ですが、今回の調査ではより多くの姿をカ

メラに収められたこと等、その存在を明らかにできたことが評価につながったものと考えております。

この表彰を励みに、今後も社会資本の整備と自然環境の保全に寄与できるように、より一層の努力と技術力向上に努めてまいります。最後になりましたが、業務期間中、ご指導賜りました太田川河川事務所および温井ダムの関係者の皆様、調査にご協力いただきました中国電力の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●吉森 誠 氏

会社名：中電技術コンサルタント株式会社  
職 位：道路交通部 構造グループ グループ長  
趣 味：サウナからのハイボール、釣り



#### ●受賞業務の概要と感想

この度、「令和3年度湖陵多伎道路外設計業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務請負団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜りましたことは、この上ない喜びであり光栄に思っております。業務遂行にあたり、御指導・御協力を頂きました松江国道事務所の皆様、ならびに関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。

本業務は、一般国道9号出雲湖陵道路、湖陵多伎道路において、幅広く設計や施工対応を行ったものです。円滑な事業促進に向けて、妥当性の高い技術提案に加え、「迅速性・柔軟性」や「密なコミュニケーション」による発注者との良好な信頼関係の構築に注力す

るとともに、延長約10kmにわたる当路線の3次元モデルを作成し、完成イメージ動画としての活用や道路付属物相互の見え方の確認、今後の道路管理ツールの基盤となるデータ作成に意欲的に取り組んだことが評価されたものと思っております。

この度の受賞を励みに、今後も土木技術者としてより一層の技術研鑽に努め、人々が安全・安心して暮らせる社会資本整備に微力ながら貢献するとともに、将来を担う若手技術者の育成や指導に努めたいと思います。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●川上 浩太 氏

会社名：いであ株式会社  
職 位：中国支店 道路部 グループマネージャー  
趣 味：スポーツ観戦、音楽鑑賞



#### ●受賞業務の概要と感想

この度、「令和2年度三次河川国道事務所管内道路防災設計その2業務」に対し、中国地方整備局長より優秀技術者表彰を賜りました。業務期間中、ご指導いただきました三次河川国道事務所をはじめ関係者の皆さまに、厚く御礼を申し上げます。

本業務は、尾道松江自動車道および国道54号において、防災カルテ箇所および法面変状箇所の対策設計、災害復旧工事の設計支援、設計のための測量・地質調査などを行ったもので、いであ株式会社と中国開発調査株式会社の設計共同体で対応した業務になります。特に、吉舎ICの災害復旧工事に対する設計

支援では、工事中に生じた変状等について詳細調査・対策立案・詳細設計などを行い、発注者・施工業者・点検業者などと協働して安全な工事実施と効果的な対策立案の両立を図れたこと、業務中に発生した令和3年7月および8月豪雨による影響も含めて地すべり変状の抑制に確実な効果が得られたこと、工事中および工事後の計測管理計画を立案して路線の安全管理等に寄与したこと等を評価されたものと考えております。

今回の受賞を励みに自己研鑽を重ね、効率的かつ効果的な社会資本整備に微力ながら貢献していきたいと考えています。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●水野 博史 氏

会社名：いであ株式会社  
職 位：中国支店 沿岸・港湾部 グループ長  
趣 味：スポーツ観戦、子供のサッカー応援、釣り、読書



#### ●受賞業務の概要と感想

このたび、弊社が担当した「広島県東部地域沿岸域環境調査業務」に対して中国地方整備局長より優秀技術者表彰を賜りました。

本業務は、中国地方管内の港湾整備事業で発生した浚渫土砂を有効活用して整備された造成干潟・浅場において、海域生物の生息実態や生息場を現地調査し、今後のモニタリング計画を検討したものです。業務遂行にあたっては、造成した干潟・浅場の生物生息の現状把握と改善点を様々な視点から調査・分析し、干潟等造成による生物生息場創出効果を具体

的に示すことができました。また、検討の過程においては、有識者からの技術的助言に加え、干潟等利用者目線での調査を提案・実行し、港湾整備事業の推進と地域社会への貢献を繋げることを意識して対応したことが高評価につながったものと考えています。

今後は、この受賞を励みに、技術力と人間力の向上に継続努力していきたいと考えております。最後になりましたが、広島港湾・空港整備事務所の関係者の皆様にはご指導・ご協力を賜り、この場を借りて深くお礼を申し上げます。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●山下 健作 氏

会社名：八千代エンジニアリング株式会社  
職 位：大阪支店 河川・水工部 技術第二課 課長  
趣 味：温泉めぐり



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和3年度 江の川・高津川事前防災行動計画検討外業務」に対し、中国地方整備局長より優秀技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。業務を通じて指導いただきました浜田河川国道事務所の皆様には心よりお礼申し上げます。

本業務は、水害時の逃げ遅れゼロや社会経済被害の最小化等を目的として、次の各ソフト対策を検討しました。1. 多機関連携型タイムラインの出水時の運用結果を踏まえたタイムライン修正や運用支援ツールの改良。2. 効率的な排水活動のための氾濫状

況の監視手法の立案。3. マイ・タイムライン普及促進のために、広報用動画や講師用引き、浜田版逃げキットの作成。4. 減災協の取組を推進するために、1) 小学生へ水害リスクを伝える防災講座の開催。2) 外国人への水害危険性の理解やスマホを活用した防災情報入手方法等の説明。3) 民間企業が事業継続計画を検討する際のチェックリスト作成。4) まるまちハザードマップ配置計画案の立案。近年災害が多い流域ですので、住民の方の適切な避難行動につながれば幸いです。

今後は、チーム全体でこの受賞を励みとして更なる技術力向上に尽力していく所存です。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●三浦 健一郎 氏

会社名：基礎地盤コンサルタンツ株式会社  
職 位：関東支社 技術副統括部長  
趣 味：犬（パグ）との暮らし



#### ●受賞業務の概要と感想

本業務は、中国地整直轄国道を対象に防災カルテ点検結果の診断評価を行ったものです。当該年度は新型コロナウイルスの影響により、有識者による診断はリモートでの開催となりました。リモートでは、落石源などの危険箇所を直接確認することができません。これに対し、フォトグラメトリを利用した現地露頭の3Dモデル化およびMRデバイスによる3Dモデルの1/1ホログラム表示技術等を活用し、室内に現地危険箇所を再現しました。結果として、安全を確保しつつ有識者の方々から多くの有意義なご意見をいただくことができたと考えています。また、国道9号（出

雲市多伎）で発生した地すべり災害に対して、要請に応え緊急現地調査を行いました。そこでは、得られたLPデータの差分解析から地すべり滑動範囲を視覚化しました。

私は業務半ばで広島から関東支社へ転勤となりました。本業務は中国支社メンバーの力に依るところが大きかったことを記しておきます。併せまして、多くのご指導と協力を頂きました中国技術事務所の各位に深謝の意を表しますとともに、道路防災事業の円滑な進捗を祈念いたします。ありがとうございます。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●長谷川 勝喜 氏

会社名：基礎地盤コンサルタンツ株式会社  
職 位：中国支社 技術統括部長  
趣 味：スポーツ観戦



#### ●受賞業務の概要と感想

当業務は、我が国産業の国際競争力強化に資するバルク物流拠点として、物流機能の強化が図られている徳山下松港新南陽地区の水深14mに対応した公共岸壁の整備に伴う地盤調査でした。業務の目的と内容は、計画構造物の支持層の分布、中間層の物理力学特性および耐震検討に必要な特性値の把握のための土質試験、原位置試験でした。また、建設生産プロセス全体でのBIM / CIMモデルの活用による課題解決および業務効率化を図ることを目的としてボーリング成果等を基に3次元の地質・土質モデルを作成し、これにより、地質リスクを可視化すること

ができました。

調査箇所は、供用中の-12m岸壁に近接した海域であり、海上作業に際し港湾施設の管理者、利用者及び漁業関係者との調整周知を早期に行い、現場作業を安全かつ速やかに行う必要がありました。このような現地状況の中、無事故無災害で現場作業を完了できたのは、発注者である宇部港湾・空港整備事務所の御担当者の御指導、御協力を賜り取り組む事ができたためです。この場をお借りして深くお礼を申し上げます。

今後は、この受賞を励みにさらに技術力の向上に努力したいと考えております。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●福井 洋幸 氏

会社名：株式会社建設技術研究所  
職 位：東京本社 水システム部 次長  
趣 味：食べ歩き（ガチ中華ほか）



#### ●受賞業務の概要と感想

この度、「令和2年度高梁川水系河川整備計画他検討業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰・優秀建設技術者表彰を賜りました。本業務を遂行するにあたり、岡山河川事務所職員の皆様には様々な御指導、御支援を頂きました。この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

高梁川水系支川小田川は、平成30年7月豪雨による堤防決壊や越水が発生し、甚大な被害を被った河川です。本業務は、①同豪雨を踏まえて高梁川水系の治水計画を見直すこと、②再度災害防止に向けた緊急対策「真備緊急治水対策プロジェクト」の推進を補

助すること、③その他、地域再生に向けた取り組みを支援すること等を目的に実施したものです。本成果を踏まえた検討を次年度も継続し、R4.3.24に「高梁川水系河川整備計画【大臣管理区間】（変更）」の策定に至っています。

高梁川は、私が入社以来関わり続けている「MY River」のひとつであり、同河川で高い評価を頂けたことは、一重に当社関係者による支えと事務所職員の皆様とのチームワークの賜物と感謝しております。この受賞を励みとし、技術者としての更なる資質向上、後進の育成等に努めて参ります。



## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●松井 宏樹 氏

会社名：応用地質株式会社

職 位：上級専門職

趣 味：マラソンへの挑戦、将棋の鑑賞



#### ●受賞業務の概要と感想

本業務は、福山河川国道事務所管内の道路施設点検を担うものでした。業務中に複数の施設で緊急の対応が必要となり、事務所や出張所、時により本局の方々と、日々議論やご指導をいただきました。また、維持工事や施工中の業者とも、何度も協働の関係となりました。当然、

弊社側も各専門分野の技術者や事務系職員も参画して鋭意対応するように努めました。それらを通じて、発注者側、各受注者側で協働して取り組む事の重要性を改めて教わりました。

優良業務および優秀建設技術者の表彰を賜り誠にありがとうございます。この経験を今後にも生かしてゆきたいと考えます。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●大田 健太郎 氏

会社名：株式会社福山コンサルタント

職 位：交通・環境マネジメント事業部

趣 味：読書、音楽、ウォーキング

事業部次長



#### ●受賞業務の概要と感想

局長表彰を受賞でき大変光栄です。これもひとえに関係者皆様のおかげです。心より感謝いたします。

本業務は、平成28年に中国圏のランドデザインとして策定した「広域地方計画」について、計画前半期を総括する形で中間評価したものです。策定当時PEST分析をしていたものの、コロナ禍を契機にサプライチェーンの混乱や行動制限など外部環境に大きな変化がありました。例えば、グローバル化が崩れ、経済安全保障も叫ばれる中、これまで効率性を追求していた「ジャスト・イン・タイム」から、今はリスク削減で冗長性を許容する「ジャスト・イン・

ケース」に変容しています。また、人の価値観はより一層多様となり、マス市場や集団浅慮からの脱却もみられ、従来の行き過ぎたステレオタイプへのアンチテーゼも顕在化しています。

中国圏は中山間地域が多く、CO2排出量の多い素材産業の割合も高いため、全国に比べて課題が先行しています。しかし、課題感が大きい故に、次期中国圏広域地方計画では、カーボンニュートラルやデジタル田園都市国家構想の実現に向け、先行して事業構造の転換や最先端技術にも取り組む「将来像」戦略を打ち出したいと思えます。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●富山 博司 氏

会社名：株式会社荒谷建設コンサルタント

職 位：鳥取支社 技術部 次長

趣 味：子供とのお出かけ



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「鳥取河川国道事務所管内交差測量詳細設計業務」に対して、中国地方整備局長より優良業務及び優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。業務を通じてご指導賜りました鳥取河川国道事務所の関係者の皆様には、心より厚くお礼を申し上げます。

本業務は、鳥取河川国道事務所管内の交通安全対策事業の促進を目的として、道路詳細設計、歩道設計、ワイヤーロープ式防護柵設計、道の駅防災施設設計等の多岐にわたる内容を実施したものです。業

務では、現場確認を密に行い、関係者説明に同席して意見を直接伺うことで、地域で求められていることを計画に反映し、関係者の同意形成を速やかに行えるよう工夫しました。また、鳥取西道路事故対策検討会の資料作成において、事故要因を様々な視点で検証したうえで、実際に走行して動画を確認することで、説得力のある資料として取りまとめたことが評価されたものと考えております。

今回の受賞を励みに今後も技術者としての更なる成長と社会資本整備への貢献に努めていきたいと思えます。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●能美 享 氏

会社名：日本工営株式会社

職 位：流域水管理事業本部 河川水資源事業部 水工インフラマネジメント部 次長

趣 味：散歩・スポーツ観戦・バイク（初心者）



#### ●受賞業務の概要と感想

一級河川吉井川水系・旭川水系・高梁川水系の直轄管理区間を対象に河川の維持管理を適切かつ適正に遂行することを目的に、1年を通じて河川の状態把握を行いつつ、重要な事案に対する原因分析結果を踏まえ効率的・効果的な対応策を検討しました。特に、次の3点については、事務所、出張所、維持工事業者の協力のもと連携し実施しました。①堤防の噴砂について浸透流対策として解析条件の設定、解析モデル作成・計算を行い、対策工の検討を迅速に行いました。②堤防川表で生じた漏水について試掘調

査等により原因分析を行うとともに、新技術を活用し現場に有効なモニタリング計画を提案しました。③堤防点検時のUAV活用について、運行に必要な条件、評価手法、記録方法等について検討、試行を踏まえて、手順書（案）を作成し実施しています。

これらのほか、分野の異なる複数の課題に対して、弊社の各専門技術者が総合的な技術力で対応し解決したことが評価されたと感じています。今後は、今回の表彰を糧に河川管理の高度化と効率化に寄与する技術を研鑽し、社会インフラの維持管理分野に貢献できるように努めたいと思います。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●遠山 国彦 氏

会社名：株式会社ダイヤコンサルタント

職 位：九州支社 統括部長

趣 味：トンネル点検



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和2年度山口管内トンネル点検業務」に対して、中国地方整備局長より優秀技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。また、業務を通してご指導頂きました山口河川国道事務所関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

本業務は、山口河川国道事務所管内のトンネルに対して定期点検を行ったものであり、定期点検を通じて、トンネルの変状が及ぼす可能性のある利用者被害を最小限化することを大きな目的の一つとして実施しました。

本業務では、道路管理者である道路管理第二課の

皆さま、維持出張所の皆さまとの情報共有を心がけ、点検対象トンネルの気になる異常を可能な限り点検時に解消するよう努めました。点検時に確認した利用者被害に繋がる変状等について、各トンネルを管理する維持出張所の皆さま、保守工事業者の皆さまと工程調整しながら迅速に対応し解消できたこと、また、緊急点検をはじめとした発注者の要望に対して、可能な限り素早く対応したことを評価していただけたと考えております。

今後は、この受賞を励みとしてより一層の技術力向上に努め、皆さまの信頼を得られる誠意を持った対応を心がけてまいります。

## ◇優秀建設技術者のプロフィール

### ※中国地方整備局長表彰

#### ●福井 竜則 氏

会社名：株式会社荒谷建設コンサルタント

職 位：本社事業部 補償建築部 次長

趣 味：弾き語り、衣食住



#### ●受賞業務の概要と感想

この度は、「令和2年度広島西部山系管内砂防事業補償説明等業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務表彰及び優秀技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。業務遂行にあたり、ご指導いただきました広島西部山系砂防事務所の関係者の皆様には、心より厚く御礼申し上げます。

本業務は、白石砂防堰堤の事業用地取得に係る118権利者に対して、墓地等の評価方法・墳墓等の補償内容について説明し理解を得るものでした。理解が

得られないと補償契約に繋がらず工事が出来ません。

そのプレッシャーの中チーム一丸となり、経験豊富な多数の技術者による迅速な対応、コロナ禍での相手に寄り添った的確なコロナ対策、墓の移転という難しい内容でありましたが説明方法の創意工夫等により、全権利者から理解を得ることができたことが高評価につながったものと考えております。

チーム一同、今回の受賞を励みに、一層の自己研鑽と技術力向上に努め、社会資本整備に貢献していきたいと思っております。

# 令和4年度 鳥取県委員会主要活動報告

鳥取県委員会 委員長 井上 孝之

## 1. 建コン協鳥取BIM / CIM勉強会 (第7回目)

- (1)日時 令和4年9月30日(金)  
13:00～17:00
- (2)場所: 鳥取県立倉吉未来中心セミナー R3
- (3)内容: ①中国地方整備局におけるBIM/CIM活用拡大の取組について  
②鳥取県におけるBIM/CIM業務について  
③設計者からBIM/CIM活用の現状と展望  
④3次元設計に必要な3次元地形モデルについて
- (4)講師: ①村岡建設専門官  
(国交省中国整備局企画部)  
②日笠参事・岡係長(鳥取県県土整備部)  
③亀田氏(復建調査設計㈱)  
④片山氏(シンワ技研コンサルタント㈱)
- (5)参加者: 会場: 建コン50名、鳥取県職員0名  
WEB: 建コン63名、鳥取県職員22名  
合計: 建コン113名、鳥取県22名



BIM / CIM勉強会 (会場)



鳥取県との意見交換会 (対面)

## 2. 鳥取県との意見交換会

令和4年11月1日(火)、鳥取県庁において、鳥取県と建コン協会中国支部及び鳥取県委員会の意見交換会が対面方式で開催されました。

鳥取県からは県土整備部の前田次長をはじめ6名の幹部職員等が、中国支部からは小田支部長、金本業務部会長、吉岡同副部会長が、鳥取県委員会からは井上委員長をはじめ5名の委員の計8名が出席しました。

今回は、「担い手確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」、「DX推進の環境整備と成長と分配の好循環の実現」の4項目について意見を交わすことができました。



鳥取大学講義室 WEB説明会状況

## 3. 鳥取大学へのWEB業界説明

令和4年12月5日(月)、鳥取大学工学部と農学部へ業界説明会を実施しました。今年度もコロナウイルス感染対策により中国支部別館からWEB方式での開催となりました。学生は講義室以外に自宅からも参加していただきました。

- 講師: 高濱総務委員、杉山総務委員、桑原氏(若手の会) 以上3名  
参加者: 16名(会場5名、WEB11名)



鳥取工業高等学校教室

## 4. 高校への業界説明

令和4年7月20日(水)、鳥取県立鳥取工業高等学校へ業界説明会を実施しました。建コン協鳥取から井上委員長、平尾副委員長の2名と同校OB2名の計4名が、建設工学科二年生の生徒を対象に協会のPR動画の上映と業界説明、OB2名から仕事内容等の説明を行いました。

## 令和4年度災害時対応演習

災害時対応演習は、「災害時行動計画」に基づき、災害対策本部、災害対策現地本部、並びに各災害対策支部が参加して、大災害の発生を想定して演習を行いました。本年度は、宮崎県日向灘沖を震源とする大規模地震・津波が発生したことを想定し、災害対策九州支部に現地対策本部を設置して地震発生時における災害対策が

円滑に遂行されること、各支部との連絡体制及び支援要請に対する的確に対応することを目的に実施しました。中国支部内では、本部スケジュールの中で災害対策中国支部を設置して、会員各社へ被災状況及び災害対策本部からの応援要請に対する支援の確認等を行いました。

### 地震発生概要

地震発生日時：令和4年9月1日(水)11:00

地震発生地域：宮崎県日向灘沖(海溝型)

地震規模：日向灘沖を震源とするM7.6の地震が発生し、宮崎県沿岸の平野部で最大震度6強、地盤の弱いところでは局地的に震度7を観測した。また、鹿児島県及び大分県の太平洋側沿岸の平野部では震度6弱～震度5強を観測し、その他九州全域で震度5～震度3を観測した。さらにこの地震に伴い津波が発生し、日南市南郷町付近で5～6mの高さ、日南市津付近で4～5mの高さをはじめ各地で2～4mの高さの津波が発生した。

被災状況：(1)人的被害：死者・行方不明者数 1,270名

(宮崎県：910人、鹿児島県：260人、大分県：100人)

(2)建物被害：全壊棟数27,500棟

(宮崎県：23,000棟、鹿児島県：3,000棟、大分県：1,500棟)

(3)道路被害：国・県道150ヶ所以上で路面・構造物被害

高速道路約140kmが不通

(4)ライフライン被害：上水道1,000ヶ所以上、下水道500ヶ所以上

(5)斜面崩壊：100ヶ所以上

(6)河川被害：堤防崩壊、岸壁破壊、船舶流失等の被害が多数発生

(7)鉄道被害：在来線、九州及び私鉄において運転休止が発生

(8)電力被害：広範囲において停電が発生

\*地震規模、被害想定は、地震調査研究推進本部地震調査委員会「日向灘及び南西諸島海溝の地震活動の長期評価：2004年」、宮崎県「宮崎県地震被害想定調査報告書：2003年」を参考にした。

### 演習の主要項目

演習の主眼は連絡・伝達網及びその機能のチェックとする。

(1)本部(災害対策本部)と支部(災害対策九州現地本部、ならびに他の全支部の災害対策支部)との連絡・伝達網が正常に機能できるか否かを検討する。

(2)支部(災害対策九州現地本部、ならびに他の全支部の災害対策支部)と会員各社との連絡網が正常に機能できるか否かを検討する。

(3)会員会社は出来るだけ同時に各社ごと演習を行い、その成果を検証する。

## 中国支部独自の演習

中国支部は、災害対策中国支部を復建調査設計㈱会議室に立ち上げ、本部との連絡体制の確認を行いました。

また、中国支部独自の取り組みとして災害対策支部設置、会員各社の被害状況報告及び本部から要請のあった九州中部支部管内の支援について、会員各社からの支援要請に対して各社に判断いただき連絡体制の確認を行いました。

令和4年度の参加会員社数は、33社でした。



災害対策中国支部の演習状況写真

### ●中国支部との災害協定締結状況（令和4年12月現在）

#### (1)中国地方整備局

協定締結先：中国地方整備局長

協定締結日：平成24年4月2日

協定参加会員：50社

目的：地震、大雨、台風等の異常な自然現象及び予想できない災害等の場合に、中国地方整備局が管理、または工事中の施設等において発生した災害の応急対策業務に関し、緊急的な応急対策調査・設計を実施するにあたり、協会は協力して被害の拡大防止と被害施設の早期復旧に資する。

#### (2)鳥取県

協定締結先：鳥取県知事

協定締結日：平成26年7月2日

令和2年4月20日改訂

協定参加会員：24社

目的：災害時における県民の生命、身体及び財産の安全並びに生活を確保するための応援業務において、協会の協力を得て迅速かつ的確に実施できるよう、必要な基本的事項を定める。

#### (3)広島高速道路公社

協定締結先：広島高速道路公社理事長

協定締結日：平成31年3月1日

協定参加会員：50社

---

目的：地震、大雨、台風等の異常な自然現象又は予期できない災害等の場合に、所管施設において発生した災害の緊急的な応急対策業務に関し、協会の支援を受けて業務を実施することにより、被害の拡大防止と被害施設の早期復旧に資する。

(4)広島県、広島県内23市町

協定締結先：広島県知事、県内23市町の首長

協定締結日：令和3年6月11日

協定参加会員：19社

目的：広島県内に暴風、洪水、高潮、地震その他の異常な天然現象により大規模な災害が発生した場合における協会及び協会会員の支援協力について必要な事項を定め、公共土木施設の被災箇所の情報収集・調査把握、その後の公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法施行令第6条第1項の規定による申請及び復旧工事を実施するための測量・設計を迅速に行う。



## ■ 若手の会の活動報告

### 1. 活動目的

若手の会は、魅力ある建設コンサルタント業界の実現のため、業界で働く若手が業界の諸問題や将来像、具体的な行動を議論・実践する場として、平成28年11月に設立しました。

### 2. 令和4年度のメンバー

代表やメンバーの1/3が交代し、大幅な世代交代がありました。令和4年度からは、平均年齢28歳・平均業界歴4年のメンバー24人で活動しています。

メンバー	所属企業
高橋 祐貴 (業界PRリーダー)	相生エンジニアリング(株)
岩瀬 大佑	相生エンジニアリング(株)
桑原健二郎 (代表)	(株)荒谷建設コンサルタント
青山 芹奈	(株)荒谷建設コンサルタント
熊谷 憲一	いであ(株)
増井 優哉	いであ(株)
萩原 耀大	いであ(株)
福岡 航大	(株)ウエスコ
岡井 陽平	(株)ウエスコ
門脇 悠太	(株)エイト日本技術開発
川畑 輝起	(株)エイト日本技術開発
武田 和希	シンワ技研コンサルタント(株)
岡本 裕希	シンワ技研コンサルタント(株)
山田 聡志	大日本コンサルタント(株)
小泉 陸人	大日本コンサルタント(株)
竹本幸士郎	中電技術コンサルタント(株)
井野口慎之輔 (業界PRリーダー)	中電技術コンサルタント(株)
田原 正隆	パシフィックコンサルタンツ(株)
森川 裕基	パシフィックコンサルタンツ(株)
上戸田拓也 (生産性向上リーダー)	(株)ヒロコン
青野 光輝	(株)ヒロコン
濱崎 瑛貴 (生産性向上リーダー)	(株)福山コンサルタント
吉谷 薫	復建調査設計(株)
西原 章太	復建調査設計(株)

### 3. 令和4年度の活動内容

前述の世代交代に伴い、令和4年度を活動リスタートの年に設定しました。活動テーマは「生産性向上の検討」「業界PRの検討」を継続していますが、その検討内容は一度リセットし、現メンバーにて改めて検討しています。

#### 1) 生産性向上の活動

生産性向上を行う目的や生産性向上に必要な事項について討議しました。生産性向上の課題として、『コミュニケーション』というワードが一番挙がりました。若手の会では、この『コミュニケーション』の課題を改善することが生産性向上につながると考え、そのアクションを検討していくために、まずは管理職・若手の働き方や生産性向上に関してどう感じているのか、意識調査アンケートの実施を決めて、アンケート設計に取り組みました。(2022年12月時点)

#### 2) 業界PRの活動

- ・業界PRを行う目的、ターゲット、発信コンテンツ等について整理しました。ターゲットに設定した学生、子ども等に向けたイベントは令和5年以降に企画・実施するとし、そのためのステップとして、令和4年度は広報およびイベント集客の機能があるSNS (note、Instagram) を立ち上げました。SNSでは業界に関わる記事を順次公開していますので、フォローをお願いいたします。
- ・若手の会本部に協力いただき、マスコットキャラクター【チューコン】を作成しました。



マスコットキャラ・チューコン



### 3) 若手の会の交流

- ・2022年7月に長野県千曲市で催されたWILLSUMMIT WORKATION2022（若手の会本部メンバー、支部代表の交流会）に中国支部から1名参加しました。千曲市のワーケーション取組みを体験しつつ、本部および他支部のメンバーとのつながりをつくりました。
- ・2022年11月にAsssemble the WAKATE（本部・中国支部交流会）を呉で開催しました。本部メンバーとの交流を通して、参加した中国支部メンバー10名は若手の会活動への理解を深めました。また、（一社）広島スケートボード協会と全日本フリースタイルBMX連盟の方々をお招きして、広島県のアーバンスポーツ聖地化の経緯等を伺い、アーバンスポーツを体験しました。



Asssemble the WAKATE の様子  
(上：本部メンバーとのグループワーク、下：アーバンスポーツ体験)

### 4) 学生向け業界説明会の参加

総務部会主催の学生向け業界説明会に2回参加しました。業界説明会では、若手の会の紹介および若手の会メンバーによる業務紹介を行いました。

### 5) その他

- ・活動の作業効率化に向けて、データストレージ環境やチャット環境を整備しました。また、

バーチャルオフィスのトライアル利用も行い、デジタルツールの知見を高めました。

- ・2022年9月、厚生部会と令和5年度以降の活動アイデアについて意見交換しました。

### 活動まとめ

開催日	活動内容
2022.6.22	第26回定例会
2022.7.5	学生向け業界説明会（総務部会主催）参加
2022.7.21-23	WILLSUMMIT WORKATION2022（本部メンバー、支部代表の交流会）参加
2022.7.27	第27回定例会
2022.9.30	第28回定例会
2022.9.30	厚生部会との意見交換会
2022.11.9	第29回定例会
2022.11.24-25	Asssemble the WAKATE（本部・中国支部交流会）
2022.12.5	学生向け業界説明会（総務部会主催）参加



定例会の様子

### 4. 令和5年度以降の活動について

令和4年度は、活動指針の再設定、活動を行う上での環境整備、若手の会内および他部会との関係づくり、令和5年度以降に向けた活動準備を行いました。令和5年度は業界で働く皆さんに向けたイベントや勉強会、学生および子供に向けたイベントを企画・実践し、業界の生産性向上やPRにつなげていきたいと考えています。



## 大学・高専・高校への業界説明会開催

総務部会では、大学生、高専生、高校生に建設コンサルタントの仕事の内容や魅力、やりがいなどを伝え、業界を理解し、一人でも多くの学生に就業していただくことを目的として、大学・高専に赴き業界説明会を行っています。

ここ数年は若手の会の協力を得て、若手目線

での業界の魅力ややりがいなども伝えていきます。

今年度説明会を開催した大学・高専・高校は以下の通りです。

建設コンサルタントの認知度はあまり高いとは言えず、今後も地道な広報活動を行っていきたいと考えています。

### 令和4年度業界説明会開催大学・高専・高校

開催月日	大学・高専名	参加者数
R4. 7. 5	呉工業高等専門学校環境都市工学科 (対面実施)	4年生：約40名
R4. 7.20	県立鳥取工業高等学校 (対面実施)	2年生：36名
R4.11.16	徳山工業高等専門学校土木建築工学科 (対面実施)	4年生：18名
R4.12. 2	松江工業高等専門学校環境・建設工学科 (対面実施)	4年生：28名
R4.12. 5	鳥取大学工学部、農学部 (対面+WEB)	16名
R4.12. 7	島根大学総合理工学部 (対面実施)	3年生：48名



鳥取県立鳥取工業高等学校 (R4.7.20)



徳山工業高等専門学校 (R4.11.16)



松江工業高等専門学校 (R4.12.2)



鳥取大学 (R4.12.5)



島根大学 (R4.12.7)

## 講習会等

### ●加盟会社の経営分析説明会開催

令和4年度の経営分析説明会は、東北支部、関東支部、北陸支部、中部支部、近畿支部、中国支部、四国支部、九州支部の8支部において実施されました。中国支部では10月20日（木）TKPガーデンシティ広島駅前大橋で、13時00分より受付を開始し、以下の項目で第1部から第3部で行われました。

中国支部会場には、5社12名の参加がありました。

#### 第1部 財務委員会

1. 業界を取り巻く状況と今後の課題
2. 令和3年加盟会社の経営分析

#### 第2部 株式会社オービック

1. インボイス制度について
2. 電子帳簿保存法改正について
3. 今後のシステム対応について

#### 第3部 質問及び相談



小田支部長開催の挨拶



会場内の状況

### ●建設技術フォーラム2022 in ちゅうごく

「建設技術フォーラム2022 in ちゅうごく」は、令和4年10月13日（木）～10月14日（金）に開催されました。

今年のテーマは、「防災・減災、国土強靱化とインフラDX」～建設現場を支える未来の技術

～として開催されました。令和3年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンラインセミナー発表形式でしたが、今年度は、広島産業会館西展示館でのリアル開催とオンライン会場の併用開催となりました。

リアル開催には、84社が参加（建設コンサルタツ協会中国支部からは、エイト日本技術開発、荒谷建設コンサルタント、いであ、パスコ、中電技術コンサルタント、ウエスコ、日本工営、八千代エンジニアリング、復建調査設計の9社の参加）

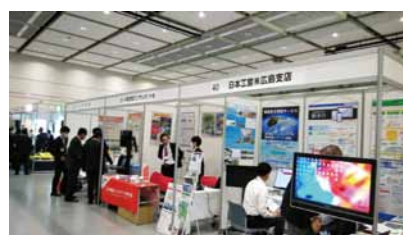
同時に「広島建設イノベーション2022」INFRA INNOVATION PROJECT（広島県主催）も開催されました。

オンライン会場では、「防災・減災対策、老朽化対策の取り組み、ICTを活用した新技術」をテーマとしたセミナー発表がありました。

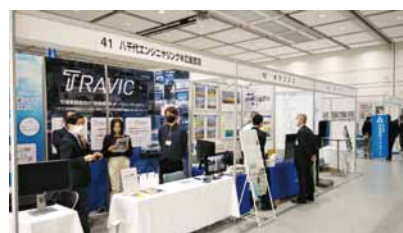
基調講演「現場の”楽”は維持管理起点から」  
株式会社EARTHBRAIN 緒方 正剛 氏



開会式の写真



参加者のブース写真その1



参加者のブース写真その2

## 官民合同新年互礼会

令和5年官民合同新年互礼会は、1月4日（水）にリーガロイヤルホテル広島において開催されました。国歌斉唱で始まり、広島県建設工業協会の檜山会長の新年挨拶に続き、来賓の中国地方整備局長、広島県土木建築局長、広島市都市

整備局長、広島高速道路公社理事長及び西日本高速道路(株)中国支社長の挨拶が行われました。本年は参加者に制限はなくなりましたが、感染拡大防止のため乾杯後の食事の提供は中止となりました。（参加者：約550名）



檜山広島県建設工業協会長のあいさつ



森戸中国地方整備局長のあいさつ

## 業務部会の開催

### ●第1回業務部会

開催日：令和4年6月1日(水)  
場 所：TKPガーデンシティ広島駅前大橋3B  
内 容：令和3年度意見交換会実施結果について(報告)  
令和4年度業務部会の運営について(報告)  
令和4年度中国地方ブロック意見交換会について  
令和4年度中国地方発注機関別意見交換会について  
その他 第2回業務部会の予告他

### ●第2回業務部会

開催日：令和4年9月12日(月)  
場 所：TKP本通り駅前カンファレンスセンター3C  
内 容：令和4年度第1回業務部会議事録の確認  
令和4年度中国地方ブロック意見交換会開催結果について  
令和4年度中国地方発注機関別意見交換会について  
令和5年度「要望と提案」に関する意見聴取結果について  
その他 広島地域の発注機関別意見交換会のスケジュールについて  
広島高速道路公社との懇談会について  
建設コンサルタンツ協会中国支部ICT委員会設立について  
政策要望懇談会について  
令和4年度第3回業務部会について

### ●第3回業務部会

開催日：令和5年1月18日(水)  
場 所：TKP本通り駅前カンファレンスルーム3B  
内 容：令和4年度発注者との意見交換会開催結果について  
令和5年度ブロック意見交換会について  
令和4年度協会本部・中国支部意見交換会について  
その他

## 令和4年度 意見交換会実施概要

意見交換実施先	発注者側出席者	建コン側出席者
1. 中国地方ブロック (中国地方整備局・ 中国5県・広島市・ 岡山市) (R4.8.1)	〈中国地方整備局〉 森戸局長 中崎副局長、荒川副局長 企画部長、河川部長、道路部長 宮繕部長、港湾空港部長 技術調整管理官、技術開発調整官 技術管理課長、建設専門官 〈各県・広島市・岡山市・広島高速道路公社〉 (WEB参加) 鳥取県県土整備部技術企画課長 島根県土木部次長 岡山県土木部技術総括監 広島県土木建築局総括官 広島県技術管理担当監 山口県土木建築部技術管理課長 岡山市都市整備局長 広島市都市整備局次長 広島高速道路公社技術調査部技術管理課長 (オブザーバー)	〈建コン協本部〉 野崎会長 中村副会長(企画部会長・対外活動委員長) 酒井副会長兼専務理事 常任理事(総務部会長) 常任理事(技術部会長) 常任理事(情報部会長) 常任理事(資格・CPD部会長) 常任理事(近畿支部長) 常任委員長 対外活動副委員長 参与・企画部長、業務部長、企画部次長 〈中国支部〉 小田支部長 坪井副支部長、小谷副支部長 川口支部理事(WEB)、來山総務部会長 永田技術部会長 亀田BIM/CIM推進室長 金本業務部会長、吉岡業務副部会長 業務委員 16名(うち15名はWEB参加)
2. 中国地方整備局 (R4.11.21)	西澤企画部長 企画部技術調整管理官 企画部技術開発調整官 工事品質調整官 企画部建設専門官	小田支部長 坪井副支部長、小谷副支部長 來山総務部会長、永田技術部会長 金本業務部会長、吉岡業務副部会長 業務委員 14名
3. 岡山県 (R4.12.22)	有路技術総括監 技術管理課長 技術管理課参事 技術管理課副参事 技術管理課主査 2名	小谷副支部長 金本業務部会長、吉岡業務副部会長 辻岡山県委員長 岡山県委員 6名
4. 広島県 (R4.11.7)	細羽総括官(建設企画) 建設産業課長、建設産業課主査 技術企画課技術管理担当監 技術企画課主査 2名 建設DX担当課長	小田支部長 坪井副支部長 來山総務部会長 山本技術副部会長 金本業務部会長、吉岡業務副部会長 業務委員 13名
5. 鳥取県 (R4.11.1)	前田県土整備部次長 技術企画課課長 技術企画課課長補佐、技術企画課係長 県土総務課建設業・入札制度室室長 県土総務課建設業・入札制度室係長	小田支部長 金本業務部会長、吉岡業務副部会長 井上鳥取県委員長 澤鳥取県副委員長、平尾鳥取県副委員長 鳥取県委員 2名
6. 広島市 (R4.11.29)	木村都市整備局次長 都市整備局技術管理課長 財政局契約部工事契約課長 道路交通局道路部街路課長 下水道局施設部管理課建設担当課長	小田支部長 來山総務部会長 金本業務部会長 吉岡業務副部会長 業務委員 1名

## ■ 広島高速道路公社との意見交換会（R4.10.18開催）

令和4年10月18日（火）広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、広島高速道路公社と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島高速道路公社からは友道高速道路公社理事（総括）をはじめ7名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と坪井副支部長、來山総務部会長、金本業務部会長をはじめ8名が出席しました。

第1回開催の今回は、広島高速道路公社及び中国支部から提出資料を基に説明を行い、その後それぞれの資料の内容について自由討論となりました。

また、今後も継続して行うこととなりました。

広島高速道路公社資料

① 広島高速道路公社の事業～実施中の事業及び今後の事業展開～

② 広島高速道路公社パンフレット

建設コンサルタンツ協会中国支部資料

① 建設コンサルタント業界の実情と発注者へ求めること

② ICT委員会設立について

③ 参考Ⅰ 第73回中国地方技術研究会  
「中国地整のインフラDX推進に向けて」



## ■ 発注者と建設コンサルタンツ協会の意見交換会（R4.8.1開催）

令和4年8月1日（月）に広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、国土交通省中国地方整備局をはじめ中国地方5県と広島市、及び岡山市の発注者と建コン協本部の意見交換会が開催されました。

国土交通省からは森戸局長をはじめ12名の幹部職員が、自治体からは中国5県、広島市、岡山市から8名の幹部職員が出席されました（自治体の方々はWEB参加）。またオブザーバーとして広島高速道路公社の幹部職員が1名出席されました（WEB参加）。

建コン側からは、野崎会長をはじめ本部の副会長・理事等13名が出席し、中国支部からは

小田支部長と坪井副支部長、小谷副支部長、川口支部理事（WEB参加）、來山総務部会長、永田技術部会長、亀田BIM/CIM推進室長、金本業務部会長および業務委員16名（うち15名はWEB）の合計25名が出席しました。建コン協から「建設コンサルタントの要望と提案」と調査資料集等を提示し、Ⅰ. 担い手確保・育成のための環境整備、Ⅱ. 技術力による選定、Ⅲ. 品質の確保・向上、Ⅳ. 「DX推進の環境整備」と「成長と分配の好循環の実現」の4項目について、忌憚のない意見を交わすことができました。意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



地方ブロック意見交換会の状況

## ■発注者との意見交換会要旨

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

### I. 担い手確保・育成のための環境整備

#### (1)建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

- ① 履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化
- 1) 建設コンサルタント業務の納期分散の実現のため、設計変更後の目指すべき納期目標(建設コンサルタント業務の第1四半期20%程度・第2四半期30%程度・第3四半期15%程度・第4四半期35%程度・3月15%以内)と整合を図った施策の強化と計画的展開
- 国債(ゼロ国債・2ヶ年国債)・翌債の活用(秋納期業務の発注)
  - 繰越の柔軟な運用
  - 前倒し発注等発注時期の分散化

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・中国地方整備局では、履行期限の平準化の取組みとして、毎年度平準化目標を定め、各事務所等で目標を達成するよう国債、翌債等を活用して計画的な業務発注に努めております。また、工期延期が生じた場合は繰り越しを柔軟に活用して、できる限り履行期限が第4四半期にならないよう取り組んでおります。
- ・令和3年度の取組み結果は、第4四半期で目標45%以下に対して50%、その内3月は目標30%以下に対して約34%で、目標達成には至っておらず、更なる分析と対応策の周知徹底が必要と認識しております。
- ・一方、令和3年度については国債や繰越など年度をまたぐ業務件数が391件と前年度の296件から大幅に増えたこともあり、繰越を柔軟に活用することについては、前年度より改善してきております。
- ・今年度(令和4年度)も更なる平準化を図るため、第4四半期で42%以下、3月30%以下を新たな目標として取り組んでいるところです。引き続き、履行期限が第4四半期になることを削減させるとともに履行期限の平準化に努めて参ります。

- 2) 発注時および変更時における条件明示の徹底により、標準履行期間を踏まえた適切な履行期間の確保(BIM/CIM対応や第三者照査期間、測量や地質調査等関連調査の進捗具合など)
- 標準履行期間を確保できない場合の履行期限の延期

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・詳細設計業務においては、発注時に条件明示チェックシートに基づき設計条件を明示しております。また、条件明示チェックシートを活用した適正な履行期間の確認も行うこととしております。
- ・BIM/CIM対応や第三者照査期間を考慮した履行期間をどの程度確保するかにつきましては、貴協会のご意見を伺うなどして、必要な工期の確保に努めて参ります。
- ・受注者の責に帰することができない理由により、当初予定していた履行期間が確保できなくなった場合は、受発注者で協議の上、適切な工期の確保に努めております。

- 3) 年度末納期と技術提案書作成時期の重複を解消するためのプロポーザル方式・総合評価落札方式業務の公示・提案時期の分散化

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・年度末における業務負担の更なる軽減を図るため、早期発注や国債等を活用しつつ、業務の平準化及び公示時期の分散化について、引き続き取り組んで参ります。
- ・上記の取組が実践されるよう、引き続き事務所の指導を行って参ります。



建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

4) 業務スケジュール管理表に基づく適確な契約管理(変更契約時期の適切化: 3月実施の回避等)

【中国地方整備局からの回答】

- ・業務スケジュール管理表は、全ての「詳細設計業務」及び、「検討業務等」で作成することとしております。
- ・作成した業務スケジュール管理表に基づいた適正管理を徹底することで、履行期限が3月にならないように努めて参ります。

②受発注者協働によるワークライフバランスの更なる改善に向けての施策の推進・強化

1) 「ウィークリースタンス」の全業務への適用、実施計画および実施報告による確実な推進と地方自治体への展開の一層の強化

【中国地方整備局からの回答】

- ・平成30年12月より、全ての業務を対象にウィークリースタンスの取り組みとして、「水曜日は、勤務時間外の連絡及び16時以降に掛かる打合せは行わない。」  
「水曜日に資料作成依頼を行う場合は、翌日木曜日を期限日としない。」  
「金曜日に資料作成依頼を行う場合は、翌週月曜日を期限日としない。」  
「資料作成依頼を正規の勤務時間外には行わない」  
「資料作成依頼を行う場合には、適切な期間を確保し期限を設定する。」  
の5項目を特記仕様書に記載し、ワークライフバランスの改善を進めております。また、令和元年7月以降に契約した業務では、ウィークリースタンスの実施状況の記録と、特記仕様書に示した実施報告シートにより、完成検査で検査職員に状況報告していただくとともに、技術管理課に電子メールで提出してもらう取り組みを行っています。
- ・引き続き、取り組み状況を確認し、ワークライフバランスの改善に努めます。

2) 深夜・休日勤務につながる業務指示、待機指示(委員会対応業務に多い)の削減と解釈の違い等による手戻り発生や過剰要求による作業量増大を排除するために、特記仕様書および協議記録簿への具体的記述と業務実施内容の相互確認の徹底

【中国地方整備局からの回答】

- ・受注者のワークライフバランスに配慮し、業務の指示等は深夜や休日勤務等が生じないよう、事務所に対し改めて周知して参ります。
- ・また、手戻りの発生や過剰要求による作業量増大の排除についても引き続き事務所を指導して参ります。

3) 実態に即した適切な費用計上(緊急時のやむを得ない場合における短期的深夜対応・休日出勤等に対する割り増し)

【中国地方整備局からの回答】

- ・緊急時における深夜対応や休日勤務を要請した場合には、実態に即した適切な設計変更を行って参ります。

4) 計画系業務を含む幅広い業務を対象とした業務スケジュール管理表及び設計条件明示チェックシートを用いた管理、ワンデーレスポンスの実施等の徹底

【中国地方整備局からの回答】

- ・業務スケジュール管理表は「詳細設計」及び計画系業務を含む「検討業務等」を対象とし、ワンデーレスポンスについては全ての業務を対象とする事務連絡を発出しているとともに、特記仕様書にも記載しております。引き続き、適切な対応に努めるよう事務所を指導して参ります。

5) 入札・契約関連書類の統一ならびに簡素化による事務負担軽減

【中国地方整備局からの回答】

- ・入札・契約関係書類について、中国地方整備局ではひな型を作成し、書類の統一化を図っているところ です。
- ・また、平成29年度から一括審査方式の試行や、令和2年5月からはプロポーザル方式や総合評価落札方式における評価テーマ数の削減等の対応を行い、受注者の事務負担軽減に努めているところ です。
- ・引き続き、事務の負担軽減となるよう努めて参ります。

6) 受発注者協議による働き方改革に資するDX推進

→Ⅳにて詳述

②受発注者協働によるワークライフバランスの更なる改善に向けての施策の推進・強化

【(1)・(2)・(3)・(4)・(5)・(6)についての自治体からの回答】

【鳥取県からの回答】

- ・本県では、平成28年度ワンデーレスポンス、ウェンズデーホーム等受発注者双方が業務を進める上での基本スタンスを示した「労働環境の改善に向けた取組」について通知し、受発注者双方の労働環境改善を図ることとしている。また令和3年度より、「労働環境の改善に向けた取組」を特記仕様書に位置付け、一層の取組みの強化を行っている。
- ・「実態に即した適切な費用計上」については、特記仕様書に条件を明示し、業務内容の変更が生じた場合には、受発注者で協議のうえ、設計変更により必要な費用を計上しており、災害対応等、非常時に深夜・休日の出勤を指示した場合にも、実態に即した費用計上を行っている。
- ・「業務管理」については、平成30年度から「設計業務品質確保ガイドライン」を運用し、条件明示チェックシートを活用した業務管理に取り組んでいる。なお、業務スケジュール管理表については、国や他県の状況を注視して参りたい。
- ・入札・契約関連書類の事務負担軽減については、可能な範囲で対応したいと考えるので具体的な提案をお願いしたい。

【島根県からの回答】

- ・ウィークリースタンスについては、災害復旧工事等緊急を要する業務を除く全ての業務に適用しています。本県では、実施計画および実施報告に代わり初回打合せ時に実施要領に基づく取組目標を確認、整理して打合せ簿を発注者に提出し、業務完了後に受注者から取組実施報告書を提出するよう定めており、発注者の取組状況を確認しています。また、県内の市町村に対しても情報提供を実施しています。
- ・深夜・休日勤務につながる業務指示、待機指示等は、ウィークリースタンスの取組内容で緊急を要する業務以外では依頼しないように取り組んでいます。
- ・大規模災害発生時等やむを得ない場合を除き、今後も就業時間外の待機指示や作業依頼を行わないよう努めて参ります。
- ・大規模災害発生時等緊急時のやむを得ない場合については必要に応じて対応して参ります。また設計図書、特記仕様書等に業務の内容・条件を明示することとしており、今後とも徹底に努めて参ります。
- ・業務スケジュール管理表の運用は行っていませんが、設計条件明示の取組は令和3年度より行っており、ワンデーレスポンスについては、ウィークリースタンスの取組内容に定め実施しています。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- ・入札・契約関連書類に関しては、国や他県の状況を参考にしながら、引き続き事務負担の軽減について検討して参ります。

### 【岡山県からの回答】

- ・ウィークリースタンスについては、原則として全業務を対象として、初回打合せ時に「ウィークリースタンス実施チェックシート」(以下、「チェックシート」という)を用いて受注者・発注者双方で取組内容を確認した上で実施しているところですが、多様な働き方の推進や業務着手前の取組内容の確認、実施結果の検証の強化を図ること等を目的として今年度チェックシートを改定し、ウィークリースタンスの取組を推進していくこととしました。

### 【広島県からの回答】

- ・災害対応等の緊急を要する業務を除く全ての業務を対象に、労働環境の改善を図ることを目的として「ウィークリースタンス」を実施しております。具体的には、正規の勤務時間外に仕事をすることが前提とならないことや、ノー残業デーの時間外や土日に作業が発生することがないことなどの取組内容をチェックシートをもとに受発注者で協議・確認し、中間打合せ時にフォローアップ、納品時に実施結果を確認することとしております。
- ・実態に即した適切な費用計上については、国や他県の動向を注視してまいります。
- ・業務スケジュール管理表や条件明示チェックシートについて、本県では使用していませんが、設計図書への設計条件の明示のほか、履行報告書によるスケジュールの管理、ワンデーレスポンスの徹底により、業務の効率化を図っております。
- ・入札・契約関連書類については、令和2年度に業務費内訳書の簡素化を行っており、引き続き事務負担軽減に努めてまいります。
- ・受発注者協議による働き方改革に資するDX推進については、全ての業務を対象として情報共有システムやWEB会議システム等を活用した打合せや検査を導入しております。

### 【山口県からの回答】

- ・本県では、令和元年9月から、災害対応等の緊急を要する業務を除くすべての業務を対象に、特記仕様書にウィークリースタンスの実施について明示し、ウィークリースタンス推進チェックシートを用いた取組み項目の確認やフォローアップ、実施結果の確認をすることで労働環境の改善に努めているところです。
- ・深夜・休日勤務等につながる業務指示等については、チェックシートの実施項目として作業依頼は勤務時間内に行うことや期限は適切な時間を確保することなどを掲げており、やむを得ず緊急的な対応を要する場合は、あらかじめ双方で対処方法を確認することとしております。また、打合せ協議後には受発注者確認の上で具体的な協議記録簿の作成に努めており、業務実施内容の相互確認を行っています。
- ・本県では、業務スケジュール管理表、条件明示チェックリストは使用していませんが、履行報告書を活用したスケジュール管理や業務条件書、特記仕様書等による設計条件の明示に努めているところです。また、ワンデーレスポンスについては、適切に実施するよう出先事務所を対象とした説明会等で周知しているところです。
- ・入札・契約関係書類の統一、簡素化や緊急時の深夜対応、休日出勤等の実態に即した費用計上等については、国や他の自治体の状況を参考に研究してまいります。

**【岡山市からの回答】**

- ・本市では、ウィークリースタンスについては、令和3年4月より災害対応等の緊急を要する業務を除くすべての建設コンサルタント業務で実施しています。初回打合せ時に受発注者の協議により「ウィークリースタンス推進チェックシート」を基に取り組み内容について決定することとし、月曜日(休日明け)を依頼の期限日としない(マンデーノーピリオド)、ノー残業デー(水曜日)は残業が発生するような指示をしない(ウエズデーホーム)、金曜日(休日前)や定時後に新たな依頼をしない(フライデーノーリクエスト、イブニングノーリクエスト)などについて受発注者の協力のもと取り組むものとしています。

**【広島市からの回答】**

- ・本市では、令和2年9月に「広島市ウィークリースタンス実施要領」を定め、災害対応等の緊急を要する業務を除くすべての業務を対象に、設計成果の品質確保や労働環境の改善に努めることとしており、受発注者双方が着手時の協議時において、資料作成依頼を正規の勤務時間外に行わないなどの取組目標を確認し、受注者の深夜・休日勤務につながらないよう適切に取り組むこととしています。
- ・緊急対応や休日出勤等に対する割り増しなど実態に即した適切な費用計上については、他の自治体等の取組状況を参考にしていきたいと考えています。
- ・業務スケジュール管理表及び設計条件明示チェックシートを用いた管理は行っていませんが、設計書や特記仕様書等への設計条件の明確化に努めるとともに、ワンデーレスポンスの実施等に努め、業務の円滑な実施に取り組んでいます。
- ・事業者の事務負担の軽減については、本市としても必要と考えており、今後、他の自治体等の取組状況を参考にしながら、引き続き検討していきたいと考えております。

③ BIM/CIM活用による建設生産・管理システム全体に係る生産性向上への取組み

→Ⅳにて詳述

**(2)受発注者協働による災害対応に向けた継続的な環境改善**

① 被災地域に対する迅速かつ適切な災害対応(費用面を含む)と改正労働基準法遵守との両立

- 1) 災害対応業務への従事職員が対応していた既往業務への効果的な対応(業務一時中止命令や工期延期の実施、管理技術者交代要件の緩和)

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・災害対応等が必要となった場合は、受注者と情報共有を図り、業務の一時中止や工期延期など、迅速な災害復旧を優先した円滑で柔軟な対応を行うよう取り組んでいるところです。
- ・管理技術者の交代については、やむを得ない事由等がある場合は認めております。仕様書等への交代要件の記載の要望等があれば、本省に伝えて参ります。

2) 災害対応業務への従事職員に対して労働基準法第33条の適切・確実な適用に関する厚生労働省への働きかけ

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・労働基準法第33条については、厚生労働省から各都道府県労働局長への通知(令和元年6月7日)が発出されており、「地震、災害、風水害、雪害、爆発、火災等の災害への対応(差し迫った恐れがある場合における事前の対応含む。)、急病への対応その他の人命又は公益を保護するための必要」については、36協定で定めた限度とは別に労働時間の延長等が認められております。また、平成30年9月18日通知より、地質調査、測量及び建設コンサルタント業務も対象となる事業場として認められているところです。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- 3) 広域(複数の発注者)にまたがる災害対応マネジメントに対する受発注者協働での支援体制・仕組みの整備・充実(国による災害指定に関する対応、災害支援要請の一元化、早期の支援体制構築のための被害情報収集を目的とした協会からの自主的なリエゾン派遣の検討、官民合同の災害訓練開催、ICT技術の活用など)及び地方自治体に対する国の支援

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・中国地方整備局では、平成24年度に「災害時における中国地方整備局所管施設の災害応急対策業務に関する協定」を貴協会と締結しており、広域にまたがる災害においても迅速に対応できる体制を整えているところです。
- ・広域にまたがる災害対応の支援要請などが生じた場合に、受注者及び貴協会と行政機関のお互いが連携して対応できる仕組みについて、引き続き検討して参ります。
- ・中国地方整備局では、毎年総合水防演習を開催しております。貴協会としても積極的な参加をご検討いただきますようお願いいたします。
- ・災害調査においては、LiDARを用いた迅速な被災状況調査等、様々なICT技術を積極的に活用して参りますので、貴協会からも先進事例の情報提供等をお願いいたします。

### (3)人材確保・育成、新たな事業推進形態の環境整備

- ① 若手・女性・シニアなど多様な技術者の活用・育成のための入札・契約制度の改善の継続(若手:技術者表彰制度の導入とその有効活用など)(女性:担い手(女性)育成支援、女性を含めた様々な技術者が係る制度の試行・改善など)(シニア:照査技術者を継続できる評価制度、管理技術者実績ではなく照査技術者実績を評価・考慮など)

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・若手技術者等の活躍・育成のために、平成26年度よりプロポーザル方式、総合評価落札方式の業務において、若手技術者(45歳以下)を管理技術者として配置する場合は管理補助技術者を配置できる取り組みを行っております。シニアである管理補助技術者が若手技術者をサポートし優良業務となった場合は、管理技術者である若手技術者が表彰の対象となります。
- ・また、若手技術者を担当技術者として配置しやすくするために、担当技術者の評価方法の見直し等も行っております。
- ・令和2年度よりプロポーザル方式の業務を対象に、女性技術者の活躍を含めた働き方改革の一環として、厚生労働省の認定制度である「くるみん」「えるぼし」の認定企業に入札参加時の加点評価を行うこととしております。
- ・経験豊富なシニア技術者に継続的に照査技術者等として活躍してもらうことは、品質確保や技術の伝承からも有益だと考えており、中国地方整備局での照査技術者の実績評価では、照査技術者として従事した実績も評価することとしております。

### 【鳥取県からの回答】

- ・本県ではR2年度(対象:R1業務)から若手技術者に対し、総合評価入札における配置予定技術者の加点対象項目にするとともに、優良技術者の表彰制度を設けている。これは、技術者のモチベーション向上を図るとともに、業界全体の活性化につながっており、今後も継続する予定。
- ・女性技術者、シニア技術者の活用に特化した制度はないため、国や他の自治体の事例を参考にさせていただきたい。

**【島根県からの回答】**

- ・本県では、8月1日以降の入札公告の総合評価方式において、若手技術者の活用・育成を図るため、満35歳以下の技術者を担当技術者として配置する場合に加点する評価項目を導入する予定です。
- ・併せて、国の制度を参考にした「管理補助技術者制度」を総合評価方式において導入する予定です。

※「管理補助技術者制度」：管理技術者の経験の少ない若手技術者（満45歳以下）又は女性技術者を管理技術者として配置する場合、総合評価での加算点がベテラン技術者に比べ低くなるおそれがあることから、管理技術者としての経験、実績を有するベテラン技術者を「管理補助技術者」として管理技術者とは別に配置できる制度。

- ・当該業務の総合評価での加算点は「管理補助技術者」で評価する。
- ・当該業務の管理技術者としての実績は、若手又は女性管理技術者に付与する。
- ・「管理補助技術者」は担当技術者で計上する。

**【岡山県からの回答】**

- ・本県では優良業務に関する表彰は実施しておらず、技術者表彰制度の導入を含めて、今後の検討課題であると考えております。また、女性技術者、シニア技術者の活用などを考慮した入札制度は実施しておりませんが、今後は、国や他県の状況を参考に、担い手確保等の観点から、幅広く検討して参りたいと考えております。

**【広島県からの回答】**

- ・若手（40歳以下）及び女性技術者については、総合評価落札方式の実績評価2型（企業及び技術者の業務成績評定点等を評価する型式）において管理技術者として配置する場合、加点評価することとしております。
- ・照査技術者については、配置要件として管理技術者実績等を求めておらず、「技術士やRCCMの資格保有者又はこれと同等の能力と経験を有する技術者」としていることから、シニア技術者においても、必要な資格を有することで照査技術者として配置できることとしております。

**【山口県からの回答】**

- ・本県では、現在のところ、若手・女性・シニア技術者の活用などを考慮した入札・契約制度は実施しておりませんが、国や先行する自治体の動向を研究し検討してまいります。
- ・なお、入札参加資格審査においては、子育て支援や女性活躍支援について評価しています。

**【岡山市からの回答】**

- ・本市においては、現在のところ、若手・女性・シニアなどの技術者の活用・育成を考慮した入札制度は実施しておりませんが、今後は国や先行する自治体の動向を研究し、参考としていきたいと考えています。

**【広島市からの回答】**

- ・本市では、建設コンサルタント等業務において、若手技術者、女性技術者及びシニア技術者の活用・育成のための入札契約制度を実施していませんが、他の自治体等の状況を参考に、引き続き研究していきたいと考えています。

## II. 技術力による選定

### (1) (地方自治体) 発注方式の改善(技術力を基本とした選定・発注の仕組みの導入促進)

改正品確法第22条の「発注関係事務の運用に関する指針(運用指針)」に基づき、発注者の役割、責任として、以下の発注方式への取組みを強化

- ① 業務の内容や地域の実情等に応じたプロポーザル方式・総合評価落札方式による発注量の増加
  - 1) 国の「斜め象限図」の周知と適用促進
  - 2) 技術力・品質に優れた企業が選定されず、くじびきによる選定が多発する価格のみによる一般競争入札の撤廃  
(不良不適格業者の排除、簡易な技術競争の導入促進)
  - 3) ブロック発注者協議会での技術力を基本とする発注方式の議論

#### 【鳥取県からの回答】

- ・本県では試行を続けてきた総合評価落札方式を令和4年度から本格実施しており、価格帯や難易度を考慮し、地域密着型、簡便型、技術提案型(試行)それぞれの方式により、地域企業の受注機会の確保や技術力の評価を適切に行っている。総合評価の対象業務の選定にあたっては、国の「斜め象限図」も活用するよう担当者会議等で説明している。

#### 【島根県からの回答】

- ・本県では「斜め象限図」を参考に、業務が高度になるに従って、価格競争、総合評価方式、プロポーザル方式の順で落札方式の選定を行っています。(R2年度実績：総合評価6件、R3年度実績：総合評価5件・プロポーザル1件)
- ・本県では、くじ引きによる選定はほとんど発生していません。今後も、本県の実情を踏まえ、国および他県の取組状況等を参考にしながら、入札制度の検討を行って参りたいと考えています。
- ・ブロック発注者協議会では業務委託の発注方式の議論は特に行っていませんが、今後、各県の発注方式の実態など情報交換を行って本県に適した発注方式を検討したいと考えています。

#### 【岡山県からの回答】

- ・本県では、プロポーザル方式は業務内容に応じて高度な調査設計業務等において個別に実施しているところであり、今後も必要に応じて実施して参ります。また、土木工事の建設コンサルタンツ等業務では総合評価落札方式は実施しておりませんが、制度の導入については今後、検討して参りたいと考えております。

#### 【広島県からの回答】

- ・発注方式については、難易度や特殊性など、業務の内容に応じて適切に選定をしています。引き続き、業務の内容に応じた適切な発注方法を選定するよう、努めてまいります。

#### 【山口県からの回答】

- ・本県では、プロポーザル方式の統一的な制度は導入していませんが、個別案件として、令和2年度から技術的難易度が高い一部の業務においてプロポーザル方式を実施しています。
- ・令和5年度からは、一部の土木関係コンサルタンツ業務において総合評価方式を試行導入することとしており、試行状況の結果分析や先行する国や他の自治体の状況等を参考にしながら、制度の導入に向けた検討を進めてまいります。

#### 【岡山市からの回答】

- ・建設コンサルタンツ業務等の発注方法は原則一般競争入札としているが、必要に応じて個別にプロポーザル方式を実施しているところであり、プロポーザル方式については積極的な活用を進めていきます。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- ・入札契約方法の選択については、国や先行する自治体の事例を研究し、今後の参考としていきたいと考えています。

### 【広島市からの回答】

- ・本市の土木関係の建設コンサルタント業務において、プロポーザル方式や総合評価落札方式の事例はありませんが、創造性や高度な技術力等が求められる建設コンサルタント業者を対象とした一部の委託業務においては、プロポーザル方式や総合評価落札方式の事例が数件あります。
- ・総合評価落札方式やプロポーザル方式の技術競争による発注方式の活用については、今後、発注関係事務の改善に向けた更なる取組を推進する必要があることを踏まえ、国の動向や他の政令市の状況等を注視し検討していきたいと考えています。

## (2) (国、地方自治体) 地域の担い手づくりのための地域コンサルタントの活用の拡大と育成

### ① 地域のコンサルタントの技術力向上が図れる仕組みの導入促進

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・地域コンサルタントの技術力向上や育成を目的に、令和元年11月から「業務チャレンジ型」を試行しております。「業務チャレンジ型」は、業務成績、表彰実績を評価せず、災害協力・災害協定締結などの地域貢献度を評価し、求める実施方針を簡易なものとする事で、国土交通省の実績がない企業の競争参加機会を確保するものです。
- ・令和元年11月から令和4年3月末までに16件のチャレンジ型の業務を発注しております。
- ・また、令和2年9月からは、土木関係建設コンサルタント業務において、地元企業でも対応可能な業種（測量、地質調査）を含む業務を対象とした「地元企業参加型（JV評価）」を試行しております。
- ・引き続き、技術力向上や育成を目的としたこれらの仕組みを活用し、地域コンサルタントの受注機会確保に努めて参ります。

## Ⅲ. 品質の確保・向上

### (1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① 設計条件明示チェックシートの契約図書としての明確化（業務公示時の特記仕様書に添付）及び受発注者双方の効果的な運用・活用

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・予備設計等で作成した条件明示チェックシートを基に、事務所で「設計業務の条件明示検討会（仮称）」を開催し、詳細設計業務発注時に明示すべき設計条件を確認することとしております。
- ・条件明示チェックシートについては、契約後の業務着手時等に受注者に提示することとしておりますが、その確実な運用について、事務所に周知徹底するとともに、引き続き効果的な運用を検討して参ります。

#### 【鳥取県からの回答】

- ・契約図書に位置付けで発注しており、今後もこの取扱いを徹底したい。

#### 【島根県からの回答】

- ・令和3年度より業務条件書を整備し、特記仕様書とともに設計条件を明示する取組を行っております。今後も効果的に活用できるように努めます。

#### 【岡山県からの回答】

- ・本県では、設計条件明示チェックシートは活用しておらず、特殊な設計条件等がある場合には、発注時に特記仕様書に明示することとしておりますが、他県の状況を注視しながら検討して参りたいと考えています。



**【広島県からの回答】**

- ・条件明示チェックシートは導入しておりませんが、代わりに業務発注毎に設計条件を特記仕様書に明示しています。
- ・条件明示チェックシートの取組みについては、国や他県の動向を注視してまいります。

**【山口県からの回答】**

- ・本県では、設計条件については特記仕様書や業務条件書に記載することとしており、設計条件明示チェックシートは利用していません。その利用については、国や他の自治体の状況を参考に今後研究してまいります。

**【岡山市からの回答】**

- ・本市では、設計条件については、設計書や特記仕様書などに記載し、積算条件の明示に努めています。条件明示チェックシートについては、発注者と受注者の双方にとって必要であり、導入に向けて、国や先行する自治体の状況を参考にしながら、引き続き検討してまいりたいと考えています。

**【広島市からの回答】**

- ・本市では、設計書や特記仕様書等に設計条件等を記載するなど、設計条件の明確化に努めています。設計条件明示チェックシートの活用につきましては、引き続き研究していきたくと考えています。

**(2)詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保**

- ① 詳細設計における各工種の設計目的・設計条件・成果内容の明確化と適切な費用計上
  - 1) 施工計画における作業実態と歩掛との乖離の解消（見積り等により実態に即した費用計上）
  - 2) 特に指定仮設と任意仮設の仕様書や設計協議における違いの明確化、任意仮設と指定仮設の成果の取扱い（任意は参考図、指定は設計図）、その責任所在の明確化と歩掛の改善、指定仮設への条件変更時の設計変更

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・作業実態と歩掛に乖離がある場合は、見積等により適切に費用計上するよう、引き続き指導を徹底して参りますので、必要に応じて発注者との協議をお願いします。

**(3)維持管理・更新事業等における技術的課題解消に向けた発注契約方式などの改善**

- ① 設計者・施工者連携方式（設計の受注者が工事段階で関与する方式、工事の受注者が設計段階から関与する方式（ECI方式））の検討等合理的な入札契約制度の選定
  - 1) ECI方式については、橋梁修繕の他、災害対応も含めた設計者・施工者連携方式として活用

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・中国地方整備局では、技術提案・交渉方式「技術協力・施工タイプ」（ECI方式）を「国道2号大樋橋西高架橋工事」で活用したところであり、設計段階から施工者のノウハウを取り入れることにより効率的で安全な施工が可能となったこと等から、今後も、「工事の仕様の確定が困難な工事」「仕様の前提の決定が困難な工事」においては、技術提案・交渉方式の活用を検討します。
- ・また、橋梁修繕の他、災害対応も含めた設計者・施工者連携方式としても、要件が合致する案件がある場合においては、積極的な活用を検討します。

**② 点検・診断、補修・補強設計における適切な費用計上**

- 1) 点検・診断における仕様や積算条件の明確化とそれに基づく実勢価格に応じた積算価格の設定

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・「橋梁定期点検要領」及び「橋梁における第三者被害予防措置要領(案)」に基づく橋梁点検は標準歩掛により積算しております。
- ・その他の点検及び診断、補修、補強については、見積りにより積算しておりますが、現地の状況等により積算条件が異なるため、積算条件を明確にした上で見積りを行い、実勢価格に応じた積算を行うこととしております。

2) 補修・補強設計における条件明示と見積りによる適切な積算価格の設定、条件変更時の適切な設計変更

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・業務発注にあたっては、適正な条件明示に努めるとともに標準歩掛の適用がない設計にあたっては、見積りによる積算を行っているところです。
- ・引き続き、適正な条件明示と積算を行うよう事務所を指導して参ります。

③ 高度な技術が要求される場合の補修・補強設計業務におけるプロポーザル方式の採用

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・補修・補強設計業務の発注にあたっては、業務内容や規模等に応じ、適切な発注方式を選定しているところです。技術的に高度なものや専門的な技術を要する大規模又は特殊な構造物で、技術提案に基づいた仕様を作成することが優れた成果に結びつく業務については、プロポーザル方式の活用を行うこととしています。
- ・引き続き、貴協会や管内の地域コンサルタント関係団体等の意見も聞きながら、業務の特性に応じた発注方式を選定するとともに適切な運用を図って参ります。

**IV. 「DX推進の環境整備」と「成長と分配の好循環の実現」**

**(1)DXの推進**

① 受発注者協働による働き方改革に資するDX推進：DX推進による業務効率化の促進

1) 電子入札システム、電子契約システムを活用した「書類の電子化(電子決済、ペーパーレス化)」「手続きの簡素化」「情報の共有化」「移動・郵送等の時間短縮」の促進

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・中国地方整備局は令和4年3月22日に「中国地方整備局インフラDX推進計画2022」を策定しました。令和4年度からは本計画に基づき、社会経済状況の変化に対応した社会資本整備や公共サービスを提供するとともに、建設現場の生産性向上を図りつつ、整備局職員を含めた建設業界の働き方改革を実現することを目指し、各種取組を実施して参ります。
- ・電子入札システム、電子契約システム等の既存のシステムを活用するとともに、WEB会議システムやASPを有効活用し「書類の電子化」「手続きの簡素化」「情報の共有化」「移動・郵送等の時間短縮」等に努めて参ります。

2) 情報共有システム(ASP)を積極的に活用した「事業・業務の情報等に関する電子化」「情報共有化」の促進

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・業務における情報共有システム(ASP)については、受注者の希望により一部で活用されておりましたが、今後は受発注者双方の業務環境の改善による生産性向上をめざし、中国地方整備局では全業務を試行対象とする予定です。

3) 遠隔臨場を積極的に活用して「移動時間や待ち時間の解消」「現場情報の共有化」の促進

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・ 工事および業務の監督・検査業務における移動時間、時間調整および待機時間を削減するため、Webを活用した遠隔臨場を全面的に実施するとともに、フォローアップ調査を行い、課題を抽出、課題への対応についても検討して参ります。
- ・ 受注者の意向に沿って柔軟に対応しますので、適宜ご希望をご教示下さい。

4) テレワークガイドライン(案)の活用、発注者のテレワーク環境整備の加速化、各種技術基準類の電子化・Web公開などの推進

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・ 多様な働き方の実現のため、中国地方整備局の本局・事務所・出張所において、いつでもどこでも繋がるネットワーク、いつでもどこでも持ち運べるモバイルPCを整備しており、テレワーク環境整備を加速化しております。各種技術基準類についても電子化を基本としており、PDFでのWeb公開を推進して参ります。

① 受発注者協働による働き方改革に資するDX推進：DX推進による業務効率化の促進

**【(1)・(2)・(3)・(4)についての自治体からの回答】**

**【鳥取県からの回答】**

- ・ 今年度、情報共有運用ガイドラインを改訂し、測量等業務についても情報共有システムの利用を可能とする予定。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、打合せにおいてWEB会議システムを活用しているが、今後、遠隔臨場の要領を策定し、現場立会についても遠隔臨場を可能とする予定。なお、タブレット端末を各事務所に配布しており、出張等で職場外にいても遠隔で、打合せ、立会(遠隔臨場)が行える環境を整えている。
- ・ 各発注機関で契約事務の方法が異なっていたため、業務の効率化の観点から事務処理の統一化を検討している。
- ・ 受注者の入札情報収集も省力化のため、現在pdfで公開している調達公告をエクセルによる公開を検討している。

**【島根県からの回答】**

- ・ 平成30年度「島根県公共土木施設維持管理システム」により各種台帳や調書の電子化を行っております。令和5年度に次期システム運用を予定しており、より一層の事務負担の軽減、効率化が可能となるよう検討して参ります。
- ・ ASPサービスについては、新型コロナウイルス感染防止対策を契機として、R3年度からの本格運用(原則、2億円以上の工事は必須)として取り組みを進めているところです。
- ・ 遠隔臨場については、令和2年10月に「建設現場等の現場の遠隔臨場に関する試行要領(案)」を定め試行を実施しています。また、受注者が容易に遠隔臨場に取り組めるよう、昨年8月に県内各事務所へパソコンやタブレット端末等の機器を配備したところです。(パソコン：16台、タブレット：70台)
- ・ その他、今後も国や他県の状況およびテレワークガイドライン(案)等を参考にしながら、引き続き業務の効率化につながるよう検討して参ります。

**【岡山県からの回答】**

- ・ 電子入札システムは活用済みですが、電子契約システムについては、検討中です。他県の状況を注視しながら検討を行って参りたいと考えています。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- ・委託業務の情報共有システムについては、新型コロナウイルス感染症対策の臨時措置として、機能の一部が利用できることとしております。全面的な運用については、他県の状況を注視しながら検討して参りたいと考えています。
- ・遠隔臨場については、現在工事への導入を検討しているところであり、今後、効果や課題等の検証を行い、業務委託にも導入するか検討して参りたいと考えております。
- ・各種技術基準類の電子化、Web公開については、著作権の問題も含めて研究して参りたいと考えております。

### 【広島県からの回答】

- ・電子入札システムについては、平成16年度から建設工事及び建設コンサルタント業務の入札に利用しています。また、電子契約システムについては、導入に向けて検討を進めているところです。
- ・情報共有システムについては、平成25年度から電子納品を行う全ての案件を対象に、県が調達した情報共有システムを利用することとしております。
- ・遠隔臨場については、令和3年10月から、「建設現場等の遠隔臨場に関する試行要領」を制定し、受注者から希望があった場合の業務を対象に実施することとしております。なお、機材(リース料)や通信費は、設計変更で計上できることとしています。
- ・テレワークについては、令和元年度に全職員がテレワークを実施できる環境を整備し、情報共有システムやWEB会議システム等を活用した、打合せや検査を実施しているところです。なお、WEB会議等の機材(リース料)や通信費は、設計変更で計上できることとしています。また、設計図書の電子閲覧や、共通仕様書や標準積算基準書などの基準書類の電子化・Web公開も行っております。

### 【山口県からの回答】

- ・本県においては、電子入札システムを導入済みです。また、電子契約システムについては導入に向けた検討を進めています。
- ・情報共有システム(ASP)及び遠隔臨場について、全ての工事及び業務を対象として、受注者が希望する場合に活用できるものとしています。
- ・テレワークについては、デスクトップPCからノートPCへの更新やWEB会議のソフト導入、公用携帯番号の付与等により実施可能な環境を整備しています。また、県の各種技術基準やマニュアル等については県のホームページ上で公開しています。

### 【岡山市からの回答】

- ・一般競争入札の案件においては、全て電子入札を実施しています。また、参加資格の確認書類についても電子化を図っているところです。
- ・電子契約については、国や先行する自治体の事例を研究し、今後の参考としていきたいと考えています。
- ・情報共有システム(ASP)については、本年度から一部の工事で試行的に活用を予定しています。
- ・遠隔臨場については、岡山市が発注するすべての工事(営繕工事及び小規模工事を除く)を対象とし、受注者希望型で実施しているところです。また業務委託では未実施であり、今後他都市の状況をみて検討してまいりたいと考えています。

### 【広島市からの回答】

- ・現在導入している電子入札システムについては、業務効率化の観点から改善の余地がないかについて、電子契約システムについては、その導入等について、他の自治体等の状況等を参考に検討してまいりたいと考えています。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

- ・情報共有システム及び遠隔臨場の活用促進については、本市では一部の工事を対象に試行しているところであり、今後、更なる活用促進について検討したいと考えています。
- ・テレワークについては、本市では職員の勤務形態の一つとして導入しているところですが、セキュリティの関係等により、土木職員のテレワークは限定的なものとなっているのが現状です。今後、必要に応じて改善していきたいと考えています。技術基準類の電子化・Web公開などの推進については、本市ではホームページに技術基準等を公開しています。今後も、必要な情報は公開していきたいと考えています。

### ② i-ConおよびBIM/CIMの推進（ライフサイクルマネジメントの生産性向上）

#### 1) 3次元モデル成果物作成要領（案）の充実（業務実態の調査・把握、改定・工種の拡大）

##### 【中国地方整備局からの回答】

- ・BIM/CIM活用の全国的な基本方針としては、令和5年度からの全面活用を目標として、令和2年度から大規模構造物の予備設計・詳細設計は原則活用対象とし、初期段階の概略設計等においても積極的に活用することとされています。
- ・中国地方整備局では、橋梁やトンネル及びダムなどの大規模構造物に加え、令和4年度からは道路設計と樋門設計も「発注者指定型」で発注するなどしてBIM/CIMの適用拡大に取り組んでおります。また、新規着手する事業箇所では、測量・調査段階からの3次元データ利活用を積極的に推進します。
- ・「3次元モデル成果物作成要領（案）」については、令和4年度に改定を行い工種の拡大を行ったところです。引き続き、実態調査・把握を行い、BIM/CIMの活用拡大に向け検討して参ります。

#### 2) BIM/CIM設計照査シートの充実（対象工種の拡充、段階的に必要となる照査項目の設定、「条件明示チェックシート」および「施工条件明示チェックシート」との整合性の確保）

##### 【中国地方整備局からの回答】

- ・3次元モデルの設計照査については、「BIM/CIM設計照査シートの運用ガイドライン（案）」のBIM/CIM設計照査シートで定められている照査項目を確認することで、成果の品質確保や手戻り防止等につながると考えております。BIM/CIM設計照査シートの充実については、上記要領の工種拡大にも対応するよう本省に伝えて参ります。

#### 3) 積極的な活用事例の発信（BIM/CIMポータルサイトの活用）

##### 【中国地方整備局からの回答】

- ・中国地方整備局では、令和元年度から令和2年度にかけて実施された事例をもとに「BIM/CIM活用の手引き（案）」をとりまとめております。この手引き案を活用していただくべく、外部識者で構成される「中国地方生産性向上研究会」と連携しながら積極的な発信について取り組んで参ります。
- ・中国地方整備局でとりまとめたBIM/CIM活用事例は、BIM/CIMポータルサイトに掲載してもらうよう本省と調整して参ります。
- ・BIM/CIMポータルサイトに掲載されている情報を、BIM/CIM勉強会や講習会等で積極的に活用して参ります。

#### 4) デジタル情報のサプライチェーンの構築に向けた「IFC検定制度」の活用による3Dソフトの開発目標の明確化、照査の自動化およびアノテーション機能等の強化の開発促進の要請、東京大学i-con寄付講座協調領域検討会と協働によるAPIの開発のあり方の検討の促進

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・3Dソフトの開発における制度構築や開発目標、あるいは機能の強化については、外部識者で構成される「中国地方生産性向上研究会」において、業界の状況や意見を参考にしながら、本省や国総研と連携して取り組んで参ります。
- ・具体的なご意見やご要望等あれば本省や国総研に伝えて参ります。

5) BIM/CIMモデルを管理・継承するマネジメント体制・役割の検討の促進

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・BIM/CIMモデルを管理・継承するマネジメント体制・役割については、今後の課題と認識しております。BIM/CIMモデルの維持管理への活用等、本省や国総研と連携して取り組んで参ります。

## 鳥取県との意見交換会（R4.11.1開催）

令和4年11月1日（火）、鳥取県庁において、鳥取県と建コン協中国支部及び鳥取県委員会の意見交換会が対面方式で開催されました。

鳥取県からは県土整備部の前田次長をはじめ6名の幹部職員等が、中国支部からは小田支部長、金本業務部会長、吉岡同副部会長及び、鳥取県委員会から井上委員長をはじめ5名の委員

の計8名が出席しました。

今回は、「担い手確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」、「DX推進の環境整備と成長と分配の好循環の実現」の4項目について意見を交わすことができました。

議事の要旨は下表のとおりです。



建コン協会中国支部 小田支部長 挨拶



鳥取県土整備部 前田次長 挨拶

### 鳥取県との意見交換会要旨

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び鳥取県からの回答

#### I. 担い手の確保・育成のための環境整備

##### (1)建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

###### ① 履行期限（納期）の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化

1) 納期分散の実現のため、納期目標と整合を図った施策の強化と計画的展開（ゼロ県債・翌債などの活用、繰越の柔軟な運用など）【論点①】

従来から履行期限の平準化にご配慮いただき感謝申し上げます。本協会では、以下に示す納期の分散目標を示し、一層の平準化（特に第4四半期及び3月納期）をお願いしているところです。  
働き方改革、生産性の向上に向けて、R3年度に期間別工期割合を示して頂き、3月末工期の減少に向けて取組むことをお聞きしましたが、その後どのように取組まれているのかをご教示願います。

###### 【納期の分散目標】

第1四半期	20%程度	※鳥取県の実績
第2四半期	30%程度	※鳥取県の実績
第3四半期	15%程度	※鳥取県の実績
第4四半期	35%程度	※鳥取県の実績
3月	15%以内	※鳥取県の実績

**【鳥取県からの回答】**

- ・ゼロ県債、早期繰越を活用することで、今後とも履行期限の平準化、適正工期の確保に積極的に取り組みます。なお、3月に工期が集中する傾向はあるものの、その割合は減少傾向にあり、引き続き3月工期を減らす取り組みを進めていきます。

**【期間別工期割合】**

年度	4～9月期	10～12月期	1～3月期	3月工期
H27	20.2%	20.9%	58.9%	42.5%
H28	24.4%	20.3%	55.2%	37.3%
H29	32.8%	18.0%	49.2%	32.3%
H30	30.0%	19.8%	50.2%	32.1%
R 1	39.0%	11.6%	49.4%	35.9%
R 2	29.4%	22.3%	48.3%	32.2%
R 3	32.0%	21.0%	47.0%	33.1%

- 2) 発注時及び変更時における条件明示の徹底による標準履行期間を踏まえた適切な履行期間の確保 **【論点②】**

鳥取県において「設計業務品質確保ガイドライン」を活用した条件明示が行われています。品質確保・手戻り防止・生産性向上などに向けて、引き続き一層の徹底をお願いいたします。このうち、R3年度にガイドラインの適用を徹底するように回答して頂いていますが、鳥取県における「設計業務品質確保ガイドライン」の運用状況についてご教示願います。

**【鳥取県からの回答】**

- ・設計業務品質確保ガイドラインは、設計業務における発注者側からの条件明示の明確化と工事発注時の施工条件の基礎資料とすることを目的に、平成30年3月に策定し、また同年4月以降、特記仕様書に位置付けることで、設計業務の品質確保・向上、生産性向上を図っています。

- ② 受発注者協働によるワークライフバランスの更なる改善に向けての施策の推進・強化

1) 「ウィークリースタンス※」の全業務への適用と実施報告の徹底による確実な推進 **【論点③】**

※マンデー・ノーピリオド、ウェンズデー・ホーム（ノー残業デー）、フライデー・ノーリクエスト、資料作成依頼を正規の勤務時間外に行わない、資料作成依頼を行う場合は適切な期間を確保することなど。

鳥取県においては「労働の改善に向けた取組」について文書通知に基づき、上記のような活動の浸透・拡大が行われていますが、引き続き一層の徹底をお願いいたします。このうち、R3年度には災害等の緊急業務で一部適用できない業務はありますが、引き続き労働環境改善の取組みを進めていくとの回答を頂きました。鳥取県における具体的な取組みと効果等を検証されたものがあればご教示願います。

**【鳥取県からの回答】**

- ・平成28年度にワンデーレスポンス、ウェンズデーホーム等、受発注者双方が業務を進める上での基本スタンスを示した「労働環境の改善に向けた取組」について通知し、またR3年4月1日以降、特記仕様書に位置付けることで、受発注者双方の労働環境改善を図っています。
- ・なおアンケート調査等の検証は行っていません。

- 2) 受発注者協働による働き方改革に資するDX推進

→Ⅳにて詳述

- ③ BIM/CIM活用による建設生産・管理システム全体に係る生産性向上への取組み

→Ⅳにて詳述



**(2)企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備**

## ① インフラ整備の中長期事業計画の策定・公表と安定的な事業量の確保【論点④】

「防災・減災、国土強靱化のための5ヵ年加速化対策」が令和2年12月に閣議決定されました。この加速化対策を受け、鳥取県においても「鳥取県国土強靱化地域計画（第2期計画）」に基づき各種事業が行われていると推察されますが、県土整備部に関わるR4年度の事業概要ならびに重点施策（予算）につきましてご教示願います。

**【鳥取県からの回答】****【県土整備部の5ヵ年加速化対策の概要】**

(事業費：百万円)

区 分	5ヵ年加速化対策（R3～R7）		
	R2補正	R3補正	事業概要（重点施策）
河川関係	3,604	2,574	河道掘削、河川改修、流域治水対策等
治山砂防関係	1,504	2,556	砂防堰堤、急傾斜地・地すべり対策等
道路関係	5,901	6,847	ミッシングリンク解消、災害防除等
港湾・漁港関係	218	164	防災対策、老朽化対策等
計	11,227	12,141	

## ※R4国補正の動向

- ・スケジュールとしては昨年同様12月に国内示があると想定（予算金額不明）。
- ・事業概要については昨年と同様と想定。

## ② 技術者単価の継続的な引き上げと実態に即した歩掛・積算体系への改善及び整備、適切な費用計上【論点⑤】

10年連続で設計業務委託等技術者単価を上げていただき、感謝申し上げます。この技術者単価アップの動向は国の方針が大きく影響していると思っておりますが、継続的な引き上げをお願いいたします。また、R3年度検討事項となっております橋梁補修に係る点検、設計歩掛についての改正状況をご教示願います。

**【鳥取県からの回答】**

- ・技術者単価は、国土交通省が給与実態を調査して決定しています。
- ・橋梁補修に係る点検、設計歩掛については、実態を把握し、引き続き検討していきます

**II. 技術力による選定****(1)鳥取県における発注方式の改善（技術力を基本とした選定・発注の仕組みの導入促進）**

改正品確法（令和元年6月）第22条の「発注関係事務の運用に関する指針（運用指針）」に基づき、**発注者の役割・責任として以下の発注方式の改善への取組みの強化**

## ① プロポーザル方式・総合評価落札方式による発注量の増加【論点⑥】

県内向け業務（「難易度が高い」業務）で試行されていた「簡便型総合評価入札方式」が、令和4年度から本格導入され、「抽選の回避」、「落札率アップ」という点で大きな進展と考えます。しかしながら、一方で、次項のような課題も挙げられます。

- 受注減点が多いことから（技術点約40点満点に対し、1業務目の受注で30点減点）、特定企業が連続して受注することは無く、入札への全参加企業が概ね順番に受注可能な制度となっている。
- このため、応札行動は、業務内容よりも業務価格により支配される傾向が強い。
- 特に年度当初（全社未受注の段階）は、低価格の業務が不調になるリスクが高い。
- 受注機会が限られる簡便型総合評価入札方式のため企業として、業務進捗と生産金額に依存する事となります。しかし、業務受託時の地元調整不足により業務工期が長期間となるケース又は、用地調査打ち切りにより減額完了するケースなど企業経営に大きく影響を与える事がある。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び鳥取県からの回答

この方式は、参加企業すべてが同程度の規模・技術力であれば、合理的な制度と考えられますが、規模・技術力にバラツキがある場合は、総合評価本来の「品質と価格」による評価という目的から大きく乖離する可能性があります。一方、県内・県外向け業務は、調査基準価格での抽選による落札者決定という状況が続いております。

このような現状及び、総合評価落札方式の本来の目的である「品質確保・向上」という視点を適切に反映できるように、入札契約制度の継続的な改善をお願いしております。このうち、R3年度には、品質確保・向上に向けて継続して入札契約制度の見直しが必要とのお考えをお聞きし、発注機関及び県内コンサルタントに意見を聞きながら改善を行っていくとの回答を頂いています。さらに令和3年度に実施されました鳥取県包括外部監査からもご意見がありました。このような状況を踏まえその後の具体的な取組み内容についてご教示願います。

### ■建コンの考える改善案

#### 【改善(案)】

〈県内向け業務に対して〉

##### ○簡便型総合評価方式の改善(例)

業務特性(業務分野、難易度、予定価格等)に応じて適切な参加要件(入口条件)を設定  
参加要件の例：業務実績、建コン登録、技術士などの資格、業務成績 等

〈県内・県外向け業務に対して〉

##### ○簡便型総合評価方式の導入(例えば、配置技術者の資格、鳥取県内における同種業務の実績、鳥取県の業務成績評定点、「簡易な提案書」等を評価項目とする方式)

##### ○プロポーザル方式、技術提案型総合評価方式の増加(提案書の簡素化も要検討)

#### 【鳥取県からの回答】

- ・県内向けの簡便型及び地域密着型総合評価入札については、極力簡易な方法で各社の技術力を評価することで、入札事務の簡素化と一定の品質が確保できるものと考えています。
- ・一方で、県内・県外向け業務においては、ご指摘のとおり調査基準価格での抽選による落札者決定という状況が続いており、課題があると認識しています。
- ・令和4年度から総合評価による発注を基本としており、発注件数の増加が見込まれることから、「県内の建設業界等の健全な育成」、「公共工事の品質確保」の観点を踏まえながら、落札結果の分析やシミュレーションなどにより、適正な入札制度の在り方について検討していきます。

### Ⅲ. 品質の確保・向上

#### (1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

##### ① 品質確保・向上に資する施策の継続的改善

##### 1) 施工条件明示チェックシートの契約図書としての明確化及び効果的な運用・活用【論点⑦】

公共施設の施工における品質確保・向上に向けて、国土交通省などで「施工条件明示チェックシート」を活用した試行が行われています。

R3年度、鳥取県においても国土交通省の取組みを参考に今後活用を検討するとの回答を頂きましたが、その後の取組み状況についてご教示願います。

**【鳥取県からの回答】**

・発注者の責任として工事発注前に条件明示チェックシートを基にチェックを行うこととしています。

また工事発注後に設計図書に誤り等がある場合も、発注者の責任として内容を確認し、建設業者へ回答を行うこととしています。

2) BIM/CIM 設計照査シートの充実

→Ⅳにて詳述

**(2)維持管理・更新事業等における技術的課題解消に向けた発注契約方式などの改善**

① 設計者・施工者連携方式（設計の受注者が工事段階で関与する方式、工事の受注者が設計段階から関与する方式（ECI方式））の検討等合理的な入札契約制度の選定【論点⑧】  
橋梁補修などの分野において、令和3年度上記のECI方式を導入する予定はないとのことでしたが、その後、見直し等があればご教示願います。

**【鳥取県からの回答】**

・現時点で導入予定はありません。

**Ⅳ. 「DX推進の環境整備」と「成長と分配の好循環の実現」**

**(1)DXの推進**

① DX推進による業務効率化の推進【論点⑨】

前年度の意見交換会にて、Web会議、テレワークの拡大なども視野に入れ、各種業務の効率化のためICTの活用等DXの推進はますます重要になってくることを述べさせて頂きました。今年度も引き続き以下の項目への取組み（予定・方向性）についてご教示願います。

1) 電子入札システム、電子契約システムを活用した「書類の電子化（電子決済、ペーパーレス化）」、「手続きの簡素化」、「情報の共有化」及び「移動・郵便等の時間短縮」の促進

**【鳥取県からの回答】【技術企画課】**

・業務の効率化は重要な課題と考えており、他自治体の動向などにも注視しながら、導入の可能性を探ってまいりたいと思います。「手続きの簡素化」については次のとおり検討しています。

・技術者状況調査で提出済の情報を入札に利用

・入札参加資格申請の電子受付

2) 情報共有システム（ASP）を積極的に活用した「事業・業務の情報等に関する電子化」及び「情報共有化」の推進

**【鳥取県からの回答】**

・今年度中に情報共有システムの運用ガイドラインを改正し、対象に測量等業務を追加することとしています。

3) 遠隔臨場を積極的に活用して「移動時間や待ち時間の解消」及び「現場情報の共有化」の促進

**【鳥取県からの回答】**

・今年度中に遠隔臨場に係る運用を策定し、測量等業務も遠隔臨場の対象とすることとしています。

4) テレワークガイドライン（案）の活用、発注者のテレワーク環境整備の加速化、各種技術基準類の電子化、Web公開等の推進

**【鳥取県からの回答】**

・発注者のテレワーク環境については、全庁的な取組みとして昨年度から順次導入されており、本年度から事務所等を含め本格実施されています。また、鳥取県の作成する各種技術基準類については、電子化（PDF化）及びWeb公開を順次進めています。

---

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び鳥取県からの回答

---

### ② i-Con及びBIM/CIMの推進(ライフサイクルマネジメントの生産性向上)【論点⑩】

#### ● 3次元モデル成果物の充実(業務実態の調査・把握、改訂・工種の拡大)

鳥取県におけるBIM/CIM業務の進め方及び3次元モデル成果物の充実に関わる取り組みについてご教示願います。

#### ● BIM/CIM設計照査シートの充実

※対象工種の拡充、段階的に必要となる照査項目の設定、「条件明示チェックシート」及び「施工条件明示チェックシート」との整合性の確保

鳥取県におけるBIM/CIM業務の品質を確保するには、「BIM/CIM設計照査シート」を整備し、照査項目を明確にする必要があると考えますが、今後、「BIM/CIM設計照査シート」の整備等に関わる取り組みについてご教示願います。

---

### 【鳥取県からの回答】

- ・ 3次元測量設計については、概略設計、詳細設計、地元説明用資料等を対象として、試行を継続しています。3次元測量設計には、3次元測量の手戻り、CAD間の互換性の低さ等の課題があり、鳥取県では引き続き試行を継続することとしています。
- ・ 試行では業務の設計図書毎に、最新の国土交通省の基準・要領等に従うこととしています。
- ・ 基準類の整備については、浜坂キャンパスでの検証を基に、今後の国土交通省の動向を見ながら検討します。

---

### (2)DXの指針の費用面の環境整備

---

#### ① BIM/CIM活用の業務価格の算定方法の見直し【論点⑪】

##### 1)「BIM/CIM標準歩掛」の段階的な設定、「BIM/CIM使用料」の計上

鳥取県での「BIM/CIM関連業務」の業務価格の算定方法の見直し(BIM/CIM業務の実績ベースでの歩掛、今後発注予定の業務歩掛の設定)についてご教示願います。

---

### 【鳥取県からの回答】

- ・ 県の歩掛において、実績との乖離がある場合は情報提供をお願いします。

---

#### ② DX及びテレワーク等に対する一般管理費の見直し【論点⑫】

##### 1)「一般管理費等係数(β)」の見直し

DX及びテレワークに対応するため各企業は環境整備費など費用増加が不可欠となっております。今後、鳥取県での「一般管理費等係数(β)」の見直しについてご教示願います。

---

### 【鳥取県からの回答】

- ・ 国交省の動向を見ながら導入を検討します。
-

## ■ 広島県との意見交換会（R4.11.7開催）

令和4年11月7日(月) 広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、広島県と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島県からは細羽総括官をはじめ7名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と坪井副支部長、來山総務部会長、山本技術部会副部会長、金本業務部会長をはじめ19名が出席しました。

今回は、一般テーマとして「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」、「DX推進の環境整備」の4項目、特定テーマとして1項目について意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



細羽総括官の挨拶



小田支部長の挨拶

### ■ 広島県との意見交換会要旨

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

#### I. 担い手の確保・育成のための環境整備

##### (1) 受発注者協働による働き方改革および生産性向上の推進・強化

① 業務の平準化については、積極的に取り組んでいただいておりますが、引き続き、繰り越しの柔軟な対応を含む標準履行期限の確保、前倒し発注等発注時期の分散化による業務納期の平準化への取り組みの継続をお願いします。

##### 【広島県からの回答】（技術企画課）

・ 働き方改革の観点からも業務の平準化の取り組みはしっかりと行っていく必要があると意識しています。このため、適切な履行期間の確保や、繰越制度等の柔軟な運用については、引き続きしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

② すでに、「労働環境改善」として、ウィークリースタンスを実践していただいておりますが、今後とも、着実な推進と形骸化しないような取り組みをお願いします。

##### 【広島県からの回答】（技術企画課）

・ 令和元年6月より、災害対応等緊急を要する業務を除く全ての業務を対象に、労働環境の改善を図ることを目的にウィークリースタンスを実施しています。

・ 引き続き、受発注者双方で設定したウィークリースタンスの実施項目を着実に実行するよう取り組んでいこうと考えておりますが、もし業務に取り組んでいく中で、課題や、問題点がありましたら、技術企画課の方に相談いただけたらと思っております。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

- ③ 共通仕様書に明示されているワンデーレスポンスについては、関係職員に対して文書で周知していただいておりますが、引き続き、着実な取組みをお願いします。

### 【広島県からの回答】（技術企画課）

- ・②と同じように、しっかりと行っていくことが、業界のいろんな働き方改革につながっていくと考えております。引き続きワンデーレスポンスを務めるようしっかりと、県内の調査職員に対して周知徹底するよう行っていこうと考えております。

- ④ 成果品の品質確保、業務の手戻り防止のため、「設計・測量チェックマニュアル、H13.4」により、受発注者間で情報共有していただいております。一方、業務の進捗管理においては、業務スケジュール管理表が有効と考えられますので、引き続き、導入・活用に向けての検討をお願いします。

### 【広島県からの回答】（技術企画課）

- ・現在、業務の進捗管理につきましては、業務着手時に、皆様から業務計画書を提出していただいている。この業務計画書において、業務工程を記載して頂き、それを受発注者間で共有するとともに、業務中におきましては履行報告書を毎月受注者から提出して頂き、そういった取り組みの中で、スケジュールの管理を行っていきようにしています。
- ・業務スケジュール管理表の導入・活用につきましては、他県の動向や・活用の効果を把握したうえで、今後導入するかどうかについて対応を検討していきたいと考えています。

## (2)企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備

- ① 安定的な企業運営の観点から、管理技術者が複数の業務に従事する必要があります。引き続き、合併業務における管理技術者配置条件の緩和の検討をお願いします。（例えば、国土交通省同様、管理技術者の配置を業務全体で1名とする等）

### 【広島県からの回答】（建設産業課）

- ・県の方で発注する業務は業務内容を踏まえて、異なる業務分野を一体として発注する業務は少なくなるよう取り組んでいますが、やむを得ず異なる業務分野を一体として発注する場合、こういった場合の管理技術者の取り扱い等につきまして、発注の実態を把握したうえで対応を検討していきたいと思っております。

- ② 品質確保・向上のための担い手確保・育成や技術力向上、生産性向上に資する情報基盤（BIM/CIM使用料、DX推進、テレワーク導入等を含む）への企業投資の必要性が増大しています。このため、直接経費、一般管理費用等の見直しの検討をお願いします。

### 【広島県からの回答】（技術企画課）

- ・働き方改革の一環で遠隔臨場やWEB会議など、これはコロナと関係なく平常の業務でも、しっかりと積極的に行ってくださいと指示しているところです。
- ・遠隔臨場やWEB会議等の必要な経費につきましては、県の方で計上できるようにしているところですが、ご質問にありましたDX等の推進にかかる経費等につきましては、国の積算基準に準じているところです。
- ・直接経費や一般管理費等については国の会計に応じて適切に計上していきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

## (3)人材の確保・育成

- ① 若手技術者・女性技術者の活用促進に向けて総合評価落札方式（実績評価2型）の評価項目を導入していただいております。引き続き、若手技術者の年齢制限の緩和（例えば国土交通省と同様、45歳以下の若手とする）の検討をお願いします。

**【広島県からの回答】（技術企画課）**

- ・本県では、中長期的な担い手確保の取り組みといたしまして、令和2年度に、若手の技術者、そして令和3年度から女性技術者を総合評価において評価をするよう導入してきたところです。
- ・ご提案していただいた、若手技術者の年齢制限の緩和につきましては、現在行っております総合評価の導入による効果を検証しながら今後運用について、どうあるべきか検討していきたいと考えております。

② モチベーション向上を目的とした若手技術者・女性技術者の表彰制度の検討をお願いします。

**【広島県からの回答】（技術企画課）**

- ・表彰制度インセンティブの付与等につきましては、若手技術者や、女性技術者の業務への従事状況を踏まえて検討していきたいと考えております。

③ 「高年齢雇用安定法」改正、施工を踏まえ、シニア人材活用のための制度についても導入検討をお願いします。

**【広島県からの回答】（技術企画課）**

- ・本県では、中長期的な担い手確保・育成の取り組みといたしまして、若手技術者を増やしていくということで、先ほど申しました評価を導入しているところです。
- ・若手技術者の育成を踏まえたシニア人材の活用の導入について実際のシニア人材の活用の実態を踏まえて検討していきたいと思っております。

**II. 技術力による選定**

① 業務の品質確保の観点から技術力により選定され、技術力を発揮した業務遂行が必要と考えています。「測量・建設コンサルタント等業務発注事務処理要綱・総合評価落札方式試行要領」に加えて、斜め象限図を活用した発注方式の採用・拡大をお願いします。

**【広島県からの回答】（技術企画課）**

- ・県の方では、業務の難易度や特殊性などに応じて、発注方式を適切に設定しているところですが、引き続き難易度や特殊性などに応じて適切にできるよう努めてまいりたいと思います。

② 県内の市町においても技術力による選定が必要と考えています。引き続き、技術力による選定のための市町の入札制度改定への指導をお願いします。

**【広島県からの回答】（技術企画課）**

- ・市町に対しましては、公契連での取り組みでありますとか、国や県において、発注者協議会において、入札制度について意見交換する場があります。県の発注者協議会において意見交換する場があり、ここで情報提供しているところです。引き続き、市町に対してこうした場を利用して助言等を行っていききたいと考えております。

**III. 品質の確保・向上**

**(1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取り組み**

① エラー防止の取り組みとして、受発注者合同現地踏査については、業務特性に応じて、特記仕様書に明示し、実施することになっています。国交省では既に全ての業務において導入されており、その有効性が確認されています。引き続き、取り組みの強化をお願いします。

**【広島県からの回答】（技術企画課）**

- ・本県においては、設計測量チェックマニュアルを制定しており、打合せ段階で、業務の主要事項や設計等の基準値を定めたチェックシートを受発注者間で情報共有して、業務成果品の品質確保やエラー防止を図っているところです。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

- ・受発注者による合同現地踏査につきましては、設計条件や施工の留意点など、明確化や共有を図ることができ、成果の品質向上につながると認識しております。業務内容を踏まえて今後も引き続き取り組んでいきたいと考えております。

### (2)詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保

- ① 施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」を実施していただいております。地質技術者を加えた合同会議は、設計者、施工者、地質技術者相互にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果が期待されますので、引き続き、積極的な推進をお願いします。

#### 【広島県からの回答】（技術企画課）

- ・三者会議につきましては、事業目的や設計条件等の情報共有や施工上の課題など、必要と判断した工事を対象として実施しているところでございます。
- ・これにつきまして、本県7月に職員向けの説明会等において周知したところでありまして、引き続き三者会議の活用が図れるよう取り組んでいきたいと思っております。

## IV. DX推進の環境整備

### (1)DXの推進

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、Web会議が積極的に活用されるようになりました。平常時においてもWeb会議の有効性が明らかになっておりますので、引き続き、積極的な活用の推進をお願いします。

#### 【広島県からの回答】（技術企画課）

- ・本県につきましてはWEB会議システムを活用した打ち合わせ、検査につきましては、新型コロナウイルスの感染症の拡大を契機にいろいろな取り組みを行ってきたところでございます。
- ・新型コロナウイルスの感染症の拡大防止のみならず、平常時においても使用できるように令和3年9月に通知したところでございます。
- ・受発注者の業務の効率化の観点からも、こうした取り組みを引き続き積極的に活用していきたいと考えております。
- ・受注者さんのほうからも、こういった取り組みを行っておりますので、発注者の方に、こういった取り組みを活用していきたいという申し出も行っていただきたいと考えております。

- ② 「広島デジフラ構想」において、電子契約システムの導入検討が実施されていますが、その中で、契約関係書類の簡略化・電子化等、ICTを活用した業務手続きが効率化されるようお願いいたします。

#### 【広島県からの回答】（建設DX担当）

- ・広島デジフラ構想のなかで電子契約についても触れておりまして、電子契約システムにつきましては、例えば、3次元のCADデータなどの大容量のデータの活用が進むと予想されておりますので、これらのデータも契約図書として扱うことも想定したうえで、令和6年度より運用ができるよう、それを目指して進めているところでございます。

- ③ 「広島県工事中情報共有システム」の活用により、業務関係書類の電子的なやり取りや情報共有が可能になっています。継続的に、モニタリングしていただき、必要に応じて改善検討をお願いします。

#### 【広島県からの回答】（建設DX担当）

- ・「広島県工事中情報共有システム」につきまして、トップ画面等、ユーザーの意見を聞き、一部改訂をしたところでございます。引き続き、利用者の皆様の声をサービス提供者の方に伝えていきたいと思っております。



---

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

- ④ 広島県発行の「道路事業設計要領【設計編】」、「設計・測量チェックマニュアル」等、最新情報による改訂がなされていない基準類等がありますので、必要に応じて更新をお願いします。また、合わせて、基準類等の電子化、および、公開をお願いします。

---

### 【広島県からの回答】（技術企画課）

- ・基準類の改定のお話でございますが、このうち、測量設計チェックマニュアルは、かなり古いものでありまして、皆様にもご迷惑をおかけしているところでございます。この測量設計チェックマニュアルは、改定に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。
- ・その他の基準につきましては、道路の基準については道路整備課等の担当としておりますので、そういった部分につきましては、関係機関にお話しておりますので、必要に応じて、更新することとなろうかと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。
- ・電子化の公開につきましては、基準類につきましては、電子データ、PDFファイルになりますが、広島県のホームページの調達情報に掲載しているところです。
- ・今後も引き続き、内容の充実を図っていきたいと考えております。

- ⑤ BIM/CIM活用業務の拡大が図られていますが、種々の課題が明らかになりつつあります。引き続き、受発注者連携により、意見交換会等を通じた情報共有や課題解決の取組みをお願いします。

---

### 【広島県からの回答】（建設DX担当）

- ・本県では平成30年度より、CIM推進モデル業務を実施しており、本年度は、主要な土木構造物において実施しているところでございます。
- ・今後さらなるCIM活用業務の拡大にあたりましては、さまざまな課題を把握したうえで、行く必要があることから意見交換の場を設定したうえで、対応していきたいと考えております。

- ⑥ 3次元設計データ作成や3次元モデル作成における当面の業務量の増大に対する措置（余裕もった履行期限の設定等）の検討をお願いします。合わせて、詳細度に応じた3次元モデル作成についての積算体系の早急な整備をお願いします。

---

### 【広島県からの回答】（建設DX担当）

- ・3次元データや3次元モデルの作成にかかる業務実態を把握したうえで、業務期間も含め、適切な業務が履行できるよう努めてまいります。
- ・積算体系の整備については、国の基準・要領等の整備動向等を注視しながら検討していきたいと考えております。
- ・3次元設計に必要な費用につきましては、業務により、3次元設計を行う範囲や詳細度もさまざまであることから、国においても、標準歩掛が設定されていないため、現在、見積もりにより対応しているところであります。

---

## V. その他

- ① 平成26年に改正品確法が施行されましたが、未だ最低制限価格や低入札価格調査制度を導入していない県内の市町があります。ダンピング受注防止の観点からも引き続きご指導をお願いします。

---

### 【広島県からの回答】（技術企画課）

- ・市町に対しましては、公契連による取り組みとが、国や、県の入札契約制度について発注者協議会を通じて情報提供しているところでございます。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

- ・ダンピング対策につきましては、本年度も、4月に大崎上島町、世羅町、10月に神石高原町が対策を導入したところございまして、現時点で、ダンピング対策を導入していないのは、江田島市の1市のみでございます。
- ・江田島市さんについても、伺った内容では、本年度中に制度を導入する予定で検討しているとのことでした。
- ・引き続き、改正品確法の趣旨を踏まえて、市町と連携を取りながら進めていきたいと思っております。

## 【特定テーマ】インフラ分野のDXの取組みについて

### 【広島県からの情報提供】（建設DX担当）

- ・本県では、令和3年3月に、建設分野における調査設計施工から維持管理のあらゆる段階においてデジタル技術を最大限に活用し、官民がインフラをより効率的にマネジメントしていくということで、建設分野の生産性向上など、5つの目指す姿とか、主要構造物のCIMの完全実施等、具体的取組みをまとめまして、広島デジフラ構想を作成し、取組みを進めてきたところです。昨年、この場で、広島デジフラ構想について説明させていただいたところでございます。
- ・本年3月には、1代目のデジフラ構想に対しまして、広島空港のアクセスの向上とか、広島港を利用した新たな誘客促進を目的とした人流の分析、道路、港湾、管理における許認可事務の効率化にむけたシステムの改修など7項目を追加し、もともと40項目でしたが、現在47項目ということで、取組みを推進しているところです。
- ・詳細につきましては、広島デジフラ構想2022を作成しており、広島県のホームページに掲載しておりますので、各年度の取組み内容をご確認いただければと思います。
- ・令和4年度が一番大きな取組みについてご説明申し上げます。

今年の6月28日に3次元点群データや地質ボーリングのデータなど公共土木施設情報の一元化、オープンデータ化を可能とするインフラマネジメント技術、土ボックスの運用を開始しました。今後さらに充実をしていきたいと考えているので、これらのデータを皆さま方に積極的に活用いただき、データを活用した新たなサービスを提案いただければ幸いです。

### 【建設コンサルタンツ中国支部からの情報提供】

- ・この度、中国支部の技術部会の中にICT委員会というものを設立いたしました。
- ・8月に技術部会の中で、キックオフ会議を行いまして、その中で、会員各社に公募をかけることとなり、9月16日に委員の報告をしております。現在15社から25名参加で、10月に第1回委員会を開催しております。
- ・委員会の主な活動内容、役割としては
  - ① i-ConstructionおよびBIM/CIMに関する事項
  - ② 各種ICT関連技術およびDX推進に関する事項
  - ③ 地方整備局や関連する団体とのICT関連意見交換等への参画
  - ④ ICTおよびBIM/CIM関連の本部情報の共有というところで、活動が始まったところです。
- ・第2回の委員会は12月に開催予定です。まだ、出来たばかりで、これから本格的に活動しているという状況です。
- ・次に、インフラDXの取組みについて、先々月の9月に中国地方整備局で行っている中国地方技術研究会において行われた「中国地整のインフラDX推進に向けて」に建コンの技術部委員から参加させていただいた時の資料です。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

- ・まず、設計レベルのモデルを作成するという点で、そこに3次元モデル成果物の詳細度の表があります。詳細度に応じて100から200で道路予備設計、300で詳細設計、400となると具体的な細部設計や鉄筋配置を含めた細かいものとなります。
- ・次ページに道路予備設計レベルについて、道路概略設計・道路予備設計Aのイメージ図があります。詳細度としては200ということとなります。その下のイメージ図が道路予備設計B・道路詳細設計となり、詳細度は300となります。このレベルでは、用地幅杭、排水構造の決定が行えます。
- ・次ページにBIM/CIMモデルを作成するための地形モデルが載っております。一番左が平面図の2次元で、これでは地形モデルの作成はできません。真ん中がUAVレーザ測量の点データで、X、Y、Zの値を持っています。これを利用して、等高線モデルを作ることはできますが、容量的には非常に大きなデータとなります。
- ・そこで、建コンで進めておりますレーザ測量データに、簡易な測量をひと手間加えると3次元地形モデルが作成でき、容量も小さいものとなります。左の図が、点群データであるので、形状は分かるが、法肩や田んぼと畔の境界が表現できません、データも大きくわかりづらいものとなります。これに簡易な測量をひと手間加えることにより、はっきりと線が現れ、田んぼと畔がすっきりと見分けることができます。
- ・次に、地形モデルの容量についてです。点群データでは、容量は100MBと非常に大きなものとなりますが、これを3次元地形モデルに改良すると容量は10MBととなり、非常にデータ容量が少なくなり、サクサク動くので、操作性が向上します。これを建コンのほうで推奨しております。
- ・次に、道路分野で使用するモデルの種類と概要として、土工形状モデルがありますが、これは、ICT建機による土工モデルです。2次元モデルを3次元モデルに変換し、それをまた3次元にするという操作をして、それをゼネコンさんが独自のモデルで行うときに誤差が出ているという問題があります。その右の統合モデルは、詳細度300のもので、立体交差の形状がわかりやすいので、地元説明とか警察協議に利用できます。
- ・次に、土工形状モデルの作業の流れを示しております。下の図は詳細度300、右図が詳細度400となっており、必要に応じて使い分けるということになっております。詳細度400となると、橋梁下部工の配筋の干渉まで、チェックができます。
- ・AR技術を加えると、現地の映像に加えて、そこにデジタル情報を入れた将来計画のイメージ図を共有することが可能となります。現地の映像に投影して、将来計画を映し出して地元説明もスムーズに行えるようになります。
- ・3Dに加えて、4Dとして時間軸を置くことで、設計のシュミレーション、施工計画、それが順次表現できるということになります。左の図では、構造物の配筋を現地に映して確認することで、主筋がどこにあり、ひび割れが発生している箇所などを現地において確認することができます。
- ・新しい話題ですが、最新の現場見学ということで、学生さんたちとか地元の方々に現場見学を実施されていると思いますが、バーチャルで現場見学会をやるという、本省の方々に、地方整備局、各事務所の方々に見ていただいた時の取り組みを紹介させていただきます。
- ・次のページはバーチャルで現場の状況を観ていただくときのもので、トンネルのロボット先端にカメラをつけて、VRに挑戦したり、バックホウの先端にカメラをつけて掘削状況を見ていただく、というのをGoogleをつけて疑似体験していただくというものです。今年の9月に行い、本省の方から、中国地整の見学会はすばらしと評価をいただきました。

■意見交換

(1)デジフラ構想について

【建コンからの質疑】

- ・デジフラ構想についてですが、一年半で進んできた内容について、簡単にご紹介して頂ければと思います。

【広島県からの回答】

- ・デジフラ構想はいろんな項目が、じわじわ進んでおり、現在47項目取り組んできている状況です。
- ・令和7年度を目標として動いているなかで、土ボックスがデータでいうと1番となります。6月28日に運用開始しております。これが1-1です。1-1が出来れば、1-2が地盤情報のオープン情報化で、2.01が県全体の3次元デジタル化で、3次元点群データを貸出しようとするもので、2.02が都市計画基礎調査結果のオープンデータ化で、これも、土ボックスが運用開始することによって、都市計画の基礎調査も、今まで、県の内部にあったものが外部に出せております。
- ・今の、土ボックスが出来たことにより、それに連なるものが、ばらばらと動いてきていますので、そのあたりが、この1年半の中で一番大きな動きと考えております。

(2)ICT委員会について

【広島県からの質疑】

- ・我々、最近、建設業者の建設交流会とICTやBIM/CIMに取り組んでいこうとしていますが、コンサルタントとの接点がないので窓口を探している状況です。お話を聞くと、このICT委員会は、そういうこともやるのかなと思いましたが、そういったお話は可能なのでしょうか。

【建コンからの回答】

- ・私はICT委員会の委員長をやっておりまして、先ほど言いましたように、委員会を立ち上げたばかりで、具体的にどういうものやっというかとお話をしている状況ですので、先ほど、おっしゃられたようなネタをどんどんいただいて、それによって、我々の活動も方向性が見えてくると思いますので、是非、活発な意見交換をしていきたいと思っております。
- ・昨年までは、個別に来たものを、会員会社の得意なところに行って、会員会社の得意な人間が講習会をやってみたり、いろんな講演をしたりとかでしたが、今、課長が申されたように協会がやればいいのか。BIM/CIMが始まった時に、ワーキングを創りましたが、ワーキングに対して問い合わせ等が無かったため空中分解となりました。A社、B社で講習をやり、B社、C社で今回やってみるといふうにバラバラで、ICT委員会だけでもし対応できれば、本部、本省との流れをつなぐこともできますので、ぜひ、よろしくお願いいたします。
- ・協会側からも、情報共有や課題対策を意見交換会を通して行ってまいりますので、協会支部の事務局に連絡して頂ければ対応致しますので、よろしくお願いいたします。

【広島県からの要望】

- ・DXの関係で、本来なら一気通貫であるべきところが、途切れるところがあり、これは業界だけではなく、我々発注者側も職員全員が理解しなければならぬ問題もあります。発注量を増やしていく中で、いろいろ研究していこうとやっていますが、建設事業者さんや設計コンサルタントも含めて、どういったところに課題があるのかということをお互い認識して、改善するところは改善していくことが必要と思っているので、いろんな意見交換を通じて、より良い方向に早く持っていけるように思っております。事務所で行う研修も、実際目で見て生で体験してみるのが理解してもらうのに一番早いと思います。いろいろ研修等を行っていく中で、皆様方にもお願いすることもあろうかと思っておりますので、そのときにもご協力をよろしくお願いいたします。

### (3)意見交換会について

#### 【建コンからの質疑】

- ・先ほど、意見交換会の話が出まして、建設業者さんと意見交換を行っているという話でしたが、その内容について、もう少し設計にフィードバックするときにはどのようにすれば効率的かについて、アドバイス等が有りましたらお願いしたいと思います。

#### 【広島県からの回答】

- ・建設青年交流会とやっています。今は、ICT施工をやられた方とやられていない方に集まってもらって、やればこんな良いことがあるとか、どうしてやらないのか、という話をしているところです。
- ・基本的に、やってないところにやってもらうための中身で、こういった研修で、こういった内容で話を進めていけばよいのか。先ほどありました、3次元の設計があって、2次元に戻してまた3次元に戻すといった一気通貫の話もあり、おかしいよねとの話もありました。
- ・3次元をどのように底上げしていくか、というところを話ししているところです。

#### 【建コンからの回答】

- ・建コンも、過渡期では、3次元プラス2次元にして行わなければならなかったもので、それを見積りをお願いしていました。ゆくゆくは3次元で行いますというときもありました。そこがなかなか繋がうましくないところですよ。
- ・地元の建設業者さんにも、3DなりBIM/CIMを定着させようと思っておりましたが、ここでも、設計施工の分離の原則が効いておりまして、大手ゼネコンさんの依頼をうけて地域の建設会社が行う場合、機械レンタル会社さんの方が、施工のソフトを含めて面倒を見るといった風にセットにしております。
- ・これは悪いことではなく、自分のところの施工機械が感知できるソフトを使ってもう一回落としていく、その前に違うソフトで作っているものをそのまま行ける場合と、変換しないと全然使えない場合いろいろあるのですが、建設会社も機械をレンタルする会社が2、3社あり、ソフトが別なためつながらないという話を聞いたことが有ります。
- ・ソフトの互換性の問題なら、互換するようにすればよいわけで、そういった問題を一つ一つ解決していくしかないと思います。整備局でもそういった問題で困っている場合もある。
- ・基本的には、違うソフトの互換性が担保できていないのが大きな問題となっています。

#### 【広島県からの回答】

- ・建設業の方とお話する中で、広島県の工事ではそれほど大きな工事が無いので、変化点がいろいろ出てきて、設計の方である程度大きなセクションごとにやっているのがわかっていて、現場でやろうとすると、細かい部分に落としていかなければならない。
- ・そういうこともあって、先ほど支部長さんが言ったように、設計と施工の分離がうまくいかない原因だと思います。話が出来ていない部分があるのだと思う。逆に言えば、行政側が発注するときに、どうすれば設計の部分の考えを施工の方にどのように落とし込むのかをある程度考えなければいけないと思っている。
- ・実情は、進んでいるところはある程度進んでいるが、進んでいないところはまったく進んでいない。
- ・広島県はこういう風にやっついこうとしているが、そこがうまく浸透していかないの、それぞれの業者さんのレベルに応じて、どのように取り組みをやって行くのかというところをステージを分けて意見交換して、全体的に底上げができるような研修や取り組みをしていかなければいけない。まず施工のほうで意見を出し、上流側の設計にフィードバックしていく、この辺を少し実施して、それからまた意見交換していかなければならないと思っております。

**【建コンからの回答】**

- ・先ほどからお話にあるように、現場と設計との接触が無いというような話がございます。目指して行くところは、同じですが、来年度から、BIM/CIM原則適用ということになっております。
- ・その内容を観ますと、何でもかんでも3次元にするという内容ではなくて、あくまで情報伝達の方を主眼に置いてやっていこうという話になっています。昨年までには、3次元モデルを引きだして2次元モデルを作るという話はありませんでしたが、現実まだそういうことができる段階になっていないということがわかってきて、来年度は設計図書は2次元モデルで、3次元モデルは参考図書として取り扱うという方向が、国交省からもうすぐ出るのだろうと思います。
- ・国交省も指針を作成中で、今まで我々がやってきたところと大きく変わっているわけではなく、やはりちょっとずつでない進化していけないところもありますので、受発注者、施工業者が協力しながらできるところを探して、少しずつ進化していかなければならないと思っております。
- ・BIM/CIMの姿というのは、みなさんご存じと思いますが、橋梁のメタルはすでにできている。仮組が現地工場でなくなってから、自動設計から、材質、たわみが分かっていますから、図上で仮組して、おかしくなければ現地で即施工する。それはなぜできるかということ、属性が全部入っているからです。他の作業として、人工作業を行って組み立てたものは一番難しい。特に土工は、転圧とか変化率とかが有りますので、非常に困難です。

**(4)ICT委員会の資料について**

**【広島県からの質疑】**

- ・ICTの資料で、容量がかなり減らすことができる、補足的に測量をやりますという話がありました。具体的にどのようなイメージで、補足測量をされるのかというところを教えてください。

**【建コンからの回答】**

- ・点群データでは、いわゆるエッジが取れないという問題があり、点群データで角を抑えるのは無理で、エッジを抑えるために補足測量を行う。水路とか擁壁の角などが用地境界となっているところが有りますので、そのようなエッジを押さえるという作業がメインとなります。それによって、点群データを線データによる面データに置き換えると、容量が少なくなります。

## 中国地方整備局との意見交換会（R4.11.21開催）

令和4年11月21日（月）広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、国土交通省中国地方整備局と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

中国地方整備局からは西澤企画部長をはじめ5名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と坪井副支部長、小谷副支部長、來山総務部会長、永田技術部会長、金本業務部会長をはじめ

21名が出席しました。

今回は、一般テーマとして「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」、「DX推進の環境整備」の4項目、特定テーマとして2項目について意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



西澤企画部長の挨拶



小田支部長の挨拶

### 中国地方整備局との意見交換会要旨

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

#### I. 担い手の確保・育成のための環境整備

##### (1)働き方改革に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

① 「ウィークリースタンス」の取組みは積極的に推進していただいておりますが、「16時以降の打合せ」、「勤務時間外の作業」等、課題もあると思いますので、取組みが形骸化しないよう事務所等への継続的な指導とともに、必要に応じて改善をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・平成30年12月より災害など緊急性を除く、全ての業務に対して「ウィークリースタンス」を取り組んでいる。その結果をとりまとめて事務所に周知・指導するようにしている。特に16時以降の打合せ、勤務時間外の作業がなくなるように取組みを進めている。引き続きウィークリースタンスに関する取組みについて定期的に状況を確認しながら発注者、受注者双方のワークライフバランスの改善に努めていく。
- ・8月の本部との意見交換会でも問題提起をしているが、ウィークリースタンスについて皆様から整備局に報告をいただいているが、十分に実態がつかみ切れていないといったところがあるので、特定テーマの中で意見交換させていただきたい。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

- ② 納期(変更後)の年度末集中はかなり緩和され、改善していただいております。引き続き、国債(ゼロ国債、2ヶ年国債)・翌債の活用及び繰越の柔軟な運用により、納期平準化に向けた取組みをお願いします。なお、引き続き、計画的な業務発注に配慮いただくとともに、業務内容や業務規模に応じた適切な繰越になるようお願いいたします。合わせて、繰越後においても適正な履行期限の確保をお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・適正工期を確保した上で納期が年度末に集中する状況を軽減・平準化するため、国債や翌債、繰越制度の活用に努めている。
- ・令和3年度の結果について、第四四半期で目標45%以下に定めていたところ、実態は50%。その内3月納期については目標30%に対して34%と目標達成には至っていない。さらに、この数字そのものが繰越した業務を分母に入れて集計している関係で、現実に納期だけを年間通じてみた場合には、先ほどの50%としたものが、繰越し業務を分母から外す形にすると実際には70%を超えている状況、その内の3月納期については34%が繰越し業務を分母から外すと50%というところで、実態的には第四四半期、3月納期が非常に多いと認識している。
- ・一方で、国債や繰越など年度をまたぐ業務件数については、令和2年度の296件に対して令和3年度は391件となっている。このうち国債分だけをみると令和2年度の136件に対して令和3年度は158件で1.16倍の伸びとなっている。繰越分についても令和2年度は160件に対して令和3年度は233件ということで4割から5割増ということでこの部分については改善ができていると考えている。
- ・全体の業務件数の繰越したものを分母から除外して純粋に納期をみて見ると、まだまだ第四四半期、3月納期が非常に多いという実態になるということで問題意識を持っている。
- ・今年度もこれから補正案件、来年度発注案件の早期発注も含めて事務所のほうから発注見通しを集約して、できるだけ平準化を図るということでこれまでもやってきているが、もう1歩踏み込んで技術管理課も関与する形で、例えば翌債をとって第一四半期もしくは第二四半期を工期末とするような形での発注やマネジメントの対応をしていきたいと考えている。
- ・翌年度の業務発注の技術提案書を作成する作業が3月に集中するという意見をいただいているので、建コン中国支部のご理解が得られるような形で3月の負荷を少しずらして4月に提案書を提出していただくというようなことを考えていかななくてはならないという問題意識をもっている。またご意見をいただければと思っている。

- ③ 業務発注時や変更時には、条件明示の徹底をお願いします。また、手戻り防止には、業務スケジュール管理表や設計条件明示チェックシートの業務管理への活用が有効と考えられます。引き続き、計画業務を含む幅広い業務を対象とした活用推進をお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・調査設計業務においては条件明示チェックシートを作成しており、発注時においてこのチェックシートに基づいて設計条件を明示することとしている。この取組みについては引き続き適切に実施するように事務所の方に示していきたい。
- ・業務スケジュール管理表は令和2年1月以降に発注した検討業務等を実施している。引き続き幅広い業務を対象として活用することを推進してまいりたい。

- ④ 業務発注段階で、業務内容等を可能なかぎり明確にさせていただくとともに、業務実施段階で、業務内容、および、技術者資格の範囲が極力変化しないようお願いいたします。また、契約後に新規工種が追加となる場合には当初の落札率の適用をしないようお願いいたします。



**【中国地方整備局からの回答】**

- ・発注段階で、可能なかぎり業務内容を明確にするよう、引き続き事務所に指導する。また業務内容が大幅に変わる業務としては、例えば工事対応業務などが考えられるが、発注時に核としていた業務内容が実施時にすっぽりと他にすり替わるというようなことがないように事務所に引き続き指導をしていきたい。
- ・新規工種について業務内容が大幅に変更になる場合は、基本的には別途発注を考えているが、やむを得ず追加する場合もあると考えている。この追加内容については慎重に検討したうえで、追加する場合は事前に受注者側に対応の可否を確認したい。
- ・新規工種が追加となる場合には当初の落札率の適用について、引き続き本省へ投げかける。

**(2)企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備**

- ① 品質確保・向上のための担い手確保・育成や技術力向上、生産性向上に資する情報基盤(BIM/CIM使用料、DX推進、テレワーク導入等を含む)への企業投資の必要性が増大しています。このため、直接経費、一般管理費等の見直しや調査基準価格の継続的な引き上げの検討をお願いします。

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・直接経費、一般管理費等の見直し、調査基準価格の引き上げ、さらには BIM/CIMをはじめとしてDX推進に伴って必要となる経費の適切な計上については、皆様から強い要望があることは十分に認識している。引き続き本省のほうへ声を伝えていくが、それとともに建コンの切実な声を本部から中央に届けてもらうのが改善につながると考えている。
- ・工事や測量、地質といった工種の調査基準価格は令和元年度に引き上げがなされているが、コンサルタント業務については、平成29年度に引き上げになって以降据え置かれている現状であると認識している。引き続き整備局としても本省の方へ声を伝えていき改善が図られればと考えている。

**(3)人材の確保・育成**

- ① 若手技術者のモチベーション向上のため、若手技術者(担当者として)の表彰制度の導入検討をお願いします(例えば、奨励賞等)。

**【中国地方整備局からの回答】**

- ・建設産業における担い手確保や若手技術者の入職・育成については、業界全体の最重要課題と認識している。中国地方整備局においては、業務に関して若手技術者の活躍・育成のために平成26年度からプロポーザル方式、総合評価落札方式の業務において、45歳以下の若手技術者を管理技術者として配置いただく場合には管理補助者を配置してサポートしていただくという形の取り扱いを進めてきたところである。
- ・これ以外にも若手技術者・担当技術者の表彰制度については他の各地整でもいくつか取り組みがなされている。特に北陸では一歩進んだ形で若手技術者の方を表彰する制度を平成27年度に創設されている。総合評価の方でもインセンティブを働かせるという形で取扱いされていると伺っている。若手技術者の方にモチベーション、意欲をもって働いていただく、退職・離職することなく働き続けていただく、そういう環境を創出・改善が必要だという思いは同じである。中国地整で実施している管理補助者をつけていただいた業務で良い成果・成績を残していただく直接的なインセンティブにもつながると考えている。北陸の事例なども参考させていただくとともに、皆様の方からどのような取扱いがあれば若手の意欲向上につながるか具体的なアイデアがあれば聞かせて頂き、それらを参考に検討を進めていきたい。

## II. 技術力による選定

### (1) プロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善

- ① プロポーザル方式、総合評価落札方式の導入・拡大を進めていただいております。引き続き、斜め象限図の適切な活用に基づく発注方式の選定、および、難易度の高い業務における総合評価落札方式からプロポーザル方式への移行、価格競争方式から総合評価落札方式への移行等技術力を重視した業務の拡大をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・業務内容に応じた発注方式の選定に関しては、斜め象限図の適切な活用を行いながら実施している。
- ・難易度の高い業務においては引き続き、プロポーザル方式の発注を実施する。
- ・難易度の高い業務における総合評価落札方式からプロポーザル方式への移行、価格競争方式から総合評価落札方式への移行については業務内容を十分に勘案したうえで適切に判断しながら発注方式を選定していきたい。

- ② 総合評価落札方式において、技術士・博士と国土交通省登録資格とを組み合わせる加点する評価方法の試行が開始されていますが、業務内容に応じた適切な組み合わせ加点注1)となるようお願いします。また、同一分野で技術士とRCCMが重複加点注2)とならないよう厳格な組み合わせ評価をお願いします。また、本格運用にあたっては、余裕を持ったスケジュールでの導入をお願いします。

注1)：橋梁点検業務→技術士(鋼コン)＋国土交通省登録技術資格(道路橋点検士)

注2)：道路設計業務→技術士(道路)＋国土交通省登録技術資格(RCCM(道路))

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・技術士・博士と国土交通省登録資格とを組み合わせる加点する評価方法については、広い知識を持つ技術士と専門的な技術を持つ国土交通省登録資格を組み合わせることによって、品質向上や手戻り防止等の効果を期待して試行を行っている。
- ・総合評価落札方式における技術士・博士と国土交通省登録資格の組み合わせ評価の試行については、中国地方整備局では5件の発注を行っているが、技術士とRCCMの組み合わせ等で組合せが適切でないという意見をいただいているところである。
- ・技術者の組み合わせ評価が、今後、継続する場合においては、効果的な組み合わせ、余裕をもった試行スケジュール等について本省に伝えていく。

### (2) 地域の担い手づくりのための地域コンサルタントの拡大と育成

- ① 令和元年度より、地域コンサルタントの技術力向上、育成を目的とした「業務チャレンジ型」、地元企業の受注機会拡大のための「地元企業参加型JV」の導入を試行していただいておりますが、地域コンサルタント、地元企業の経営の安定や技術力向上に有効と考えられますので、試行の継続をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・地域コンサルタントの技術力向上、育成を目的に国土交通省の業務実績がない企業の参加機会を確保するため、業務成績や表彰の評価をおこなわず、災害協力や災害協定の締結など地域貢献度を評価する業務チャレンジ型を令和元年の11月から試行している。
- ・地元企業参加型JVについては、地元企業でも対応可能な、また、迅速に対応できる業種を含む業務を対象に令和2年9月から試行をしている。
- ・引き続き技術力向上、育成を目的としたこれらの取り組みを活用して地域の担い手である地域コンサルタントの受注機会の拡大に努めていきたい。

### Ⅲ. 品質の確保・向上

#### (1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① 重要事項の決定が必要な打合せには総括調査員または主任調査員に出席いただくよう指導していただいておりますが、速やかな意思決定による業務効率化や手戻り防止に効果があると思いますので、引き続き、事務所等へのご指導をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・重要事項の決定、意思決定が必要な打合せには総括調査員、主任調査員または副所長が出席し、相談をさせていただいて速やかに対応方針を決めていく形が望ましいと思っている。副所長会議等を通じてそのような意見があることは伝えているが、担当係長、担当レベルで皆様方と打合せ協議をさせていただいている場面は頻繁に見受けるが、その場に担当課長、副所長が加わって具体的に課題をお聞きし、対応を決めていくといった機会が少ないように感じており、改善していかななくてはならないという意識を持っている。今回の意見を踏まえて、今後、副所長会議等で対応を行うよう指導させていただいて、副所長のみならず担当課長あたりにも意識が徹底されるように促していきたい。
- ・局から事務所に対して指導していくが、皆様の方から直接次の打合せで方針を定めないと業務を進めていくうえで問題になるので次回は出席してほしいなど、担当の課長や副所長にアクションを起こしてもらうことも有効な手段と思っているので遠慮せず依頼していただきたい。

#### (2)詳細設計等での三者会議における総合的な品質の確保

- ① 施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」を実施していただいております。地質技術者を加えた合同会議は、設計者、施工者、地質技術者相互にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果が期待されますので、引き続き、積極的な推進をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・中国地方整備局としては、平成22年度に設計変更審査会あるいは「三者会議」の実施方針について取り扱いを定め運用を行っている。その中に地質技術者を加えた合同会議を明確に定義していない部分があることは承知している。今回のご意見・ご提案は、地質リスクを抱えるような検討・設計、施工を含め、例えば地すべりとか複雑な地層、複雑な軟弱地盤、断層の存在、傾斜地形上の構造物設計などが地質リスクはらむ案件であると考えられるが、具体の想定されるケースがあればお聞かせいただきたい。地質技術者を交えた合同会議について、すべての工事についてというわけにはいかないが、こういった地質リスクをはらむような案件については取り扱いを定めることも検討したいと考えているのでご意見を頂戴したい。

### Ⅳ. DX推進の環境整備

#### (1)DXの推進

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、Web会議が積極的に活用されるようになりました。平常時においてもWeb会議の有効性が明らかになっていきますので、引き続き、積極的な活用の推進をお願いします。

#### 【中国地方整備局からの回答】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、また、通信環境も改善されたことにより、Web会議が積極的に活用されている。Web会議の有効性については、移動時間の短縮などメリットがある反面、意思疎通がしにくい側面もある。今後、対面が望ましいということが場合によってはあると思うが、新型コロナウイルス感染状況をみながらWeb会議を積極的に活用してまいりたいと考えている。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

② プロポーザル等の提案書の作成の効率化のため、作成資料の簡素化、資料閲覧の効率化（電子データの貸与、クラウドサービスの活用等）の検討を引き続きお願いします。また、プロポーザルヒアリングのWeb会議活用、総合評価落札方式の書面による評価については、継続的な実施をお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・技術提案書作成のための資料閲覧については、紙ベースでおこなってきた。令和4年7月25日よりクラウドサービスを活用した閲覧システムによる資料閲覧を開始した。使い方等ご要望・意見がありましたらご意見をいただきたい。
- ・プロポーザルヒアリングのWeb会議活用は引き続き、実施していく。
- ・総合評価落札方式については、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まった当初、令和元年度末頃から書面審査で進めていたが、今年の1月から可能な限りヒアリングを実施する対応としている、ヒアリングについてもWeb会議を活用してまいりたい。

③ プロポーザル方式における評価結果の内訳の早期公表については、各所に周知いただいておりますが。業務効率化のため、引き続き、インターネット（入札情報サービス等）による早期公表の検討をお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・プロポーザル方式における評価結果の公表については、現在紙ベースで公表しているが、インターネットを利用した公表について、今後検討していく。

④ BIM/CIM活用業務の拡大が図られていますが、データの互換性、ソフトウェアの互換性等、色々な課題が明らかになりつつあります。引き続き、受発注者連携により、意見交換会等を通じた情報共有や課題解決の取組みをお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・BIM/CIM活用は、国土交通省では令和5年度に全面導入することにしてはいますが、データの互換性、ソフトウェアの互換性等、色々な課題が明らかになっている。受発注者間で情報共有や課題解決に向けた意見交換を実施していきたいと考えているため、皆様のご協力をお願いしたい。

## V. その他

① 総合評価落札方式において、開札後に保留通知をいただきますが、落札決定までの時間がかかる場合があります。業務処理体制の確立等のため、速やかな決定をお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・総合評価落札方式において、開札後の保留通知から落札決定まで、履行確実性の確認が必要になった場合は2週間を目安に、そうでない場合は1週間を目安に行っている。速やかなプロセス決定ができるよう努めていく。

② 平成29年10月より、「一括審査方式」による業務発注が試行されていますが、試行を継続していただくとともに、発注にあたっては、業務の目的・内容・評価項目が同一となるよう、また、業務規模（金額）が同程度となるよう、厳格な適用条件による運用をお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・一括審査方式は、受発注者双方の負担軽減が図られメリットがある。
- ・一括審査方式の適用にあたっては、6つの適用条件すべてを満たすこととしている。今後も厳格な適用基準で運用していく。

【特定テーマ】

(1)インフラDX推進に向けた取り組みについて

【話題提供等】

- ・中国地方整備局におけるインフラ分野のDXの取り組みについての情報提供をお願いします（中国地方整備局）。

【中国地方整備局からの話題提供】

- ・令和4年3月22日に「中国地方整備局インフラDX推進計画」を策定した。今後目指す姿として、建設現場の生産性向上を図りつつ、整備局職員を含めた建設業界の働き方を改革する目標とした。インフラDXの取組方針として5つの「柱」を掲げた。また、5つの柱に11のメニューにより、各施策を体系区分し、推進する。

〈5つの柱〉

- I. 整備局職員及び建設従事者等の仕事のプロセスや働き方を改革。
  - II. 建設現場の安全性や効率化を向上。
  - III. 行政手続きや暮らしにおけるサービスを改革。
  - IV. DXを支えるデータ活用環境の実現。
  - V. DXを推進するための人材育成
- ・事務所・管理所でのインフラDXの取組事例について、21の代表事例を紹介する。

1. BIM/CIM活用業務・工事の拡充（土木）

これは岡山国道事務所で開催しているものであるが、「玉島笠岡道路西大島トンネル工事」で、施工中及び施工後の管理でBIM/CIMを活用した事例である。3つほど掲載しているが、「①覆工コンクリートの3D出来形管理」では3Dスキャンにおいて吹付断面と覆工断面の計測を行い、取得した3DデータをトンネルのBIM/CIMモデルに反映して覆工厚を管理するというものである。2つ目が「②地質データの3D管理」であり、地質の3次元モデル化により設計の地質・土質モデルを切羽状況に応じ実態に合うようにデータを修正する。先の切羽の支保パターン予測を行って材料手配の効率化、安全施工のための検討に活用している事例である。3つ目は「③後工程における活用を前提とする属性情報の付与」ということでトンネルの3次元モデルに各種施工データを付与、このモデルにより覆工背面の不可視部分の地山状況を把握し最終的には維持管理への活用を目指すものである。

4. VR橋梁点検講習

これは中国道路メンテナンスセンターの取組みである。最新のVR技術を使い、初心者にもわかりやすく安全に学べるツールを開発。技術者が不足する自治体職員を主な対象に技術力の向上を支援する。従来であれば座学をしたあとに現地の方に実習のために移動していたがVR技術を用いることにより移動時間がなくなることで、短時間で効率的に学習できるカリキュラムを行っている事例である。

5. UAVを活用した河川巡視

河川巡視とあるが砂防の溪流点検の内容になっている。これは、広島西部山系砂防事務所での取組みである。地震や一定規模の降雨のあとに緊急点検で現地状況を把握することになっているが、これについてUAVを用いて一回のフライトで土砂の流出状況や崩壊地の特定や溪流内の土砂堆積状況の把握、流出土砂量の計測、土砂流出状況の把握、施設の変状を把握するという試行を行っている。レベル3飛行ということで「目視外補助者なし飛行」を行っている。この効果については、安全な場所からUAVを用いて調査ができる。一回のフライトで複数溪流を調査できるといったことで、調査時間が短縮される、調査員の安全性の向上が図れることがあり、溪流点検での試行が行われている。

## 8. 3次元データの取得・道路管理への活用

三次河川国道事務所の取組み事例である。「新技術を活用したトンネル点検」ということで、目指す姿としては定期点検のコスト縮減・工期短縮、点検の高度化・安全性向上などであり、取組内容としては画像計測技術を活用してトンネル点検を実施、トンネルの変状状況の把握である。従来であれば変状を手書きスケッチにより記録しており精度に多少の問題があったが、チョーキング・スケッチの省力化が可能となって交通規制日数・時間の短縮、点検結果の高度化が可能となった。

## 12. 流量観測の自動化

これは太田川河川事務所の取組み。高水流量観測による省力化・効率化の試行である。従来であれば高水流量観測は浮子観測が基本であるが、道路が冠水していれば現地にいけないという問題や迅速性に問題があった。今回非接触型流量計を用いて流量観測を行うことで安全性の確保、観測の確実性を図っている。赤外線カメラ、高感度カメラによる画像式、および電波式流量計を併用しながら精度等を検証している。

## 17. トンネルでの自動施工

これは山陰西部国道事務所の取組み事例である。木与防災 自動化施工とDXということで、ジャンボにコンピューター制御をさせてCIMモデルを活用している。爆薬を入れる穴を開ける機械にコンピュータージャンボを使用して、穴をあける位置・方向や掘るときに掛かった力、掘るスピードなどを自動記録し、トンネル前方の岩の硬さ、地質の状況を推定・保存でき、トンネルの進捗・品質・出来形・計測結果等の情報を管理・保存できる。また、開通後の維持管理・補修の時に参考データとして活用できる。

## 18. 無線通信を活用したマルチコックピットによる建設機械の遠隔操作

広島国道事務所の取組み事例であり、安芸バイパス改良工事になるが、複数の機械(3台)を一人のオペレータが操縦することで建設現場の生産性向上につながっているという取組みである。

以上、若干省いたが事務所・管理所の取組み事例の説明である。

## ■ICT委員会設立について(建設コンサルタンツ協会・中国支部)

### 【建設コンサルタンツ中国支部から話題提供】

- ・中国支部ではこれまで技術部会の中にBIM/CIMワーキングを設立していたが、ICTに関する委員会を設立していなかった。今年度から建コンの4つ目の柱としてDX推進の環境整備が入ってきた。中国支部の中でも委員会を設立してこういった動きの中にもっていく必要があるだろうということで、他支部では部会の下に情報委員会とかICTの専門委員会等がつけられていたので、中国支部でも9月16日に委員の公募をかけてICT委員会を設立した。
- ・10月17日に初回の会議を開き、委員会の主な活動内容、役割として、
  - ① i-ConstructionおよびBIM/CIMに関する事項
  - ② 各種ICT関連技術およびDX推進に関する事項
  - ③ 地方整備局や関連する団体とのICT関連意見交換等への参画
  - ④ ICTおよびBIM/CIM関連の本部情報の共有をやっているということである。整備局との意見交換会にもこのメンバーで参画させていただいて、DX推進とかをしっかりとやっていきたいと考えている。
- ・「インフラDXの取組み」ということで、中国地方技術研究会(今年の9月8日に企画部の指定課題ということで「中国地整のインフラDX推進に向けて」というパネルディスカッションが開かれ、建コン中国支部からも道路部会から参加)の成果について少し触れたい。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

- ・一番目に「設計レベルに応じたモデル作成」ということで、詳細度が100～400いろいろある中で、こういった条件で詳細度を使い分けるかという中で、道路設計の予備設計では200程度を基本としながら、詳細設計では300を基本としてやっていく。さらにもう少し詳細な検討が必要な場合は400という形でやっていくのがよいであろうというようなことを発表している。
- ・次の資料には予備設計、道路詳細設計の例ということで、BIM/CIMガイドラインにのっとりながら詳細な検討をしているという事例を添付している。
- ・BIM/CIMモデルを作成するための地形モデルということで、最近ではUAVレーザによる測量データということで3次元のデータを取得しているが、非常にデータ容量が大きいということがある。もう一つはもう少し細かい地物の情報がなかなか表現されないという状況のなかで、設計には3次元の地形モデルを使っていく必要ということを考えている。今年の1月に建コン中国支部の方で「設計施工のための点群データ活用ガイドライン(案)」を作成して整備局の方にもお渡ししているが、「グラウンドデータから作成した地形モデル」は点群データで密であるため容量が重たいということもあるし、設計に不要なところまで地形データが入ってきている。「3次元地形モデルから作成した地形モデル」は、等高線データでは設計に必要な地物や道路端のエッジなどが表現されていないところを補足測量しながら情報量がいらぬところは削減する一方で必要な情報は加えて3次元の地形モデルをつくって設計にいかしていきたいという提案をさせていただいている。
- ・グラウンドデータは点群データで非常に重たく約100MB位の容量が必要になるが、3次元地形モデルはデータ量をおとして約10MB位で設計に使いやすいレベルとしている。
- ・「道路分野で使用するモデルの種類と概要」で「土工形状モデル」と「統合モデル(道路)」を示している。「土工形状モデル」はICT建機への入力を主な目的としているということでこの2つは使い方が明らかに違い、設計では主に「統合モデル(道路)」を地元説明等の対外協議用ツールとして活用している場面が多いのではないかと考えている。
- ・「関係機関協議での活用」ということで、交差点の対向車線の走行車両視認性の確認等に用いたり、「道路の構造照査での活用」ということで建築限界と実際の橋梁の干渉がないかという確認、「AR技術の活用」ということで現地状況を確認しながら将来計画等のイメージを共有することが可能ということで業務に入れていきたいと考えている。
- ・「BIM/CIMを含めたDXのイメージ」ということで、さらに詳細度をあげて3Dモデルに属性を付与して数量等を管理する、鉄筋の干渉を管理するといったことに活用できる、可視化による合意形成ということで、例えば現地での用地境界の確認ということも可能と考えている。
- ・「最新の現場見学会」ということで9月30日に本省のインフラDXルーム、中国地方整備局、山陰西部国道事務所、俵山・豊田道路木津地区第一改良工事現場をWEBで接続しバーチャル現場見学会を開催した。建コンとして運営補助及び担当パートの資料作成をした。取組としては4つあって、1つは「バーチャル現場見学会全体を通じた運営補助」、2つ目は「本省インフラDXルームでのVRゴーグル体験」ということで、キットを貸し出してレクチャーをした。3つ目は「AR機器を用いた現場での道路完成計画モデル重畳」、4つ目は「施工段階に活用可能なCIM統合モデルの提供」、こういったようなものを一緒になって実施をしている。

■意見交換

【建設コンサルタンツ中国支部からの質問】

- ・建コン本部を含めた会議の中で、DX推進に対する費用をどれくらい見るのかという話があり、BIM/CIM等については、国土交通省は見積りをとられていて今後どうするのかという中で本省のほうで見積りを踏まえて今後は業務価格の5%としてはどうかという意見があったという情報があり、建コンとしては意見を申していこうという話になっている。整備局のほうでお話を聞いておられれば情報提供してほしい。

【中国地方整備局からの回答】

- ・本省からは5%の話は聞いている。
- ・設計費用の5%というのは必要最低限の内容であり、令和5年度に原則適用させる部分について5%でできるのではないかと本省が言っている。それ以外の応用項目、必要最低限以上のものについては5%ではなく見積り等で対応したらどうかという話を聞いている。

【建設コンサルタンツ中国支部からの意見】

- ・各整備局にご意見伺いがあるのではないかと考えている。そのようなことがあれば協会にもご相談いただければ、業務を既に受注した会社で3Dを提供した時に、実際にどれくらい原価がかかったのかという資料は出せると思うのでお申し付けいただきたい。
- ・3次元設計にするだけであれば、今の歩掛をベースに変更すればよいが、DXになればプロセスが入ってくるため、発想が違うのではないかと。4D(計画～概略～詳細を一気通貫)を意識してしないとDXにならないのではないかと。そうすると設計の何%の上乗せという発想ではいけないのではないかと考えている。

【中国地方整備局からの回答】

- ・現状は令和5年度からの原則適用をどうやってクリアしていくかという考えで行われていると思われる。先ほどいわれたように3次元の地形データを使えば、次のステップで使いやすじとかがあると思うが、そのように精査していった場合に歩掛体系がどうなのかという話だと思う。個々の事例について積み上げていって、やり取りしていくしかないと思われる。

【建設コンサルタンツ中国支部からの意見】

- ・「令和4年度地方ブロック意見交換会 「要望と提案」及び【調査資料集】概要版」に「DX推進の環境整備」に関する資料を掲載している。“3次元を使ったBIM/CIM”はその中の1つであり、“電子入札システム”とか“情報共有化”、“業務遂行段階における電子活用”ということで“業務情報共有システム(ASP)”の有効活用とかも現れてきていて、それらの問題を建コンから国土交通省に要望している。
- ・BIM/CIMの問題はプロセス間で分断していることを提起しているので、本省から各整備局に問題を挙げてくれというような要望があれば、建コンのICT委員会に問い合わせただいて、調査設計側での問題、工事会社側での問題を整備局で取りまとめただければと考えている。
- ・道路設計において概略設計、予備設計は3次元で行って良いのではないかと意見もでていて、DXということでいろいろと推進していく中でBIM/CIMだけでも進めていきたいと協会側も考えている。



## (2)働き方改革に向けたさらなる改善について

### 【要望】

- ① ウィークリースタンスの実施状況は令和元年度より調査していただいておりますが調査結果等情報提供いただけますでしょうか。また、調査結果に課題等があれば教えて下さい。それら課題を解決するための具体的方策について意見交換をお願いします。

### 【中国地方整備局からの回答】

- ・平成30年12月より災害など緊急性を除く、全ての業務に対して「ウィークリースタンス」を取り組み、ワークライフバランスの改善に努めている。
- ・業務着手時の打合せの段階において、この業務においては、例えば水曜日は16時以降打合せしない、水曜日に資料作成依頼を行う場合は、木曜日を期限日としない、金曜日に資料作成依頼を行う場合は月曜日を期限日としないといった働き方改革につながる、週休2日、時間外削減につなげようと発注者、受注者と双方で取組みを進めている。
- ・全業務において、「ウィークリースタンス実施報告シート」を活用し、例えば水曜日の時間外の作業依頼があったのかというようなことをそれぞれの業務において記載いただいて、業務の検査時に検査官のほうへ報告していただく、その上でシートを任意の形で受注者から整備局の技術監管理課に提出していただくというやり方を取っている。整備局の業務件数は、発注者支援などを除くと年間で700～800件程度あるが、実態として整備局にシートの報告があった件数は令和2年度で245件、令和3年度で224件しか報告いただけていない。このうち問題があったかどうかについては、例えば令和3年度で16時以降の打合せが16件しか集まってなくて、おそらく現場の問題を如実に表す形にはなっていない。実態をつかんだ上で改善につなげていく、実効性を高めていくため取り組んでいるものだが、ある事務所のある課でどの業務で“このような無理な依頼がされています”というのは皆様方も報告しづらい、遠慮があると考えるので、8月のブロック意見交換会の時に問題提起をさせていただいた。
- ・全測連中国支部の方と意見交換において全測連に加盟している2～3の会社から計画系業務を除く測量・地質・単純業務では大きな問題があるとは思っていないとお聞きしている。実態を把握していくためには、整備局のほうに直接送るのはおそらく抵抗があるであろうから、会社の方で集約して協会の方へ報告する形で、全体を少しオブラードに包むような形であれば報告できるとの意見をもらっている。
- ・そういうことも含めて建設コンサルタント中国支部としてどのような対応を望まれるかをお聞きしたいと思っている。
- ・「ウィークリースタンス実施報告シート」には事務所名、担当課、業務名、を記入する欄があるため抵抗があると思うので、事務所名と業務種別だけ、例えば分野が道路か河川か、計画検討なのか予備設計なのか詳細設計なのか、調査設計なのか、地質検討や解析、環境予測や事業評価に絡む資料の作成など、どの分野、こういった種別の業務で問題があるのかということ把握できれば、整備局としての改善に向けた方向が見定められるのではないかと考えている。
- ・全測連さんの提案されたやり方も含め、どういうやり方が良いのか協会の皆様から意見をいただければ、それを踏まえて来年度以降のやり方を見直してまいりたいと思っているので、協会として意見をお聞きしたい。

**【建設コンサルタンツ中国支部からの意見】**

- ・まずは分母を増やすというのが大前提になると思われるので、そのために建コン協の中でどういう風にやったら上手くできるかというのは持ち帰って議論したいと考えているので、改めて議論させていただきたい。
- ・協会で本部からアンケートが結構あり、事象を知りたいということで統計的にとれる形であれば会社名は伏せている。それと同様で母数を増やすのであれば、会社名をださないという協力をしていただければ（会社名は記載するが公表はしない）、集まりやすいのではないかと考えている。必要な内容をとるということであれば協会員に周知する。
- ・建コンの会員には少し聞いてみたいと思っている。その結果については情報提供したい。



## ■ 広島市との意見交換会（R4.11.29開催）

令和4年11月29日（火）広島市中区地域福祉センターにおいて、広島市と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島市からは木村都市整備局次長をはじめ5名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長、來山総務部会長、金本業務部会長をはじめ5名

が出席しました。

今回は、「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」「DX推進の環境整備」の4項目について意見を交わすことができました。



木村都市整備局次長の挨拶



小田支部長の挨拶

## ■ 広島市との意見交換会要旨

建設コンサルタント協会からの提案と要望、及び広島市からの回答

### I. 担い手の確保・育成のための環境整備

#### (1)建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

- ① 業務履行期限（納期）の平準化のため、発注時期の分散化や早期発注に努めていただいておりますが、引き続き、繰越の柔軟な対応を含む標準履行期限の確保に加えて、発注時や変更時における条件明示の徹底をお願いします。

#### 【広島市からの回答】

- ・（街路課）当課では業務の早期発注に努めているとともに、業務の規模に応じて適正な履行期間の確保にも努めている。ただし、予算の都合上、業務の発注時には年度末工期を設定するケースが多くある。合理的な理由により年度内の適正な履行期間を確保できない場合は繰越措置をして適正な履行期間の確保し、完了工期が年度末に集中しないように取り組んでいる。
  - ・（管路課）業務の発注については早期発注に努めるとともに業務規模に応じた適正な履行期間の確保に努めている。また、予算の都合によっては発注時に年度末工期を設定するケースも多数あるが、必要に応じて繰越等の措置を行い、適正な履行期間を確保するよう努めている。
- ② ウィークリースタンスについては、実施要領を策定いただき、令和2年度より施行いただいております。引き続き、実施状況をモニタリングしていただき、必要性に応じて改善施策の検討をお願いします。また、取組みが形骸化されないよう各所に対して継続的なご指導をお願いします。

**【広島市からの回答】**

- ・(技術管理課) 令和2年9月に「広島市ウィークリースタンス実施要領」を定めて施行している。この中で災害対応等の緊急を要する業務を除く全ての業務を対象に設計成果の品質確保や、より一層の労働環境の改善について努めているところ。今後も引き続いて受発注者相互に適切に取り組んでいけるよう必要に応じて改善等を検討しながら、形骸化しないように取り組んでまいりたいと考えている。
- ・(街路課) 引き続きウィークリースタンスの推進を図るよう、打合せ等は業務時間内に必ず行うように、休日等に資料作成をしていただくような状況が発生しないように配慮するよう努めていく。
- ・(管路課) 作業指示等については締切りに余裕を持たせるとともに、就業時間外の打合せなどは極力避けるよう努めている。

③ 国においては、業務スケジュール管理表や条件明示チェックシートを活用した業務管理の有効性が確認されています。これらについての導入検討を引き続きお願いします。

**【広島市からの回答】**

- ・(技術管理課) 業務スケジュール管理表および条件明示チェックシートを用いた管理は広島市では行っていない。業務の円滑な実施に取組めるよう設計書または特記仕様書などへの設計条件の明確化に努めている。業務スケジュール管理表、条件明示チェックシートの活用については、国の取り組みなどを参考に引き続き研究してまいりたい。

**(2)受発注者協働による災害対応に向けた環境整備**

① 新型コロナウイルス感染症拡大等、緊急事態発生時には、履行中業務の一時中止や工期延伸等、配慮していただいています。今後とも、このような事象発生時には、同様のご配慮をお願いします。

**【広島市からの回答】**

- ・(技術管理課) 今後とも新型コロナウイルス感染症拡大などの緊急事態発生時には、受発注者間協議により必要に応じた業務の一時中止や工期延伸などを実施するなど適切に対応してまいりたい。

**(3)企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備**

① 最低制限価格については、国の基準と同等となるよう改善していただいております。品質確保・向上のための担い手確保・育成や技術力向上、生産性向上に資する情報基盤(BIM/CIM使用料、DX推進、テレワーク導入等を含む)への企業投資の必要性が増大していますので、直接経費、一般管理費等の見直しや最低制限価格の継続的な引き上げの検討をお願いします。

**【広島市からの回答】**

- ・(技術管理課) 直接経費、一般管理費などの見直し、最低制限価格については、国土交通省の定めた基準を準拠している。
- ・(工事契約課) 最低制限価格については、昨年9月から設計金額2,500万円以上における最低制限価格の水準についても、設計金額1,500万円未満における最低制限価格と同等の水準まで引き上げ、国の調査基準の算定式に準拠した内容となっている。今後も最低制限価格の水準については基本的に国の基準に準拠していくこととしている。

**(4)人材確保・育成**

① 人材確保・育成のためには、若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度、シニア人材活用のための制度が必要と考えています。引き続き、導入に向けた検討をお願いします。

### 【広島市からの回答】

- ・（工事契約課）建設コンサルタント業務等においては、若手技術者、女性技術者及びシニア技術者の活用・育成のための入札契約制度は実施していないが、他の自治体の状況を調査するなど、研究していきたいと考えている。

## II. 技術力による選定

- ① プロポーザル方式による発注の制度は既に導入していただいておりますが、技術力・品質に優れた企業を選定するため、総合評価落札制度を含めた技術競争による発注方式の導入・拡大をお願いします。

### 【広島市からの回答】

- ・（工事契約課）公共工事に関する測量・調査・設計業務については、社会インフラの品質を確保する上で非常に重要な役割を担っているという認識である。これらを適切な方法によって技術提案を求めるよう努めることとされていることを踏まえ、技術競争による発注方式の活用については、国の動向を注視しながら検討していきたい。具体的には、総合評価落札方式を実施できるよう要綱を改正（令和4年4月1日施行）したが、まだ実績がない。

## III. 品質の確保・向上

### (1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① エラー防止の取組みとして、業務特性に応じて、受発注者合同現地踏査を実施することが、共通仕様書に明示されています。国土交通省では既に全ての業務において合同現地踏査が導入されており、その有効性が確認されていますので、引き続き、取組みの強化をお願いします。

### 【広島市からの回答】

- ・（技術管理課）受注者様からの提案に基づいて受発注者合同での現地踏査の実施は可能と考えている。取組み強化については、今後も引き続き、国、他の自治体の取組み状況などを参考に検討していきたい。

### (2)詳細設計等での三者会議等の実施における総合的な品質の確保

- ① 国交省をはじめとして中国地方の多くの地方自治体においては、施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」や地質技術者を加えた合同会議が実施されています。設計者、施工者、地質技術者にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果がありますので、引き続き、貴市においても重要構造物（例えば、橋梁、トンネル等）を対象として、導入の検討をお願いします。

### 【広島市からの回答】

- ・（技術管理課）三者会議の導入効果が高いと考えられる特殊な技術を要する工事が全体的に少ないこともあり、現在同制度は実施していない。案件ごとに対応を考える必要があると認識しており、他の自治体などの取組み状況を参考に今後導入について検討してまいりたい。

## IV. 「DX推進の環境整備」

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、Web会議が積極的に活用されるようになりました。平常時においてもWeb会議の有効性が明らかになっていますので、引き続き、積極的な活用の推進をお願いします。

**【広島市からの回答】**

・(技術管理課) Web会議などの活用については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点から必要に応じて活用するよう発注課職員および受注者をお願いしている。Web会議等の活用は生産性向上に効果があると考えている。受注者からも積極的な利用を働きかけていただき、平常時においても効果的に活用していただきたい。

② BIM/CIM等、ICTの導入・活用推進により、計画～設計～施工～維持管理に係る生産性向上への取り組みが必要と考えています。ICTに関する貴市の取り組みの現状と今後の予定について教えてください(業務発注の現状および予定を含む)。

**【広島市からの回答】**

・(技術管理課) ICT技術の導入・活用については、平成30年度から受注者希望型によるICT活用工事を実施しており、令和4年度からは簡易型ICT活用工事を追加しさらなる普及拡大に向けて取り組んでいる。BIM/CIMについてはまだ実績はないが、現場の効率化や品質向上など生産性向上の観点から重要な取り組みであると認識している。引き続き国の事例などを参考にしながら導入に向け研究するとともに、橋梁設計業務などでBIM/CIMが適用できる事業がないか模索していきたい。

③ 押印が不要となった一部の書類については、電子メールでのやりとりが可能になっていますが、今後、電子入札システム、電子契約システム、情報共有システムを改善・導入していく中で、各種書類の電子化をはじめとした入札・契約手続き、業務実施の効率化・省力化のための取り組みの検討をお願いします。

**【広島市からの回答】**

・(工事契約課) 現在導入している電子入札システムは非常に複雑であり、外注によってメンテナンス・改定等の作業を行っている関係でいろいろな制約がある。できる範囲で継続的に業務の効率化、省力化の観点から改善を進めている。電子契約システムについては、先進事例等もあることから導入等に取り組んでいる他の自治体の状況を現在調査している。

・(技術管理課) 業務実施における効率化、省力化への取り組みとしては広島県が実施している情報共有システムの取り組みが考えられる。現時点においては一部の土木工事を対象に受注者希望型で試行している。工事と同様に業務においても生産性向上に寄与するものと考えており、今後の試行導入に向けて他都市の事例などを参考に検討してまいりたい。

**■意見交換**

**(1)遠隔臨場について**

**【建コンからの質疑】**

・遠隔臨場について、一部の工事では実施していくとの話があったが、建コン業務では、例えばボーリングの検尺等での活用などについてお聞きしたい。

**【広島市からの回答】**

・全体的に遠隔臨場については、現場と事務所が近いということもあって活用されていない状況にある。待ち時間や移動時間にかかなりの時間を要するので、そういったことを踏まえればある程度明確に分かるものについては今後進めていきたいと考えている。そういった中で例えば土質調査のボーリングの検尺等においては活用できると思っているのですが、いつ頃どのようということはまだ決めていないが、建コンが関連する業務でも遠隔臨場を考えていけないと考えている。

## (2)Web会議の実施について

### 【建コンからの質疑】

- ・ Web 会議の実施について、広島市の現状として広島市ではどれくらい実施されているかお聞きしたい。Web 会議が手軽にできるようになれば、いろいろな所からいろいろな人が参加できる。

### 【広島市からの回答】

- ・ 全体としては、いままで会議に赴いて参加していたものが、コロナになって Web 会議で参加する機会が多くなってきていると思う。現場サイドのほうで受注者との程度かということは把握していないが、Web 会議を使ってほしいという声がかかなりあがっているという話は聞いているので、できるだけ使ってもらいたいという話はしている。簡単な設計協議であれば Web 会議で十分であると考えている。後はハード面の環境の問題があるので、現場サイドで活用がなかなか進んでいないのが現状かと思っている。手軽にできるようになることが良いことだと考えている。
- ・ サッカースタジアムの担当者は、相手方が遠くにいることもあるが頻繁に行っている。慣れもあると思うので活用を広げていかなければならないと感じている。

## (3)ウィークリースタンスについて

### 【建コンからの質疑】

- ・ 働き方改革関連法が改正され罰則規定が設けられた。建コン協としては喫緊の課題であると認識している。「広島市ウィークリースタンス実施要領」を定めて実施していただいているということで、ありがたく感じているところであるが、現場等における実態を把握されていればお聞かせいただきたい。
- ・ 岡山県や国土交通省では業務が終わった後にアンケート調査しているが、なかなか分母が増えない(回答が少ない)という状況があり、アンケート調査に答えにくいという状況があるようである。広島市のほうで声があがりにくい状況の把握があれば、あるいは建コン協に気を付けてほしいというところがあればと思っている。お互いに話をしながら進めていくしかないと考えている。

### 【広島市からの回答】

- ・ ウィークリースタンスについては、それぞれの設計発注者側の担当者と受注者側の設計者のやり取りがメインになってくる。要は現場ごとの話になってくるので、絶対数については逆に受注者側のほうが、声があがってきやすいのではないかと感じている。
- ・ ウィークリースタンスが導入される以前から同様の取組みについては話をいただいたと思うが、導入後は明確にこういった取組みにしようということで実施要領を定めているので、是非とも取り組んでもらいたいと指導する側、調整する側としては思っている。それぞれの事象があるところでの対応についてはよくわかってはいない。

## (4)「令和4年度地方ブロック意見交換会「要望と提案」及び【調査資料集】概要版」による情報提供について

### 【建コンからの質疑】

- ・ 技術力による選定に関する事項として「地方自治体における発注方式の選定状況」を記載している。総合評価落札方式の発注が多い都道府県・政令都市の上位10自治体を表記しており、以前はこの4、5番目に広島県が記載されていたが、災害の関係があってトーンダウンしていた。先日、広島県との意見交換会があり落ち着きを取り戻したので復活しつつあるとのことをお話を聞いている。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島市からの回答

- ・総合評価落札方式には技術提案があるⅠ型、一部に技術提案があるⅡ型、実績評価型のⅢ型がある。例えば東京都は実績評価型で会社および担当者の評価して選定する方法としているが、提案書を提出しても結局、最低制限価格近くで落札となるという問題がある。総合評価落札方式は、実は取り入れたほうが、落札率が低くなるというおかしな話があり、これは、総合評価落札方式を取り入れていない事案については歩掛が合わないなどの理由で高めに応札することなども理由であるが、一方では、総合評価をいただく場合には、この仕事は自信をもってできるということで低めに応札する傾向があるので、全体を通すと落札率が低くなっているという現象が起きている。
- ・国土交通省業務を中心に価格点と技術点の割合の設定の問題もあるが、各自治体におかれては、総合評価落札方式等を一部取り入れていただければ、品質の向上につながるのではないかと考えている。
- ・「DXの推進」に関する行動について「①受発注者協働による働き方改革に資するDXの推進」、「②i-ConおよびBIM/CIMの推進（ライフサイクルマネジメントの生産性向上）」に電子入札システムの関係、i-Con、BIM/CIMの関係ということで、遠隔臨場、情報共有システム（ASP）なお入札から納品までのことを記載している。これに関し自治体ごとで個別に歩掛の設定は難しいので、国土交通省のほうへ電子入札システムの改修や運用改善など、いろいろな要望を提出している。また、電子契約システムによるシステム関連作業・書類の電子化や、情報共有システム（ASP）に関する費用に関わる改善・操作性の運用拡大などの協議を行っている。
- ・BIM/CIMデータがプロセス間で分断されている問題についても、あるべき姿を示し問題提起している。施工側では重機とセットで3次元ソフトが使用されており、これが設計側のソフトと互換性がないところが一番の問題である。3次元の成果を作ろうということで、来年から始まるが、こういった問題を抱えながら、完ぺきではないがスタートしようというのが国土交通省の考えのようである。
- ・その他、デジタル情報のサプライチェーンの構築ということで3Dソフトの開発目標の明確化、モデルの照査機能などや、デジタル情報のサプライチェーンの運用ということでBIM/CIMデータのマネジメント体制の検討、さらにBIM/CIMへの対応、DX、テレワーク等への対応で費用が増大していることで「BIM/CIM標準歩掛の策定」や一般管理費の見直し要望、低入札価格調査基準価格の見直しなど、国とも建コン本部を通じて協議を行っている。今後歩掛の改定や電子入札システムのクラウド化など変わってこようかと思われる。国とのやり取りを踏まえて積極的に絡んでいただければと思っている。

### 【広島市からの意見】

- ・コンサル会社には設計を実施していただいているが、工事契約後に工事会社が着手したら現場と設計が違うことが多々ある。事前に確認できること、できないことがあるが、当初の設計の考え方と違う内容が実際に設計を行ったコンサルに伝わっていないということがあって、中々品質の向上につながっていない、同じことを何度もしてしまうという事例があった。現場との違いを共有できる場・機会があればより品質の向上につながるのではないかと考えている。
- ・現場の着手前までだけでなく現場の着手後においても、話し合いや協議の場が持たれるとより良いと考える。



**【建コンからの回答】**

- ・ 議題の「品質確保の向上」に“三者会議の実施”を記載しているが、スタートはやはりそれである  
と考える。設計思想と現場の考え・発注者の考えを現地において一緒に確認する。合同現地踏査  
もそうであるが、そういった三者会議を設けて同じ設計思想を周知する、そういった中で進めな  
いと、中には机上で調査をして概略的な調査結果をもとに設計を行っているような業務もあり、  
現地に合わないこともある。そういったことがあるため三者会議で確認することを前提にして  
おりほとんどのところが導入している。このため、広島市においてもこういった取組みを設けら  
れた方が成果の品質の向上につながるのではないかと考える。
- ・ 具体的に問題点を我々も把握できれば、協会でエラー防止セミナーを毎年開催し事例を集めてい  
る。例えば施工ヤードが不十分であるとか、仮設等が不十分、あるいは設計そのものの勘違いな  
どがいろいろできてきている。下水では地下埋設物との関係、施工空間の不足などの問題が考えら  
れる。情報をいただければ協会の中で協会員に注意喚起などが行えるし、その年の注意事項とし  
て講演会での説明や冊子の作成もしているので、双方の齟齬がとれる良いチャンスになると考  
える。
- ・ BIM/CIMにおいても3Dが4Dになるということで、工事業者さんのほうで、施工段階における  
変更や、道路の切り回しなどを計画される、あるいは施工段階ごとにバーチャルリアリティで見  
たりされているが、そのベースは設計段階で作成したものになっている。工事業者さんのBIM/  
CIM、設計側のBIM/CIMについて共通で認識をもたないといけない。現場に入ってから新たなこ  
とが見つかることもあるので三者協議などを活用していただきたい。
- ・ 先日、広島高速道路公社と、これから温品のジャンクションを整備していかなければならないと  
いうことで、施工段階のこと発注ロットのあり方などについて意見交換を行った。50～60年後  
の更新のために3次元で施工時のデータを残しておく、さらに点検も含めてデータを残しておく  
ということを考えており、BIM/CIMについてまた勉強会を開催しようという話になっている。

■「ICT委員会設立について(建設コンサルタンツ協会中国支部)」の情報提供

**【建コンからの情報提供】**

- ・ 協会は今年度から4つ目の柱としてICT関係で、「DX推進の環境整備」に取り組んでいる。各支部  
にはICT関連の部会や委員会があるが、北陸と中国には部会や委員会を設けていなかった。今年  
度から各社に応募をかけ15社、25名の参加により委員会を設立することとなった。主な内容と  
しては、①i-ConstructionおよびBIM/CIMに関する事項、②各種ICT関連技術およびDX推進に  
関する事項、③地方整備局や関連する団体とのICT関連意見交換等への参画、④ICT及びBIM/  
CIM関連の本部情報共有である。始まったばかりで12月から本格的な委員会活動を進めていく  
ことになっている。
- ・ 建コンのDXに関する取組みを紹介したい。中国地方整備局で技術関係の研究会を開催している。  
その中で「中国地整のインフラDX推進に向けて」ということで建コンのほうで整理をして公表  
している。
- ・ 一つ目は「設計レベルに応じたモデル作成」として、詳細度が100～400があるがそれに応じて  
例えば、詳細度200であれば概略設計、300になれば詳細設計、400になれば配筋や橋梁の詳細  
図など細かい部分をモデル化している。詳細度200のイメージとしては、道路の概略設計、道路  
予備設計Aということで、ルートを選定・中心線の決定、大まかな幅杭、橋梁のスパンを決定し  
ている。詳細度300になると道路の詳細設計ということで細かい内容として、幅杭はもちろんの  
こと、水路や橋梁部の巻き込み、ブロック、用地幅など細かい部分がすべて反映されてくる。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島市からの回答

次に地形モデルについて、従来測量による平面図の2次元では高さのデータがないため地形モデルの作成ができない。UAVレーザによる測量データは点データとしてX、Y、Zをたくさんとることができ、それに等高線データをのせるので、等高線などのイメージは表現できるが、データ容量が大きく地物情報が表現できない問題がある。これに対し3次元地形モデルは、点データおよび現地の補足による線データを取り込むことにより地形データが作成できる。また、点群データのグラウンドデータに補足測量の成果を反映させることで、約100MBから約10MB程度までデータ容量を小さくすることができる。この考え方は建コンで取組を行い工夫してきたものであるが、本省と国土地理院でガイドラインにしようという話になっている。

- ・次に「モデルの種類と概要」として3次元地形モデルをどのように使うのかということで、土工形状モデルと統合モデルが代表的なものとして挙げられる。土工形状モデルはICT建機への入力を主目的として作成されたモデルで主にICT施工の法面工・土工に使われている。統合モデル(道路)は各部の詳細なものが3次元で表現されたもので、詳細度300程度のものである。橋の高架下の交差点の形状、水路などが表現されており、地元説明や警察協議などに使える詳細なものである。土工形状モデルの作成では各断面で地形交点をおさえ切土、盛土を区分している。一方、統合モデルは詳細度300や400で作成しているの細かいものが描かれている。詳細度300では下水道についてもいろいろな属性をもたせることで、地下のものが埋設物とどう離隔があるかなどを確認することができる。さらに400になると鉄筋の干渉チェックなどを行うことができる。関係機関協議での活用では橋梁の下にある交差点の形状について、橋脚の位置、車との関係をシミュレーションができて視距がどの程度とれるかなどの視認性の確認を行うことができる。また、道路の構造照査での活用では建築限界の干渉が起きていないかなどの確認に使うことができる。AR技術の活用では現地の映像とデジタルの将来の映像を組み合わせることで現地状況を確認しながら、将来計画等のイメージを共有することが可能になる。
- ・「BIM/CIMを含めたDXのイメージ」を活用した事例として、地形を3Dで表し、3Dで設計した計画を合成し用地線などを表現し、ARで計画を現地に重ねあわせ、地元協議に活用した事例がある。地元協議がスムーズに行え、非常に評判が良かった。次の事例は橋脚の3Dモデルに属性を付与して数量等を管理した事例であり、さらには配筋干渉チェックや、4Dによる施工順のシミュレーション、維持管理にモデルを活用できるということで評価をいただいている。
- ・次に「最新の現場見学会(バーチャル現場見学会)」の事例を紹介する。今年の9月に開催されたものであり、山陰の改良工事の事務所で開催された。現場見学会は現地において実施され説明などが行われたが、現場事務所、中国地方整備局、本省、建コン、施工業者が参加してバーチャル的に現場見学会を実施しようと試みたものである。現地にモニターなどの設置や現場中継のオペレータが配置され、本省においてGoogleで現地の状況を見たり、トンネルではロボットで削孔して、爆薬をいれて発破をかけて掘削するといったものをリアルに先端にカメラを設置して確認したり、ドローンを飛ばして現場をみたり、さらにARを利用して将来形を確認するなどの体験をしていただいた。本省からは中国が進んでいるとの評価をいただいた。
- ・建コンは様々な取り組みをしているので、DXの活用などに関しいろいろなところから相談を受けている。見えない部分の施工、地質も含めてこれからはDXの活用が必要になると感じている。
- ・ICT委員会のメンバーはより現場に近いメンバーで構成されている。皆様からのご相談であったり、具体的な課題のための意見交換をする場合には一つの窓口なると考えているので、事務局のほうへ連絡いただきたい。

## 岡山県との意見交換会（R4.12.22開催）

令和4年12月22日（木）岡山県立図書館2階サークル活動室において、岡山県と建コン協中国支部及び岡山県委員会の意見交換会が開催されました。

岡山県からは有路技術総括監をはじめ6名の幹部職員が、中国支部からは小谷副支部長、金本業務部会長、吉岡同副部会長及び、岡山県委

員会から辻委員長をはじめ6名の委員の計10名が出席しました。

今回は、一般テーマとして「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」の3項目について意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



岡山県意見交換会の状況

### 岡山県との意見交換会要旨

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び岡山県からの回答

#### I. 担い手の確保・育成のための環境整備

##### (1)働き方改革に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

① 納期（変更後）の年度末集中はかなり緩和され、改善していただいております。引き続き、国債（ゼロ国債、2カ年国債）・翌債の活用及び繰越の柔軟な運用により、計画的な業務発注に配慮いただくとともに、業務内容や業務規模に応じた適切な履行期間となるようお願いします。合わせて、繰越後においても適正な履行期間の確保にも配慮をお願いします。

また履行期間の設定においては、業務全体の期間設定に加え、業務途中における資料作成依頼等においても、余裕のある期限設定をお願いします。

#### 【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）

- ・県では、中国地域発注者協議会において設定した、業務に係る「第4四半期納期率」の目標も踏まえ、建設産業の働き方改革の促進に資するよう、ゼロ県債や2カ年債務、翌債を活用し、前倒し発注や履行期限（納期）の分散化、標準履行期間の確保に努めているところであり、引き続き、履行期限の（納期）の平準化や標準履行期間の確保に努めてまいります。
- ・令和3年度の平準化の取り組み結果は、目標0.45に対して0.46で、目標を少し下回っておりますが、今年度も更なる平準化を図るため、目標を0.42として取り組んでいるところです。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び岡山県からの回答

### 第4 四半期納期率の目標

R 2	R 3	R 4	R 5
0.50	0.45	0.42	0.40

・また、履行期間の設定においては、業務途中における資料作依頼等についても、余裕のある期間設定に努めてまいります。

② 「ウィークリースタンス」の取組みは積極的に推進していただいておりますが、「16時以降の打合せ」、「勤務時間外の作業」等、課題もあると思いますので、取組みが形骸化しないよう事務所等への継続的な指導とともに、必要に応じて改善をお願いします。

### 【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）

・ウィークリースタンスについては、令和2年4月から実施しているところですが、一部徹底できていないという業界の声を踏まえ、本年7月に、改めて担当職員に対し、取組の目的を再度周知するとともに、確実に実行するよう徹底しております。同通知において、指示や依頼を行う際には余裕のある適正な期限設定を行うよう周知しており、今後とも、建設コンサルタント業界の就労環境の改善に向けて適切に対応してまいりたいと存じます。

③ 業務発注時や変更時には、条件明示の徹底をお願いします。建コン協会中国支部では、計画系業務を含む幅広い業務を対象とした業務スケジュール管理及び設計条件明示の徹底、ワンデーレスポンスの着実な取組みをお願いします。岡山県においても幅広い業務を対象とした活用促進をお願いします。

### 【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）

・本県では、国のような「業務スケジュール管理表」や「設計条件明示チェックシート」は活用していませんが、必要に応じて、適正なスケジュール管理に努めるとともに、設計条件等については、発注時の特記仕様書に記載することとしております。  
・今後もこの取扱いを徹底するとともに、業務が円滑に実施できるよう、ワンデーレスポンスの徹底に努めてまいります。

④ BIM/CIM活用による建設生産・管理システム全体に係る生産性向上への取組み

1) 国交省などではBIM/CIM適用事業及び対象分野が拡大・拡充されています。岡山県における取組みの現状と今後予定を教えてください。

### 【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）

・本県では、令和3年度から試行的に測量(UAV)業務や設計業務で実施しているところであり、試行結果の検証や国や他県の取組状況も踏まえ拡充について検討してまいります。

2) BIM/CIMに関する技術や仕様については発展途上段階であり、出来ることと出来ないこと、現状では実施困難なこと等が多くあります。BIM/CIM活用を推進するうえでは、それらを受発注者間で相互理解することが必要になりますが、発注機関職員の知識や理解度の向上に向けた指導・育成・研修等の取組み状況や今後の予定を教えてください。

### 【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）

・BIM/CIMの知識や理解度の向上のため、国と連携し、岡山県i-Construction推進連絡会を通じて、BIM/CIMの勉強会を開催し、知識や理解を向上していきたいと考えております。

3) 岡山県発注業務におけるBIM/CIMの普及に向けた啓発活動に関して、協会に担って欲しいこと、期待されていることをお聞かせください。

**【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）**

・ BIM/CIMの今後の拡大・拡充について検討するため、BIM/CIM活用事例についての報告会などを開催していただきたい。

⑤ 岡山県におけるインフラ分野のデジタルトランスフォーメーション(DX)の取組みについての情報提供をお願いします。

**【岡山県からの回答】（道路整備課保全班・防災砂防課・技術管理課技術指導班）**

・ 令和3～4年度に「道路防災DX事業」として、航空レーザー測量データを活用し、落石発生源となりうる急崖面等の位置や地形を判読できる高精度のデジタル地形図(微地形表現図)をしたところであり、今後、道路斜面の点検・調査の迅速性や安全性の向上、対策工事における省力化、工法選定の最適化、工事の優先度判定などに活用してまいります。

・ さらに、令和3～5年度において、「情報基盤整備事業」として、県下の土砂災害警戒区域等を3次元デジタル地形図に表示する「3Dマップ」を作成中であり、住民が視覚的に地形を把握しやすくなり、危険な区域への理解が進み、適切な避難行動につながるなど、防災情報のさらなる見える化に取り組んでいるところです。

・ 今後は他の分野においても検討していきたいと考えております。

⑥ 令和4年度に発注されたUAV測量業務について

1) 令和4年度試行的にUAV測量業務が発注されたようです。対象業務、発注件数、発注金額について教えてください。

**【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）**

・ 令和4年度発注業務

①単県 道路工事(地上レーザー測量業務)

委託金額：8,800千円

業務内容：施工延長L = 400.0m

幅員W = 5.0 (7.0) m

地上レーザー測量A = 0.016km<sup>2</sup>

②単県 道路工事(測量)

委託金額：748千円

業務内容：UAV写真測量A = 0.007km<sup>2</sup>

③公共 道路工事(測量その1)

委託金額：3,509千円

業務内容：測量業務

現地測量A = 0.011km<sup>2</sup>

路線測量L = 0.18km

(UAVレーザー測量)

2) 対象の拡充について教えてください。

**【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）**

・ UAV測量業務について、令和4年度は、3件発注しており、今後、対象分野の拡充について検討してまいります。

BIM/CIM活用業務

	R 3	R 4
測量	10	3

⑦ 令和3年度から「道路防災DX事業」の一環として航空レーザー測量を実施し、そのデータを基に落石発生源となりうる急崖面等を判読できる高精度デジタル地形図について

1) 令和3年度の実施状況を教えてください。

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び岡山県からの回答

### 【岡山県からの回答】（道路整備課保全班）

- ・ 県管理道路斜面におけるデジタル地形図（微地形表現図）は、令和3～4年度で整備済です。
- 2) 令和4年度以降の計画を教えてください。

### 【岡山県からの回答】（道路整備課保全班）

- ・ 令和4年度以降は、当該地形図を道路斜面の点検、対策工事における調査、測量、設計などに活用してまいります。
- 3) 対象分野の拡充について教えてください。

### 【岡山県からの回答】（道路整備課保全班）

- ・ 今後、道路の維持管理分野での活用についても検討していきます。

## (2)受発注者協働による災害対応、緊急事態に向けた環境整備

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大等、緊急事態発生時は、履行中業務の一時中止や工期延伸等、配慮していただいております。今後とも、このような事象発生時には、同様のご配慮をお願いします。

### 【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）

- ・ 緊急事態発生時等における履行中業務の一時中止の指示や工期延期については、今後とも適切に対応してまいります。
- ② 建コン協会中国支部では、対面打合せ時の接触による感染症拡大を防止するため、打合せや検査を実施する場合、Web会議システム等の積極的活用をお願いしています。岡山県のWeb会議システムの活用状況を教えてください。
- ・ 国交省では電子契約が普及していますが、緊急事態や働き方改革への対応の観点から、岡山県においてもご検討をお願いします。

### 【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班・管理情報班）

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年5月から、建設コンサルタント等業務委託についても、岡山県情報共有システム（ASP）の一部機能を利用できるよう臨時措置を講じております。
- ・ Web会議等は、移動時間や手待ち時間が削減され、現場作業の円滑化や業務の効率化が図られることが期待できるため、本庁、県民局等それぞれにおいて、実施のための環境整備に努めるとともに、必要に応じて活用しているところです。Web会議の利用を希望される場合は、監督員にお申し出下さい。
- ・ また、電子契約については、役務や物品、サービス等の調達においても有効であることから、今後の全庁的な動きや国等の状況を注視してまいりたいと考えております。

## (3)企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備

- ① 品質確保・向上のための担い手確保・育成や技術力・生産性向上に資する情報機器整備（DX推進、テレワーク導入等を含む）への企業投資の必要性が増大しています。
- 1) このため、直接経費、一般管理費等の見直しや最低制限価格の継続的な引き上げの検討をお願いします。

### 【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）

- ・ 本県の積算は国の設計業務等標準積算基準書に準拠して行っております。また、最低制限価格については、国の低入札価格調査基準の水準を踏まえて設定しているところであり、引き続き、国の動向を注視してまいりたいと存じます。

---

## 建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び岡山県からの回答

2) 協会員らがDX導入や担い手育成など、先行投資的な取組みがしやすい環境を作る方策の一環として、岡山県の今後の取組みなどを記したロードマップ等を示していただけないでしょうか。

### 【岡山県からの回答】(技術管理課技術指導班)

・DX推進については、岡山県DX推進指針に基づき、激甚化・頻発化する自然災害への備えやインフラの老朽化、担い手不足等、建設分野における課題に対応するため、3次元データやビッグデータ等のデジタルデータとAIやIoT等のデジタル技術を活用し、安全・安心や生産性の向上を図る取組を推進することとしており、今後の取組み内容については、検討してまいりたいと存じます。

② 業務の途中段階で、共通仕様書や特記仕様書に記載されている内容以外の資料作成等を指示される場合がありますが、このような場合には、費用及び履行期間の変更対象とする等のご配慮をお願いします。

### 【岡山県からの回答】(技術管理課技術指導班)

・設計書等がない追加作業や変更の作業は、書面で指示し、費用や履行期間の変更を行っており、引き続き、書面による指示や適切に変更を行うよう周知・徹底してまいります。

## II. 技術力による選定

### (1)プロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善

① 平成26年度に改正品確法が施行されました。「発注関係事務の運用に関する指針」に基づき、技術力・品質に優れた企業を選定するため、業務内容に応じて、総合評価落札方式、プロポーザル方式のような技術力を評価する発注方式の導入・拡大をお願いします。

・総合評価落札方式の導入について、今後のスケジュール計画や運用方針などについてお聞かせください。Ⅲ(3)の業務評価点に基づく業務表彰制度とも絡めてお考えをお聞かせください。

### 【岡山県からの回答】(技術管理課技術指導班)

・プロポーザル方式については、業務内容に応じて高度な調査研究業務等において個別に実施しているところであり、今後とも必要に応じて実施してまいります。

・総合評価落札方式の導入については、業務表彰制度の活用も含め、今後研究してまいりたいと存じます。

### (2)人材確保・育成

① 人材確保・育成に向け、若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度、シニア人材活用のための制度が必要と考えています。引き続き、導入に向けた検討をお願いします。

### 【岡山県からの回答】(技術管理課技術指導班)

・若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度、並びにシニア人材活用のための制度の導入については、国や他県の動向を注視してまいりたいと存じます。

### (3)地方自治体における発注方式の改善

① 現地測量(地形測量)について、作業箇所が離れている場合(特に地区が違う場合)に合計面積で積算されている場合が見られますが、総数量になった場合は作業量変化率が機能しない状態となるため、出来る限り地区ごとの積算(発注)をお願いします。

**【岡山県からの回答】（技術管理課管理情報班）**

・本県の積算は、国の設計業務等標準積算基準書に準拠して行っており、現地測量（地形測量）の歩掛は、標準歩掛に対して、作業量補正式により算出した補正係数を乗じて補正することとしておりますが、作業量の考え方について、明確な記載はありません。従いまして、現場毎に現地状況等を考慮し、積算しているところですが、測量箇所がかなり離れている場合など、明らかに1箇所の作業量としてまとめることが不適当と考えられる場合は、箇所毎に分けて積算するよう、指導してまいります。

**Ⅲ. 品質の確保・向上**

**(1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み**

① エラー防止の取組みとして、受発注者合同現地踏査については、業務特性に応じて、特記仕様書に明示し、実施することになっています。国交省においては全ての業務において導入されており、その有効性が確認されています。引き続き、取組みの強化をお願いします。

**【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）**

・合同現地踏査については、業務特性を踏まえ必要に応じて実施してまいりたいと存じます。

② 品質を確保するうえで、適切な工程管理が重要と考えますので、条件確定や対外協議の円滑な実施と、これらが遅延した場合の履行期間の延期等については引き続きご配慮をお願いします。

**【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）**

・業務の円滑な実施のため、速やかな条件確定や対外協議に努めているところですが、これらが遅延した場合の変更については適切に対応してまいります。

**(2)詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保**

① 施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」を実施していただいております。地質技術者を加えた合同会議は、設計者、施工者、地質技術者相互にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果が期待されますので、引き続き、対象工事の拡大等、積極的な推進をお願いします。

**【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）**

・三者会議は、重要構造物を含む工事や発注者が必要と認める工事を対象としているところであり、引き続き必要に応じて実施してまいりたいと存じます。

・追加検討や修正が発生した場合の費用につきましても、発注者と設計者が契約を締結して支払うなど、適切に対応してまいりたいと存じます。

**(3)業務表彰制度の創設**

① 業務成果の品質確保・向上のためにはコンサル側の業務担当者のモチベーションを高くすることも重要であり、現在、業務ごとに評価点をつけていただいております。

将来的には業務評価点に基づいた業務表彰制度の導入がなされる計画があるのでしょうか。今後の取組み方針などについてお聞かせください。

**【岡山県からの回答】（技術管理課技術指導班）**

・技術者の意欲向上と業者の技術力向上は、品質確保の観点から重要であり、委託業務表彰制度は有効な手段であると考えております。

・表彰制度を導入するに当たっては、表彰を行う業務の選定根拠となる成績評定について、国の成績評定要領の改定を踏まえ、令和4年度中に成績評定要領を改定することとしており、新要領により評定を行った上で、表彰制度の導入を検討してまいりたいと存じます。



---

## ■ 協会本部と中国支部意見交換会（R5.2.27開催）

令和5年度の発注機関に対する「建設コンサルタントの要望と提案」の内容を固めるため、令和5年2月27日（月）に広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、協会本部と中国支部の意見交換会が開催されました。協会本部からは野崎会長はじめ中村副会長、多田顧問、常任理事の皆様が出席され、中国支部

からは、小田支部長、坪井副支部長、小谷副支部長、支部理事8名、支部監事1名、來山総務部会長、永田技術部会長、金本業務部会長、岩苔厚生部会長、各県委員長が出席しました。

あらかじめ本部で作成された令和5年度の「要望と提案」の一次原稿に対して、中国支部の意見を申し入れて調整をお願いしました。



## 技術部会の開催

### ●第1回技術部会・技術委員長合同会議

開催日：令和4年6月8日(水)

場 所：TKPガーデンシティ広島駅前大橋  
カンファレンスルーム3B

- 内 容：(1) 各委員会活動報告  
(2) 設計・施工のための点群データ活用ガイドライン(案)について  
(3) DX推進WGの立ち上げについて  
(4) 支部での提言活動について  
(5) 支部広報活動について  
(6) 工事見学会について  
(7) その他

## 技術講習会、見学会

### ●CIMハンズオン講習会開催報告

本部情報部会ICT委員会CIM技術専門委員会の協力のもと、CIMハンズオン講習会を開催しましたので報告します。

開催日：土工編 2022年9月15日(木)

構造物編 2022年9月16日(金)

場 所：広島オフィスセンター G会議室

目 的：国土交通省では、建設生産性向上を図るi-Constructionの取り組みにおいて、3次元モデルを活用し社会資本の整備、管理を行うBIM/CIMの導入普及に取り組んでいます。平成28年度末にはCIM導入ガイドラインが公表され、年次改定、適用工種の拡大が進められています。令和3年には3次元モデル成果物作成要領(案)が策定され、令和4年には小規模を除く工事に係る詳細設計業務において原則としてBIM/CIM適用することとしています。そこで、国土交通省のBIM/CIM実施内容を協会会員に周知し、実際にパソコンを操作することにより、CIMへの対応を体験してもらうハンズオン講習会をCIMに初めて取り組む初心者、初級者を対象に実施しました。

参加【定員各20名】：土工編 10名  
構造物編 9名

9月15日(木) 土工編スケジュール

Autodesk Civil 3D、InfraWorks 使用

9:30 受付開始

10:00 開会あいさつ(講習会目的説明)

10:05 CIM/I-Con動向

講習内容の説明

10:30 Civilモデル化の考え方

11:00 地形作成

12:00 昼食

13:00 土工モデル作成、統合モデル作成

17:00 閉会あいさつ

9月16日(金) 構造物編スケジュール

Autodesk Revit、Navisworks 使用

9:30 受付開始

10:00 開会あいさつ(講習会目的説明)

10:05 CIM/I-Con動向

講習内容の説明

10:30 Revitモデル作成の考え方

11:00 構造物モデル作成実習

12:00 昼食

13:00 橋梁モデル、統合モデル作成実習

17:00 閉会あいさつ



講習会の状況

## ●マネジメントセミナー

開催日：令和4年9月28日（水）  
会場参加とライブ配信を併用したハイブリッド方式で開催  
【午前の部】9：40～12：30  
【午後の部】13：30～17：00  
ライブ配信の録画動画見逃し配信  
10月3日（月）10時～  
10月10日（月）16時

主催：本部技術部会マネジメントシステム委員会  
内容：・建設コンサルタントとマネジメント  
・PPP/PFIの政策動向と事例紹介  
～多様化する建設コンサルタントの役割～  
・CM方式の更なる普及に向けて  
～マネジメント業務に従事できる技術の確保・育成と発注者に向けた取組～  
・「環境配慮経営の実践」に向けて  
～カーボンニュートラル、グリーンインフラ、SDGsへのチャレンジ～  
・マネジメントシステムの効果的運用に向けて  
～実効性向上のための10のヒント～  
・アセットマネジメントの社会実装に向けて  
～アセットマネジメントに対する国民の期待と今後の取組み～

参加者：1,762名

## ●GIS講習会2022（ArcGIS/初級編）開催報告

本部情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会のもと、GIS講習会を開催しました。  
開催日：初級編2022年10月27日（木）  
場所：WEB開催  
目的：コンサルタント技術者がGISを実業務に適用するための方法を考えられるように、実際にパソコンを操作しながらGISを業務に活用する方法を修得して頂くことを目的とする講習会  
令和4年度は、コロナ禍においてもGIS講習会を継続的に開催することを目的に、WEB（TV会議システム）を用いたArcGISによる初級編の講習会

参加【定員24名】：初級編13名

スケジュール  
9：30～10：00 TV会議システム参加  
時間受講準備  
10：00～12：00 ArcGIS講習  
12：00～13：00 昼食・休憩  
13：00～17：00 ArcGIS講習  
（まとめ、アンケート記入を含む）

## ●ICTセミナー2022「BIM/CIMの動向と関連情報講習会」開催報告

本部情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会協力のもと、WEBセミナーを開催しました。  
日時：2022年11月30日（水）  
13：30～16：30  
場所：WEBセミナー形式  
内容：BIM/CIM関連情報を中心に、3Dデータの利活用をはじめとしたICT関連情報の共有を目的としており、今年度はインターネットの環境があればどこからでも受講可能なようにWEBセミナー方式で配信となりました。

参加【定員500名】

スケジュール  
1. DX・BIM/CIMに関する項目  
・インフラDX、BIM/CIMの最新動向  
・BIM/CIMの基準・容量等の改定・選定  
・BIM/CIMの業務の流れ  
・各地整等のDX関連の主な取組等  
2. ICT関連技術に関する項目  
・ドローンの登録制度・資格制度・活用事例  
・オープンデータの活用  
・XRの活用事例  
・AI・ロボット・メタバース・ゲームエンジン等  
3. その他  
・電子納品要領・基準、ガイドラインの改定  
・情報共有システム、オンライン電子納品  
・BIM/CIMやICTに関する話題提供 等

## 現場見学会に参加して

中電技術コンサルタント株式会社  
地盤技術部 太田 明緒

### ○中国縦貫道 大規模改修工事 工事現場

本事業は、中国自動車道江の川第三橋他1橋の床版取替工事であり、老朽化等により劣化した床版を取り替える工事である。

現場では、高所で新設のプレキャストPC床版を移動させたり、補修作業を行ったりするため、ポスターやカラーコーン等を用いた注意を促す工夫が多くみられた。また、暑い時期の屋外作業であるため、熱中症対策として水分・塩分を補給するための休憩スペースが設置されていた。

### ○広島呉道路 4車線化事業 工事現場

平成30年7月豪雨災害により、広島呉道路・国道31号・JR呉線が同時に被災したため、長期間交通ネットワークが寸断され、住民生活や地元産業へ大きな影響を及ぼした。

本事業は、防災・減災、国土強靱化のための緊急対策であり、坂北IC～呉IC間の道路を供用しながら山側へ拡幅し、4車線化を進めている。

事業完了により、災害発生時の代替機能の強化（片側交互通行・対面通行による通行止め時間の短縮）や、交通量拡大による地域経済・地域社会の発展が期待される。

#### ・海上運搬積込拠点

前述の事業では、道路を山側へ拡幅するための切土工事や、トンネルを新設するための掘削工事により、大量の土砂が発生する。このため土砂の受け入れ先である広島県港湾埋立地（出島）へ海上運搬するため、呉ポートピアに積込拠点が整備された。

現場では、土砂の周辺住宅地への飛散防止のため高さ3mの柵を周囲に立てたり、瀬戸内海の汚染を防ぐためのろ過設備が設置されたり、周囲の環境に配慮する工夫が多くみられた。

#### ・橋梁工事

呉トンネル工区の橋梁工事では、川が近くを流れているため掘削範囲を限定したり、橋梁に

交差する生活道路のために桁下3mを確保したり、環境保全や地元住民への配慮が行われていた。

現在は、山側にⅡ期線を新設するための切土工事が行われており、落石防護ネットと仮設落石防護柵による二重の安全対策が行われていた。

### ○見学会で学べたこと

見学会に参加し、主に現場の安全対策について学ぶことができた。土木工事を行う際は、周囲や作業に従事する人々に対し、安全配慮をしなければならない。今回見学した現場では、危険のある箇所一つ一つに大きな文字でポスターがあり、注意喚起が徹底されていた。また、工事目隠し板の外側に地元出身のアーティストによる絵を描くなど、景観への気遣いがなされていた（写真1）。

長期にわたる事業では、地元住民に与えるストレスも積み重なっていく。だからこそ、ただ事業を進めるだけではなく、住民や作業に従事する方々に寄り添った現場を作っていくことが重要であると感じた。今回見学した現場を参考に、今後の業務に活かしていきたい。

見学場所の提供と説明をいただいた、西日本高速道路株式会社 中国支社、極東興和株式会社、株式会社フジタ 広島支店の皆様に深く感謝いたします。



写真1 地元出身のアーティストによる  
絵が描かれた工事目隠し板

# 現場見学会に参加して

八千代エンジニアリング株式会社  
広島支店 技術部 信田 あゆみ

## はじめに

残暑厳しい令和4年8月31日、建設コンサルタ  
ンツ協会中国支部主催の現場見学会に参加した。  
朝、広島駅に集合し、参加メンバー約40名と  
ともにバスに乗り、中国縦貫道 大規模改修工事  
(広島県三次市)と広島呉道路4車線化工事の2  
箇所(広島県呉市)を1日かけて見学した。

### 中国縦貫道 大規模改修工事(床版取替工事)

江の川PAでバスを降り、通行止めとなっている  
下り線を徒歩で100m程度移動して、床版取替  
工事現場に到着した。

まず、目に入ったのは、土工部に設けられた作  
業ヤードに、整理して置かれた多くの資材や発電  
機等であった。次にコンクリートポンプ車が配備  
され、橋梁区間の床版打替の現場となっていた。  
まだ埋められていないPC床版の間詰部に落ちな  
いように、細心の注意を払いながら見学した。

ここでは限られた作業ヤード内で、想像してい  
た以上の多くの人々が様々な作業を行っていた。具  
体的には、間詰部のコンクリート打設と締固め、  
コンクリートポンプ車から圧送されるホースの操  
作、間詰部配筋の結束、スラブ止め用孔の間詰め  
やこて仕上げ、清掃、PC床版下部に敷く緩衝材の  
準備、床版架設機のジャッキを下す等々である。  
メインの床版架設は、桁の上に敷かれたレールに  
配備された床版架設機で背後に置かれたPC床版を  
クレーンで吊り、180度回転させ、ゆっくりと慎重  
に約10人がかりで所定の位置に配置していた。



写真：床版取替工事現場

## 広島呉道路4車線化工事

最初に、呉ポートピアパークに設置された海上  
運搬拠点を見学した。ここでは、工事で発生する土  
砂を、搬出効率のよい船で出島まで運搬するた  
めに設けられた拠点で、フェールセーフの考え方が  
至る所に取り入れられていた。ヤードに設置され  
た20m×40mの大規模な上屋は、強風時でも屋根  
が飛ばされることがないように可動式となってい  
たり、躯体はワイヤーで地表部と固定できる装置  
が設置されていた。また、海への濁水対策とし  
ては、カキ養殖場も近いので、薬剤を使わない周  
辺環境に配慮した方法が採用されていた。

次に、呉トンネルの掘削起点となる広島側を見  
学した。ここでは切土工事や供用中橋梁の耐震補  
強、土砂運搬のための仮設道路の設置準備がされ  
ていた。また、現道の付替えにおいて、橋梁下の  
建築限界が通常の高さ4.5mが確保できないため、  
時間をかけて行政や警察と協議の結果、大型車  
の利用のない道路であることから、高さ3mを確  
保することで合意を得たことなどの説明を受けた。



写真：土砂搬出場 沈砂池

## おわりに

建設現場においては、ICT施工の導入が推進さ  
れている中でも、多くの土木技術者の手によ  
って支えられており、安全、環境、周辺住民に細  
心の注意を払い、緊張感を持って施工が進めら  
れていることを肌で感じた。また、設計者とし  
ても設計段階から、安全、環境、施工等に十分  
配慮した設計をしようとして再認識した一日であ  
った。

今回の現場見学会にご協力頂いた、関係者の  
皆様に、深くお礼申し上げます。

# 現場見学会に参加して

株式会社ウエスコ

社会基盤デザイン部 北添 朱莉

## はじめに

令和4年8月31日に建設コンサルタンツ協会主催で開催された現場見学会に参加した。今回見学したのは中国自動車道江の川第三橋他1橋床版取替工事と、広島呉道路呉トンネル工事である。ここではそれぞれの工事の概要、及び所感について記す。

## 江の川第三橋他一橋床版取替工事

本工事は高速道路リニューアルプロジェクトの一環として、老朽化した橋梁の床版取替、及び舗装修繕を行うものである。今回見学したのは、P5-P6橋脚間の床版取替工事である。床版架設機で床版を設置する様子を間近で見ることができた。床版架設機などの巨大な重機や、既設橋では確認できない鉄筋や緩衝材のような、写真や図面ではイメージしづらいものを見ることができ、勉強になった。



写真1 床版を架設する様子

## 広島呉道路4車線化工事

本工事は、平成30年7月豪雨災害を受け、防災・減災、国土強靱化のための緊急対策として

平成31年3月29日に事業化され、坂北IC～呉IC間(約12.2km)の供用中の道路を山側へ拡幅し、2車線から4車線に整備するものである。今回見学したのは、工事によって出る大量の土砂を埋立地に搬出するための海上運搬拠点(呉ポートピアパーク)と、呉トンネル工事の現場(吉浦工区)である。吉浦工区では既設橋梁の耐震補強工事と、新設橋梁、トンネル工事の現場を見学することができた。

大量に出る土砂をどうするか、地山が固いが家屋と近く振動を抑制する必要がある場合にどのように掘削するかなど、現場を見ることで多種多様な課題があることを実感することができた。



写真2 呉トンネル工事現場

## おわりに

今年の春社会人になり、工事現場を見学したのはまだ今回が2回目だった。今回の現場見学では、実際の現場に足を運ぶことで学べることの多さを実感した。課題に対して多くの選択肢を持ち、柔軟に対応できる技術者になれるよう、これからも現地見学会に積極的に参加したいと思う。

●品質セミナー “品質の確保・向上に向けて”

開催日：令和4年10月21日（金）

～10月30日（日）

場 所：Web開催

主 催：本部技術部会品質委員会

内 容：・品質委員会の活動状況と設計瑕疵等の動向

・国土交通省品質確保対策への対応

・多様な働き方における品質確保

・エラー防止のために

(1) 道路／トンネル

(2) 橋梁

(3) 土質・地質

(4) 港湾

(5) 河川構造物

(6) 砂防・急傾斜

参加者：1,620名（会員 1,533名

非会員 6名 行政機関 81名）

令和4年度は、品質委員会の活動概況と設計瑕疵等の動向（第1講）、品質確保・向上施策の動向や会員企業の取り組み紹介（第2講から第3講）、エラー防止のための事例を分野別に紹介（第4講～第9講）する講演として開催しました。



## 講師の派遣

### ①中国地方整備局

研修名	実施日	派遣講師
基礎技術Ⅰ研修	R4. 7. 4 (月) ～ 7. 8 (金)	高宮晃一・安富泰弘・内田広明 (復建調査設計㈱)
基礎技術Ⅱ研修	R4. 8. 3 (水)	野田直樹(㈱ヒロコン)
構造物設計Ⅱ研修	R4. 9. 6 (火) ～ 9. 8 (木)	藤田啓輔(㈱長大)・反田恒・林浩二郎 (㈱総合技術コンサルタント)
橋梁管理実務者Ⅱ研修	R4.10. 6 (木)	反田恒(㈱総合技術コンサルタント)
構造物設計Ⅰ研修	R4.10.17 (月) ～ 10.21 (金)	錦織真樹・森井紀裕・河本隆 (中電技術コンサルタント㈱)・佐藤義弘・ 堤敦洋・國廣尚嗣・佐々木真希生・ 矢田淳一・久留島浩二郎・濱田祐二 (㈱荒谷建設コンサルタント)・ 藤田啓輔(㈱長大)

### ②広島市

研修名	実施日	派遣講師
土木専門研修 (アスファルト舗装)	R4. 6.20 (月)	平尾保洋(復建調査設計㈱)
土木専門研修(構造物設計)	R4. 6.21 (火)	野田直樹(㈱ヒロコン)
CIM研修	R5. 2. 1 (水)	玉置康雄(㈱エイト日本技術開発)・ 高龍(㈱片平新日本技研)・ 河井恵美(中電技術コンサルタント㈱)

### ③公益財団法人岡山県建設技術センター

研修名	実施日	派遣講師
コンクリート構造物の点検・診断・ 補修(上級)	R4.10. 4 (火) ～ 10. 5 (水)	増田修・高木正行・増田智彦・松浦寛司・ 寺田弘基(㈱エイト日本技術開発)
会計検査指摘事項の検証	R4.11.22 (火)	中谷武弘・金田博志 (㈱エイト日本技術開発)

### ④広島県

研修名	実施日	派遣講師
中級Ⅱ講座(設計技術)	R4. 5.17 (火)	坂本幸久・吉屋和彦・後藤啓治・西本敦範・ 加藤公啓・内田広明(復建調査設計㈱)
中級Ⅱ講座(設計技術)	R4. 6. 9 (木)	坂本幸久・吉屋和彦・後藤啓治・西本敦範・ 加藤公啓・内田広明(復建調査設計㈱)



## 河川委員会の活動報告

### ●河川委員会の開催状況と主な活動内容

回	開催日	内 容
第1回	R4.7.6 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度 役員の改選及び会員の変更について</li> <li>・建設コンサルタント協会 技術部会・委員長合同会議報告</li> <li>・本年度活動内容について</li> </ul>
第2回	R4.8.10 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーン太田川の参加報告</li> <li>・中国地方整備局との技術交流会の活動について</li> <li>・業務事例報告勉強会</li> <li>・川マップの更新について</li> </ul>
第3回	R4.9.7 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国地方整備局との技術交流会の活動テーマについて</li> <li>・河川委員会による砂防施設見学について</li> <li>・業務事例報告勉強会</li> <li>・川マップの更新(担当河川)について</li> </ul>
第4回	R4.10.5 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国地方整備局との技術交流会の活動概要について</li> <li>・地方整備局におけるBIM/CIM業務の発注における中小企業向け配慮の実態調査結果まとめの報告</li> <li>・河川委員会による砂防施設見学開催時期について</li> <li>・川マップの更新の実施状況確認</li> </ul>
第5回	R4.11.9 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国地方整備局との技術交流会の活動(開催要項)について</li> <li>・業務事例報告勉強会</li> <li>・川マップの更新の実施状況報告</li> </ul>

### ●令和4年度「クリーン太田川」への参加

「クリーン太田川」は、広島県を代表する“太田川”を、河川清掃を通じて美しい河川環境にすることを目的として実施されており、今年度も河川委員会の活動の一環として、以下のとおり「クリーン太田川」に参加しました。

開催日時：令和4年7月24日(日)

場 所：太田川放水路右岸  
三滝橋～己斐橋上流(約2km)

参 加 者：建設コンサルタンツ協会 中国支部  
河川委員会 21名  
(協会員各社からの参加)



河川清掃を終えた参加者

## 道路委員会の活動報告

### ●道路委員会の開催状況と主な活動内容

回数	開催日	主な活動内容
67回	4月6日(水)	・テレワーク、DX及びBIM/CIMの推進について(山本委員) ・道路設計におけるデータの利活用について(藤田委員) ・道路設計に関わる技術的疑問に関する情報収集(各社報告)
68回	5月11日(水)	・時速40km/hに対応可能なランプの研究について(森委員) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(エイト日本技術開発) ・「人財育成」について意見交換(WG報告)
69回	6月1日(水)	・「自転車利用環境」について意見交換(WG報告) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(セントラルコンサルタント) ・「人財育成」について意見交換(WG報告)
70回	7月6日(水)	・「人財育成」について意見交換(WG報告) ・「自転車利用環境」について意見交換(WG報告) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(福山コンサルタント)
71回	8月3日(水)	・「人財育成」について意見交換(WG報告) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(明伸建設コンサルタント)
72回	9月7日(水)	・「自転車利用環境」に関する情報提供(WG報告) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(WG報告) ・ラウンドアバウトの事例紹介について(藤田委員)
73回	10月5日(水)	・「人財育成」に関する情報提供(WG報告) ・「自転車利用環境」に関する情報提供(WG報告)
74回	11月2日(水)	・「人財育成」について意見交換(WG報告) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(WG報告) ・道路設計に関わる技術的疑問に関する情報収集(各社報告)
75回	12月7日(水)	・「自転車利用環境」に関する情報提供(WG報告) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(WG報告)

### ●道路技術者の共通課題の解決に向けて

道路委員長 木原 智晴

令和4年度道路委員会は、コロナ禍以前と同様に4月委員会から12月委員会まで計9回(通期67回～75回)開催した。

本委員会は、道路技術者の共通課題の「BIM/CIM」「人財育成」「自転車利用環境」に関するWGと、2018年度より活動している「西日本4支部連携」の4つのWGを中心に活動した。

各回については、14社39名の委員の約7割以上が参加しており、コロナ禍の状況ではあったが活発な活動となった。

今年度の主な活動内容は、前出の一覧表のとおりであり、BIM/CIM、自転車利用環境の動向・

事例紹介をはじめ、人財育成といった業界の課題について、道路委員会として議論してきたところである。

「BIM/CIM」「人財育成」は12月に報告書を取りまとめ今年度活動を終了した。

「4支部連携」は、近畿、九州、四国の各支部との意見交換を通じて、「西日本コネクテッドリージョン構想の推進」を合同提言とするとともに、各地域の発展に留まらず、2050年における西日本のあるべき姿の実現に向けて合同提言を出した。

令和5年度も引き続きWGを中心に活動するとともに、交流の場、有益な知見を共有する場としたいと考えている。 以上

## 構造委員会の活動報告

### ●構造委員会の開催

回	開催日	内 容
1	R4. 5.20 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレストレスト・コンクリート建設業協会との意見交換</li> <li>・外部活動報告</li> <li>・分科会活動(広報WG,ミス防止WG)</li> <li>・自由討議</li> </ul>
2	R4. 9.30 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度PC技術講習会の実施方針説明</li> <li>・令和4年度構造物設計Ⅱ研修実施報告</li> <li>・外部活動報告</li> <li>・分科会活動(広報WG,ミス防止WG)</li> <li>・自由討議</li> </ul>
3	R4. 12. 2 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本橋梁建設協会との意見交換 (道示改訂、鋼道路橋計画の手引き、架設工事の事故防止等)</li> <li>・令和4年度PC技術講習会の実施活動協議</li> <li>・分科会活動(広報WG,ミス防止WG)</li> <li>・自由討議</li> </ul>



### ●令和4年度PC技術講習会

開催日：令和5年1月23日(月)  
～2月3日(金)

開催方法：オンライン講習会

主催：(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会中国支部  
(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部

内容：1) PC技術の最近の動向  
2) PC橋の設計施工に関する留意点  
3) PC技術の変遷と復元設計  
4) PC橋の維持管理、補修・補強工事の実績に関する話題

### ●講師派遣

講習会名：令和4年度 構造物設計(Ⅱ)研修

開催日：令和4年9月6日(火)  
～9月8日(木)

派遣先：中国地方整備局

講義内容：調査計画概論、橋梁予備設計、橋梁詳細設計、維持管理他

講習会名：令和4年度 橋梁管理実務者(Ⅱ)研修

開催日：令和4年10月6日(木)

派遣先：中国地方整備局

講義内容：耐震補強概論

以上

## 港湾委員会の活動報告

### ● 港湾委員会の開催状況と主な内容

回	開催日	内 容
港湾委員会 第1回	R4. 6. 7 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹事、名簿等の確認</li> <li>・ 令和4年度活動内容について</li> <li>・ 現場見学会について</li> <li>・ 港湾若手技術者の会について</li> <li>・ 技術交流会について</li> <li>・ その他</li> </ul>
港湾若手の会 第1回	R4. 7.20 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾若手の会の方針検討(参加者18名)</li> <li>・ 活動内容の決定と今後の予定</li> </ul>
港湾委員会 第2回	R4. 9. 8 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術委員長合同会議の内容報告</li> <li>・ 「実施設計業務委託歩掛の補正」について広島県との協議結果報告</li> <li>・ 若手の会の実施方針について報告</li> <li>・ 勉強会各社発表(復建調査設計、荒谷建設コンサルタント、いであ)</li> </ul>
港湾若手の会 第2回	R4. 9.30 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勉強会(参加者18名)</li> <li>・ 技術継承を題材としたワークショップ</li> </ul>
港湾委員会 第3回	R4.10.21 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術交流会について</li> <li>・ 現地見学会について</li> <li>・ 勉強会各社発表(エイト日本技術開発、基礎地盤コンサルタンツ、中電技術コンサルタント、広建コンサルタンツ)</li> </ul>
港湾若手の会 第3回	R4.11.11 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勉強会(参加者10名)</li> <li>・ 技術継承を題材としたワークショップ</li> </ul>
港湾若手の会 第4回	R4.12.13 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術交流会について</li> <li>・ 現地見学会について</li> <li>・ 若手の会の活動報告</li> <li>・ 勉強会各社発表(明伸建設コンサルタンツ)</li> <li>・ その他(次年度以降の取り組み他)</li> </ul>
技術交流会	R4.12.13 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本埋立浚渫協会4題、建設コンサルタンツ協会中国支部2題の講演を行い、意見交換を行った。</li> </ul>
現場見学会	R4.12.15 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三井住友建設鉄鋼エンジニアリング玉島工場</li> <li>・ ハイブリッド浮棧橋の製作現場の見学</li> </ul>

なお、本年度の活動は、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、対面会議を中心として実施した。

※Web会議も有効な手段であるが、親睦面や意思疎通など対面ならではの良い点を考慮した。今後、WEBの使用方法については検討の余地がある。

○対外活動1：港湾関連技術交流会（講演会）

日 時：12月13日（火）

場 所：ひと・まちプラザ 研修室

参加者：47名（施工業者17名、建コン30名）

内 容：全6題の港湾工事及び港湾調査・設計  
関連の講演を行った。

施工業者（建設会社）		設計者（建設コンサルタント）	
五 洋 建 設 ㈱	5	㈱ 荒谷建設コンサルタント	8
東 洋 建 設 ㈱	2	㈱ エイト日本技術開発	2
若 築 建 設 ㈱	2	基礎地盤コンサルタント㈱	2
東 亜 建 設 工 業 ㈱	3	中電技術コンサルタント㈱	7
あ お み 建 設 ㈱	1	広 建 コ ン サ ル タ ン ツ ㈱	1
㈱ 大 本 組	2	復 建 調 査 設 計 ㈱	7
㈱ 不 動 テ ト ラ	1	明 伸 建 設 コ ン サ ル タ ン ツ ㈱	3
み ら い 建 設 工 業 ㈱	1		
合 計	17	合 計	30

・講演内容

1 題目：i-Boatによる栈橋の調査・劣化診断・  
耐力評価システム；

五洋建設㈱ 水野 剣一

2 題目：洋上風力発電におけるサクシオンバ  
ケット基礎工法；

東洋建設㈱ 竹内 智彦

3 題目：自律水温制御パイプクリーニングシ  
ステムによる橋梁下部工の温度ひび割  
れ防止； 若築建設㈱ 小山 稔樹

4 題目：鋼板接着併用型タフリートPJ工法；

東亜建設工業㈱ 田中 亮一

5 題目：消波被覆ケーソン式沖防波堤の設計  
と施工計画；

㈱荒谷建設コンサルタント 濱野 直矢

6 題目：波による渦の発生を利用した多機能  
防波堤；復建調査設計㈱

南本浩一・高見 慶一

・講演風景：以下のとおり。



○対外活動2：現場見学会

・日 時：12月15日（木）13：40～

・場 所：三井住友建設鉄構エンジニアリング㈱  
〔岡山県玉野市玉3丁目1番1号〕

・見学内容：ハイブリッド浮栈橋製作現場の見学  
：（長さ35.0m、幅20.0m、高さ2.5m）

・参加者：18名

座学の後工場へ移動し、RCハ  
イブリッド製浮栈橋の製作状況  
を見学。一連の製造過程について、  
説明を受けながら学習した。

## 防災委員会の活動報告

### ●防災委員会の開催

回	開催日	内容
1	R4. 4.27 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題提供「地中ケーブル(送電線)の調査・設計」他2題</li> <li>・決算報告、予算の審議</li> <li>・令和4年度の活動方針について(防災教育、防災講演会、社会貢献活動、委員会HP、防災見学会)</li> </ul>
2	R4. 7.19 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題提供「落石に係る話題」他1題</li> <li>・防災教育 実施報告(広島市)、岡山市及び倉敷市との事前協議について</li> <li>・第1回WEB防災講演会について</li> <li>・社会貢献活動(災害冊子作成)について</li> <li>・現場見学会について</li> </ul>
3	R4. 9.27 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題提供「岡山県の特殊の礫層の紹介」他1題</li> <li>・防災教育 実施報告(広島市・呉市)、岡山市での実施計画について</li> <li>・社会貢献活動(災害冊子作成)実施計画</li> <li>・現場見学会について</li> </ul>
4	R4.12.17 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題提供「進化する効率化と付加価値」</li> <li>・防災教育 岡山市での実施報告と今後の予定</li> <li>・第2回WEB防災講演会 準備について</li> <li>・災害冊子「土砂災害 私の避難ストーリー」の検討</li> </ul>



### ●第1回WEB防災講演会

「地域防災力の向上に向けて」

地域防災力の向上をテーマに、様々な立場・視点から災害に対する防災・減災に向けた地域防災活動の取組みについて、災害時の対応の振り返り、支援の取組み及び防災マップ作成事例を交えた紹介などのご講演をいただいた。特に、全世代防災リーダー育成には子供から巻き込んだ防災教育が重要であること、また、常日頃から災害に備えることの大切さも再認識させられた。

コロナ感染対策として会場とWEB配信のハイブリット形式で行った講演会は、440名の参加がありとても好評であった。

開催日：令和4年8月3日(水)13:00～17:00

主催：(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部、(公社)日本技術士会中国本部  
防災委員会

協賛：広島県災害復興支援士業連絡会

後援：中国地方防災研究会

参加者：440名

内容

講演1「切れ目のない防災教育の展開による地域防災力の強化」

愛媛大学特命教授 矢田部龍一

講演2「行政・NPO・ボランティアの三者連携」  
ひろしまNPOセンター

専務理事・事務局長 松原 裕樹

講演3「DIG防災マップの取組みなどで考えたこと」  
(公社)日本技術士会中国本部防災委員会  
福田 直三

講演 4「地域における自主防災活動について」  
広島市議会議員

山田 春男・西佐古晋平  
話題提供「広島県民一人一人が災害に備える  
～防災タイムライン」  
広島県防災タイムライン啓発事務局  
(中国新聞) 福本 由紀

## ●第2回WEB防災講演会

「気候変動と流域治水への取り組み」

近年、集中豪雨による洪水の激甚化災害が全国的に発生しています。西日本においても多くの災害が発生し、その対策が喫緊の課題となっています。

今回、学識経験者や行政ご担当者の方々をお迎えして、学術的なお話や実際の現状と対策をまじえながら、流域治水やまちづくりのあり方についてご講演頂きました。

開催日：令和5年2月3日(金)13:00～17:00

主催：(一社)建設コンサルタンツ協会中国  
支部、(公社)日本技術士会中国本部  
防災委員会

協賛：広島県災害復興支援士業連絡会

後援：中国地方防災研究会

内容

講演 1「地球温暖化の進行と西日本における  
降雨の極端化」

広島工業大学教授 田中 健路

講演 2「流域治水に向けたまちづくりの展望」

東京大学教授 羽藤 英二

講演 3「二級河川本川水系における特定都市  
河川の取組状況」

広島県土木建築局河川課長 三上 公彦

講演 4「流域治水において農業用ため池や水  
田の果たす役割」

広島県農林水産局

総括官(農林基盤整備) 高田 善雄

講演 5「治水とまちづくり連携計画と防災集  
団移転」

江津市事業推進課主査 松田 徹

## ●防災教育

社会貢献活動として行っている防災教育は、平成17年から小中学生と高齢者を対象として行っており、この活動は本年で18年目を迎え、合計76箇所で開催しています。

今年度は、広島市・呉市のほか、岡山県にも活動の範囲を拡げ計9箇所で行いました。

5月20日 広島市立井口台小学校  
6年生 70名(座学)

6月9日 広島市立白木中学校  
1年生 26名(座学)

6月30日 広島市立日浦中学校  
1年生 35名(座学)

9月2日 呉市立阿賀中学校  
1年生 95名

(座学、ハザードマップ・マイタイムライン作成)

9月16日 広島市立梅林小学校  
5年生 96名

(座学、ハザードマップ・マイタイムライン作成)



座学の様子



ハザードマップ・マイタイムラインの作成

- 11月12日 岡山市中区操山公民館自主防災組織  
31名(街歩き・防災マップづくり)
- 12月10日 岡山市北区御南西公民館自主防災組織  
(防災マップづくり)
- 1月14日 岡山市南区灘崎公民館自主防災組織  
(防災マップづくり)
- 1月21日 岡山市東区瀬戸公民館自主防災組織  
(街歩き・防災マップづくり)

### ●防災冊子

社会貢献活動の一環として、小学校での防災教育において利用できる教材として、児童が自分で考えながら適切に行動できるよう、自分の住むまちの災害リスクと取るべき行動をストーリー形式で紹介する冊子を作成しました。

今回は、昨年の「洪水編」、「高潮編」に引き続き、「土砂災害編」を作成しました。

ストーリーの場面は、①平常時、②発災前(台風上陸前など)、③避難時とし、それぞれの場面で何に注意し、どのように行動すれば良いかを考えられるよう、クイズを交えながら作成しました。

### ●防災見学会

開催日：令和4年11月25日(金)

場 所：高梁川・小田川合流点付替え箇所

参加者：10社22名

視察内容

平成30年7月の西日本豪雨災害発生より4年数ヶ月が経過し、現地では堤防復旧工事や堤防拡幅、合流点付け替え等の各種工事が進められています。今回の見学会では、高梁川・小田川における河川災害の実態と復旧状況に着目し現地視察を行いました。今回の見学会にあたり、国土交通省中国地方整備局高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所工務課長藤井様に多数の資料作成・提供をいただき、現地においてご案内を賜りました。

以上



見学会集合写真





## 地域計画委員会の活動報告

中国支部（地域計画委員会）では、社会貢献活動としての取り組みを行うため、定期的に委員会（会議）を開催し、(1)まちづくり出前授業、(2)自転車マップの作成、(3)公共空間活用に向けた「シャレオ」との連携策、及び報告書のとりまとめなどの活動を行ってきました。

### ●地域計画委員会の開催

回	開催日	内容
1	R4. 4.20 (水)	・令和3年度の活動報告・令和4年度の活動テーマについて
2	R4. 5.18 (水)	・令和4年度の活動テーマについて
3	R4. 6.15 (水)	・自転車マップの作成について ・シャレオとの連携策について
4	R4. 7.20 (水)	
5	R4. 8.24 (水)	
6	R4. 9.21 (水)	
7	R4.10.19 (水)	
8	R4.11.16 (水)	

### (1) まちづくり出前授業

広島市立三篠小学校（西区）の総合的な学習の時間において、下表の通り、出前授業を実施し、子どもたちのまちづくりや環境保全等への関心を高め、意識啓発を行いました。今年も感染症対策として、学年を半分に分け、各学年2回、計4回実施しました。また、本年度は、広島工業大学（佐伯区）の都市環境保全講座においても、「環境影響評価」と「広島の水辺環境」について、出前授業（ゲスト講義）を実施しました。（講師：森島誠司・中電技術コンサルタント株式会社）

テーマ	まち（三篠）のやさしさ （ユニバーサルデザイン）	大切なまち（三篠）の環境
実施日	令和4年5月30日（2コマ）×2グループ	令和4年6月13日（1コマ）×2グループ
対象者	三篠小学校3学年（児童138名+教員6名）	三篠小学校4学年（児童140名+教員6名）
概要	JR横川駅を中心としたまちのユニバーサルデザインについて、最新の整備状況と整備前の比較、バスや電車等公共交通における全国的な先進施策なども加えてPPTによる説明や、車イスでの通行体験、透水性舗装の浸透実験など実物サンプルを使った仕組みの解説やルールなどについて講義を実施。児童はきづきをまとめて発表しました。	学校を取り囲む太田川や三滝山、廃棄物の埋立後に整備された竜王公園の生い立ち等を通じ、地域の歴史から自然環境・生活環境・3R等についてPPTでの説明を中心に講義を実施。また、調査用のUAVの展示・解説など建設コンサルタントの仕事の紹介も併せて実施。

## (2) 自転車マップの作成

地域計画委員会では、平成18(2006)年度から7年間にわたり、自転車とまちづくりをテーマとして活動し、各種調査やイベント運営支援、フォーラムの開催、自転車マップの作成、提言書の作成などを行ってきました。

令和3年度には、マップ作成から年月が経過していること、また新型コロナ禍を受けて自転車へのニーズが変化していること等から、新たな自転車マップの作成に向け、WEB版マップの試行版を作成しました。

本年度は、昨年度の成果をもとにメンバーで実際に試走し、新たなマップの製作に取り組んでいます。広島版のテーマは「観光」とし、観光客目線でインスタ映えしそうなおすすめスポットや、シェアサイクル「ピーすくる」のポートの紹介、自転車に関する取組みや規制などを載せる予定です。また、岡山版は、「日常生活」をテーマとして、走行のしやすさや危険箇所等を載せる予定です。



広島版マップ(試走結果)



岡山版マップ(試走結果)

## (3) 公共空間活用に向けた「シャレオ」との連携策

地域計画委員会では、公共空間の活用に向けて、広島市中心部の地下街「シャレオ」と連携した取組みを進めています。

令和2年度は「まちなかの居心地の良さを測る指標(案)」(国土交通省)を用いた調査を実施しました。令和3年度は、公共空間の利活用を通じた来街者への居心地の良い空間を提供するため、「多目的スペース」を活用して無料休憩スペースを試験的に創出しました。

本年度は、「シャレオ」内での具体的な施策の実証実験に向けて、現状を把握するため、敷地内の五感調査を行いました。

具体的には、地下空間において、「匂い」(嗅覚)や「騒音」(聴覚)、「光・見え方」(視覚)、「温度」(触覚)を観点として、調査しました。なお調査では、敢えて各調査員の『感覚』に任せることで、多様な観点から、良い点や問題点を抽出するものとししました。

調査結果は、課題の整理や次年度以降の実証実験に活用する予定としています。



シャレオの中央広場



シャレオの南北通り

## 令和4年度親睦活動

厚生部会では、支部協会員の親睦と健康維持を目的としてスポーツ大会を開催しています。今年度は11月2日にゴルフ大会、11月13日にフットサル大会、12月9日にボウリング大会を開催しました。新型コロナウイルス感染防止のため、フットサル、ボウリング大会は一昨年、昨年と開催を見送っていましたが、皆さまのご

協力により3年ぶりに開催することができました。ありがとうございました。

また、例年開催していますこの3種目の他に親睦活動として「どのようなことをやってみたいか」をテーマとして、9月30日に「若手の会との意見交換会」を行いました。どのような意見が出たか後段でご紹介します。

## ■第57回ゴルフ大会

- (1)個人戦は中電技術コンサルタントの蔵重耕一さんが2連覇達成!
- (2)団体戦は中本勝さん(陸地) 畠山誠司さん(復建)  
渡邊聖さん(明伸) 森脇克彦さん(相生)チームが制覇!
- (3)第2回となる会社対抗戦は中電技術コンサルタント(坪井俊郎さん、  
縄田和成さん、乗越晃さん、蔵重耕一さん)チームが2連覇達成!

令和4年11月2日(水)に第57回の親睦ゴルフ大会を「芸南カントリークラブ」で開催しました。参加は9社(2名以上参加7社)で初参加の5名を含め24名(6組)となりました。平均スコア(グロス)はここ最近の110点超えからやや改善し105.0点となりました。ハンディはダブルペリア方式で行い、個人戦は中電技術コンサルタントの蔵重さん(ネット69.6)、な

んとパープレーのグロス72(もちろんベスグロ)で2連覇を達成。また、昨年に続いて会社対抗戦(複数人の参加した会社が全員のNET平均で競う)も行い、これも中電技術コンサルタントチームが2連覇を達成されました。

早くも来年度の注目は個人、会社対抗戦とも3連覇への挑戦とそれを阻むものが出てくるか(出てこいやっ!)となりました。



スタート前の集合写真

## 成 績

### (1)〈個人戦〉

	氏名(会社名)	OUT	IN	G	HD	NET
優勝	蔵 重 耕 一(中電技術)	37	35	72	2.4	69.6
2位	森 脇 克 彦(相生エンジ)	54	55	109	36.0	73.0
3位	渡 邊 聖(明伸建設CT)	44	45	89	15.6	73.4

### 《ゴルフ大会優勝者の声》

蔵重 耕一さん(写真左)

中電技術コンサルタント株式会社

年 齢：44歳

役 職 位：経営企画部 専門役

出 身 地：山口県

家族構成：妻、子三人

趣 味：息子がバドミントン教室に通い始め、  
一緒に楽しむようになりました

ゴルフ歴：30年くらい



#### ①ゴルフを始めたきっかけ

昨年度に引き続いての寄稿となり、同じ内容ですがご容赦ください。

父親の練習について行ったことがきっかけです。中学の頃、うまくなりたいと思ってからは夏休み、春休み、冬休みに小野田市(現山陽小野田市)の若山ゴルフや宇部市のメキシコゴルフで日の出から日の入りまで一人でバックを担いでラウンドをしていました。雑誌やテレビ、色々な人のスイングを見ながら、良いと思ったところを取り入れながらスイングを作ってきましたがベースは我流です。

#### ②一番思い出に残っていること

昨年度の本イベント以降、私にとってゴルフに関する大きな出来事として、所属するゴルフチームの団体戦メンバーに選ばれ、充実した練習環境を得られたことが挙げられます。顔ぶれには、日本アマや日本ミッドアマの出場経験を持つアマチュアゴルフにおける有名選手が名を連ねます。(私は無名選手です。)

そういった環境下での印象的な思い出は、レベルが高い選手の精神力の強さです。彼らは競技本番でもいつもと変わらない精神状態で、いつもと変わらない好スコアでラウンドします。また、外せば勝敗に大きく影響するパットは何が何でも入れてくる勝負強さを目の当たりにした時には、精神力の差を思い知らされます。

### ③ゴルフが上手くなるには

どんなに良いスコアで回れても、驕らず謙虚に自分を見失わずに取り組むことを心がけています。また、マナーとエチケットを大切に、そういった姿勢が周囲から技術的な教えを受けやすい環境を作ることに繋がると考えています。最近では団体戦メンバーの一人からパターを打つ時のリズムが速いというアドバイスを受け、打ち急がずにゆっくりストロークするようにしています。そうすることで、カップまで1～2メートル程度のパットがよく入るようになりました。

### ④今回の勝因

暑くも無く、寒くも無く、風も無く、恵まれた天候の中でプレーすることができました。そして調子も良く1打目が狙った方向に飛んでくれました。1打目が良いところに行けば2打目以降も簡単に打てるため、ほとんどのホールでバーディパットを打てました。(入ってくれたのは3回だけでしたが。) さらに同伴競技者の方々にも恵まれ楽しくプレーできたことが良いスコアに繋がったのだと思います。ありがとうございました。

### ⑤その他一言

一昨年度、昨年度に引続き、今年度も、新型コロナウイルス感染症防止対策を求められる状況の中での開催となってしまいましたが、事務局の皆様、ご準備いただきありがとうございました。

## (2)〈団体戦〉

順位	メンバー(会社名)		NET平均点
優勝	中本 勝(陸地CT)	畠山誠司(復建調査設計)	74.8
	渡邊 聖(明伸建設CT)	森脇克彦(相生エンジ)	
2位	宮本寿夫(荒谷建設CT)	大河 淳(陸地CT)	77.1
	縄田和成(中電技術CT)	村上欣也(復建調査設計)	



団体優勝チーム  
左は坪井副支部長 次から畠山さん 渡邊さん 森脇さん 中本さん

### (3)〈会社対抗戦〉

順位	会社名	メンバー	NET平均点
優勝	中電技術コンサルタント	坪井俊郎、縄田和成、乗越 晃、蔵重耕一	76.3
2位	荒谷建設コンサルタント	新谷保則、宮本寿夫、岩苔 宏、森貞安雄、宗信和育	79.0
3位	復建調査設計	來山尚義、畠山誠司、村上欣也	79.4

7位の平均NET86.1と3位以下は接戦となりました。



会社対抗戦2連覇の中電技術コンサルタントチーム  
左から蔵重さん 縄田さん 乗越さん 坪井さん

### (4)〈平均スコア〉

	57回 (今回)	56回	55回	54回
参加人数	24	24	16	16
平均スコア (クロス)	105.0	110.0	103.4	110.6

前回よりやや改善したが目標の100切りは遠い!?

## ■ 第12回フットサル大会

### 中電技術コンサルタントが2連覇達成！ 15社、19チーム、170名が参加。 3年ぶりの開催で大変に盛り上がりました!!

令和4年11月13日(日)、第12回フットサル大会を広島の「ゼットフットサルスポーツひろしま」で開催しました。

待ちに待った3年ぶりの開催であり多数の参加をいただきました。日曜日の開催となりましたが、明日から仕事があることは忘れ(いや、考えながら)、朝早くから夕方(9時～17時半)まで楽しく過ごし、元気の良い若者から60代までが親睦を深めました。

今回も、あくまで勝敗にこだわる真剣リーグ(6チーム参加)と、親睦を目的とした親睦リーグ(13チーム参加)に分れ、それぞれの楽しみ方を

しました。

真剣リーグの結果は、予選リーグから順位決定戦に4チームが残り、決勝戦は中電技術コンサルタントが西日本高速道路エンジニアリング中国に勝利し2連覇を達成しました。おめでとうございます。3位決定戦は復建調査設計がイト日本技術開発に勝利しました。親睦リーグでは、勝敗数でなく参加チームの投票により、チームワークの良かった下表の5チームがチーム賞に選ばれました。また、今回も多くの子供たちの参加があり、キックターゲットや応援を楽しんでくれました。

#### 真剣リーグ 成績と順位

チーム名	会社名	予選リーグ	順位決定戦
TAKUWA∞	中電技術コンサルタント(株)	4勝1敗	優勝
VVVハーディア	西日本高速道路エンジニアリング中国(株)	4勝1敗	準優勝
FGEXブルー	復建調査設計(株)	4勝2敗	3位
い〜じえつくA	(株)イト日本技術開発	3勝2敗	4位
ウエスコA	(株)ウエスコ	0勝3敗2分	予選敗退
西部A	西部技術コンサルタント(株)	0勝4敗1分	予選敗退

順位は、予選リーグの1位対2位、3位対4位の対戦により決定しました。



開会式の後、全員で柔軟体操

## チーム賞・個人受賞者

賞		チーム名・個人名	チーム、受賞者
親睦リーグ	チーム賞	い〜じえっくB	㈱エイト日本技術開発
		L・S・B	㈱長大
		西部B	西部技術コンサルタント(株)
		Dai-con	㈱ダイヤコンサルタント
		FGEX青	復建調査設計(株)
個人賞	MVP(男性)	寺尾 陸	中電技術コンサルタント(株)
	MPV(女性)	中間 恵	相生エンジニアリング(株)
	MVP(50代)	高 龍	㈱片平新日本技研
	M G P	宇山 穂	復建調査設計(株)
	M G P	勝部 花歩	西部技術コンサルタント(株)
選手宣誓		河野駿太	復建調査設計(株)

### 【優勝記】

中電技術コンサルタント株式会社

西山 拓也さん

先日行われた第12回フットサル大会にて、我々中電技術コンサルタント(株)の「TAKUWA∞」は、前回大会優勝チームということで重いプレッシャーを感じておりましたが、2連覇という最高の成果を上げることができ大変嬉しく思います。

本大会では、決勝トーナメントを含め計6試合を戦いましたが、どの試合もハイレベルで、特に決勝戦は防戦一方の苦しい戦いでした。そのような状況のなか優勝できたのは、会場まで駆けつけていただいた坪井社長、応援いただいた方々を含めてチーム一丸となって、最後まで諦めずに戦った結果であると思います。

また、私個人としては初参加である本大会を通じて、改めてスポーツの楽しさ、素晴らしさ、辛さを実感しました。真剣勝負であるからこそ味わえる緊張感と、先輩後輩問わず優勝に向かって一緒に戦う姿は新鮮で勝敗を問わず楽しく、試合後は、敵味方お互いに称え合い親睦を深めることができる素晴らしさを実感しました。スポーツの辛さという部分では、大会翌日にチームメイトが筋肉痛を労るよう自身の身体を叩き、揉んでいた姿が良い思い出となりました。

最後になりますが、本大会を開催していただきました建設コンサルタンツ協会中国支部厚生部会の皆様、大会運営に関わられた皆様に感謝申し上げます。

次回大会でもフットサルを楽しみつつ3連覇を目指して頑張りたいと思います。



優勝のTAKUWA∞チーム



## 【男性MVP】

中電技術コンサルタント株式会社 寺尾 陸さん

この度は、男性MVPに選んでいただき誠にありがとうございます。今大会には、新入社員として初参加であったにも関わらず、このような栄えある賞を受賞できたことを大変誇らしく思います。また、何よりもチームとして二連覇を果たすことができ大変嬉しく思います。これも、優勝に向かってチーム一丸となることができた結果であると思います。

私は、幼いころからサッカーが大好きで、今でも建設コンサルタントリーグや社会人サッカー、フットサルなどに没頭しています。大好きなサッカーでは誰にも負けたくないの、プレー中に熱くなってしまうこともあります。その熱い気持ちがあるからこそ、試合後は、お互いの健闘をたたえ合い、次は(次も) 負けないと意気込み競い合うことができるスポーツの楽しさを改めて実感しました。

大会運営に携わって頂いた皆様、大会出場者の皆様、熱く楽しい大会をありがとうございました。来年の開催も心より楽しみにしています。



## 【女性MVP】

相生エンジニアリング株式会社 中間 恵さん

この度は女性部門のMVPに選んでいただきありがとうございます。以前よりフットサル大会が開催されていることは知っていましたが、今回誘いを受けて初めて参加する運びとなりました。事前に会社のみんなど練習をして気合い十分に試合に臨んだものの、独特な空気と緊張で2試合目にはどっと疲れてました。

それでも頑張れたのはチームメンバーの声掛けのおかげでした。下手くそな私がボールを持つたびに大きな声で応援してもらい、あと一歩、もう一歩が出たと思います。今回はゴールこそ決められませんが、次回も出場しゴールを決めてチームに貢献できるよう頑張りたいと思います。

最後に、大会の開催および運営に携わってくださった皆様には感謝を申し上げます。次回開催を楽しみにしております。



## 【50代MVP】

(株)片平新日本技研 高 龍さん

この度は50代MVPに選んで頂き誠にありがとうございます。チームメイトからおいしいパスをたくさん頂きましたが、最後の方は足がガクガクでした。ナイスパスありがとう、と一杯外してごめんねの気持ちです。年々、体がカチコチになり、無事に1日が終了してホッとしたのが本音です。コロナで数年開催されませんでした。徐々に日常を取り戻しつつあるのが何より嬉しいです。開催にあたり運営委員の方々のご尽力誠にありがとうございました。皆様ありがとうございました。わたくしも微力ながらコンサルタンツ協会の発展に貢献出来るよう活動を続けたいと思います。



## 【男女MGP】

MGP賞は“もっとも頑張ったで賞”として男女各1名に与えられました。



男性MGP：宇山 穂さん



女性MGP：勝部 花歩さん



キックターゲット ‘どの番号を狙おうか!?’

## ■ 第55回ボウリング大会

団体戦は長大チームが、2位以下を大きく離しての優勝！  
個人戦は、男子は陸地CTの桐吉さん、  
女子は長大の竹内さんが共に初優勝！

12月9日(金)に第55回ボウリング大会を広島市中区八丁堀の広島パークレーンで開催しました。  
今回は13チーム(39人)の参加があり、2階、3階のフロアに分かれて行いました。

### 〈個人戦〉

	氏名(会社名)	1G	2G	3G	HD	計
優 勝	桐 吉 幸 治(陸地CT)	178	194	171	—	543
準 優 勝	栢 裕一郎(長大)	165	116	199	—	524
女子優勝	竹 内 彩結実(長大)	144	150	113	45	452

### 〈団体戦〉

	会社名・メンバー	スコア計
優 勝	長大チーム	1,390
	栢 裕一郎(524) 柚山 隼人(414) 竹内 彩結実(452)	
準 優 勝	陸地CTチーム	1,250
	桐吉 幸治(543) 伊藤 英幸(440) 池田 美遥(267)	

### 【優勝記】

#### ■ 団体優勝 株式会社長大チーム

この度、第55回建設コンサルタンツ協会ボウリング大会において、団体優勝することができました。会社の代表として参加させて頂きましたので、散々な結果だったらどうしようと考えておりましたが、会社にも良い結果を報告することができました。今回のチームは、『安定の竹内』『技巧派の柚山』『パワーの栢』の3人で参加させて頂きました。その中でも特に、『安定の竹内』が女性部門で優勝に輝き、団体優勝に貢献してくれました。短い時間ではありましたが、仕事を忘れ、純粋に楽しむことができました。最後に建設コンサルタンツ協会中国支部厚生委員の皆様におかれましては、毎年様々な親睦の機会を与えて頂き、感謝しております。本当にありがとうございました。



団体優勝の長大チーム  
左2 人目から 栢さん、竹内さん、柚山さん

■男子個人優勝 株式会社陸地コンサルタント 桐吉 幸治さん

この大会は初めて参加させていただきました。

ボウリングは10年以上前に熱心にやっていました。

歳は取りましたが、どうにか良いスコアがでてまさかの個人1位となり驚いています。

なにより、みんなで楽しくボウリングが出来た事が一番の喜びでした。

団体は2位でしたので次回も参加できたら優勝を目指したいと思います。

最後になりましたが、建設コンサルタンツ協会の皆様には、このような場を設けて頂きまして有難うございました。そして大会に参加された皆様、お疲れさまでした。

■女子個人優勝 株式会社長大 竹内 彩結実さん

今回、初めて大会に参加させていただき、個人優勝することができました。さらに、団体でも優勝を果たし、W優勝できたことを喜ばしく思います。

実は、ボウリングには小学生以来行ったことがなく、チームの足を引っ張らないようにと、大会1週間前にこっそり練習をしました。練習ではぎりぎり100越えだったので、大会でのスコアには自分でも驚きました。同じチームの柚山さんと栢さんには、温かい掛け声で盛り上げていただき、楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染の影響により開催することができず、今回は数年ぶりの開催であったと伺いました。このような機会を与えて頂いた建設コンサルタンツ協会中国支部厚生委員の皆様には感謝申し上げます。今後も様々な親睦活動に参加したいと思いますのでよろしくお願いいたします。



投球開始前の集合写真

## ■ 若手の会との意見交換会

開催日：令和4年9月30日（金）

場 所：広島市中区八丁堀エイトビル2階レンタルスペース

厚生部会では、支部協会の親睦と健康維持を目的として例年3つのスポーツ（ゴルフ、フットサル、ボウリング）大会を開催していますが、新たな行事の追加や新型コロナのような非常事態への備えも考慮し、他の行事として「何かできないか。何をしたいか。」若手の会と厚生部会で意見交換をしました。また、その後はささやかではありますが、懇親会の場を持ちました。

来年度は、新たな行事も開催したいと考えていますので皆さまご期待ください。

数多く出たアイデアをグルーピングすると次のようになりました。

（グルーピングしたアイデア）

- 1) 屋内運動会（ヨガ、ポッチャ、ドッチビーなどを含む）
- 2) 屋外体験活動（地引網体験、ゴミ拾い、バーベキュー）
- 3) 合コン
- 4) アスレチック
- 5) 登山
- 6) 船釣り（釣り堀含む）＋バーベキュー



3グループに分かれて意見交換

（その他意見）

- 1) 屋外企画は雨天時のことも考えておく必要がある。
- 2) 誰でも参加できる企画が良い。子ども、ファミリーなど。
- 3) SDGsに絡められる企画も良い。
- 4) マイナー競技（ポッチャ、ドッチビーなど）の協会と協働できると実現し易い。
- 5) 年間で企画のストーリーがあると良い。  
例えば、5月の開催とし新入社員も参加して馴染むのを促すなど。



その後、弁当・ビールで懇親会

（今後の進め方）

- 1) グルーピングしたアイデアにかかる予算（概算）を算出する。
- 2) 全てのアイデアを単年度にはできないため優先順位を付ける。
- 3) 以上を整理して、来年度の中国支部事業活動予算に計上する。

## バスケットボール以外の趣味発掘生活

八千代エンジニアリング株式会社  
小倉 孟

### 1. 私とバスケットボール

小学校からバスケットボールを始め、中学、高校、大学、社会人と現在でも趣味程度ですが続けておりまして、人生と生活の一部です。

中学・高校では県選抜級のメンバーが集まっており、全く敵わずスポーツのシビアさも痛感しました。練習も大変でしたが、部活の遠征等で九州や中国地方に出向いて様々な経験をさせていただき、楽しかった思い出が残っています。



同期でチームを組みバスケ大会に参加しました！

### 2. バスケットボールが無い日も楽しみたい

バスケも満喫しているつもりですが、コロナ禍以降頻度が減り、何も予定が無い日の24時間を満喫できない自分に気づきました。

そこで、新しい趣味を見つけるためいくつか試した結果、①お酒、②ドライブの全く相容れない2つが生き残りしました。

### 3. 私とお酒

大学時代からお酒は多少嗜んでおりましたが、最近新たなお酒に手を出し始めました。

昔はビールと焼酎の2択だったのですが、近年家飲みが多くなり、ビールは信じられないほどの缶ごみが出る、焼酎はいつも水割りでのむのですが、作るのが面倒という問題がありました。これらを解決できるのが「ウイスキーのロック」でした。過去も何度か飲んでみてはまっていなかったのですが、久しぶりに飲むと味・香

り・産地ごとの違いに感動し、その日に趣味枠に追加。今でも飲み続けています。

ただ飲んでいても飽きるため、現在ウイスキー検定に挑戦中です。合格してどうするかは考えていませんが…

### 4. 私と車

車は、以前神奈川の小田原市に住んでいた頃購入しました。箱根が近かったので、購入後すぐ温泉にドライブ。後悔しました。なぜ今までマイカーを持たなかったのかと。

特に東京を走る機会が多く、首都高速道路は一生分走りました（気がしています）。

神奈川で知り合った友人と3人で神奈川県から熊本県まで車で往復（合計3,000km）したのはいい思い出です。現在住んでいる広島にも車を持ってきたので、西日本の様々な土地に行ければと考えております。



杖立温泉（熊本県）

### 5. 趣味枠空いてます

趣味を探している方がいらっしゃいましたら、今は様々なサービスがサブスクリプションだとお試して始められますので、空いた時間にいかがでしょうか。最近パンのサブスクの存在を知りましたが、食べきれないと思い断念しました。

まだ私も趣味を探しておりますので、皆さんの趣味に関する投稿を楽しみにさせていただきます。

# 登ろう会の紹介

復建調査設計株式会社  
濱田 卓治

## －はじめに－

弊社には、軟式野球部やサッカー部のような公式クラブの他に非公式で活動を行っている愛好者の集まりがあります。すべてを把握はしておりませんが、フットサル、バトミントン、駅伝（マラソン）、復燕隊（スワローズ）など様々な活動に汗を流してオフタイムを楽しんでおります。

その中の一つである「登ろう会」について紹介します。

## －名称の由来－

約10年前に会として発足した当初は、「登老会」の名称でスタートしました。しかし、これではベテラン職員の健康維持や体力強化を目的とした活動として思われ、また、活動としての存続が危ぶまれることを考えた末に若い職員にも気兼ねなく参加していただくため、翌年に「登ろう会」へ改名しました。改名の効果もあり現在では、20代から60代と幅広い年齢層で活動しています。

## －お花見登山－

毎年4月上旬に、お花見を主目的として広島市近郊で山頂が桜で有名な山々を公共交通機関を利用して日帰りで散策しています。山頂では各々が準備してきたお弁当を周りの景色を眺望しながら桜の下で楽しく食事しています。お花



神倉山頂（広島市）にて

見登山は季節もよく、手ごろな標高のため老若男女に人気のある活動です。

なお、お花見のため下山後に反省会と称してもう一つの目的を達成しています。

## －ゴールデンウィーク（GW）登山－

GWの序盤を利用して中国四国をメインとした日本百名山の登山を1泊2日で活動しています。前泊のため、登山口に近いキャンプ場で野営して事前に買い込んだ食材でBBQを行い、翌早朝から登山を開始します。

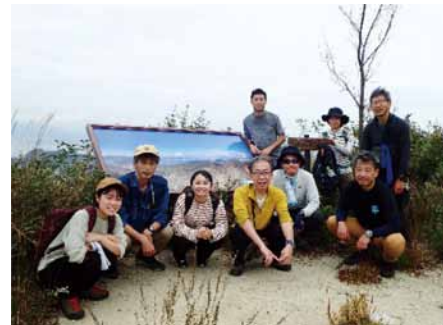
なお、前泊となるためBBQでの暴飲暴食には注意が必要になることは言うまでもありません。



剣山（徳島県）登山時の前泊

## －紅葉登山－

紅葉シーズンの11月中旬頃は、その年によって日帰りあるいは1泊2日の活動にするかは変わります。日帰り登山の場合は、お花見登山同



古鷹山頂（江田島市）にて

様で紅葉初期の周辺の山々を眺望しながら散策して山頂で食事後に下山。反省会后に、一日の活動が終了します。紅葉登山も標高が手ごろのため人気のある活動となっています。

#### －その他の登山－

「登ろう会」の活動は前述した3つの活動を基本とした1年サイクルですが、これ以外も行ってきました。

- ・六甲全山縦走大会（兵庫県）
- ・吉備路の山全山縦走大会（岡山県）

コロナ禍のため、登山関係のイベント自体が中止になったりしていますが、発足当初の「登老」メンバーは身体と相談しながら徐々に活動の幅を広げていきたいと思えます。

#### －今後について－

「登ろう会」は、気軽に・自由に・楽しくをモットーに活動しています。山へ登ることは目的ではなくメンバー同志の交流のツールとしております。

どうでしょうか？下山後の達成感をメンバーと共有してみませんか！



吉備路縦走大会のスタート前





# ウエスコ 支社対抗ソフトボール大会の紹介

株式会社ウエスコ  
藤田 喜文

## ■はじめに

弊社は平成26年から年1回、全社を対象としたソフトボール大会を岡山で開催していましたが、令和2、3年はコロナの影響で中止になっていました。ここでは、3年ぶりに開催できた支社対抗ソフトボール大会について紹介させていただきます。

## ■開催決定まで

令和4年4月某日、支社対抗ソフトボール運営委員会(主に岡山支社ソフトボール部の有志)が招集され、今年度の開催の是非について会議をしました。ちょうど、まん延防止等重点措置が3月に解除され、今年度は何とか開催できるかなといった雰囲気の中で、感染対策等(会社として許可が出せるレベル)を実施したうえで開催するといった結論になりました。感染対策等としては、「開催直前のPCR検査による陰性確認」「参加は社員本人に限定」「当日の検温」「試合外のマスク着用の徹底」等、厳しいものでした。なかでも「開催直前のPCR検査」については、開催が天候に左右されることと検査の有効期限があることから、様々なケースを想定した検査スケジュールを作成しました。その甲斐があっただけか、雨天延期もなく、無事開催にこぎつけました。

## ■大会当日

晴天に恵まれ、全社から140人を超える多数の社員に参加いただけました。

開会式、準備体操の後、8チーム(岡山支社3チーム、他支社5チーム)によるトーナメント方式で大会を実施しました。2年のブランクがあることから、他支社チームの調子があがらず、普段からソフトボール部として練習している岡山支社の3チームが準決勝(ベスト4)までに残り、1、3、4位となりました。(私が所属するチームは3位で賞金を頂きました。)

普段は交流が無い社員同士の親睦を図ることができた有意義な大会になっただけでなく、社員、関係者の協力により、新型コロナウイルスの感染者、事故、怪我等の発生も無く、無事に大会を終了することができました。

## ■おわりに

令和4年度は何とか開催できましたが、感染対策のため、家族の応援や有志によるかき氷、フランクフルト等の出店ができませんでした。来年度は何とか従来通りの方式で開催できればいいなと思いつつ、開催目的である社員の健康増進、社員同士の連携強化を図るためにも、継続して大会を開催していきたいと思っております。



支社対抗 全員集合

# 佐北駅伝 35回連続出場

## ～二つの奇跡～

中電技術コンサルタント株式会社  
山原 康嗣

日本の冬の風物詩の一つともいえる「駅伝」に、皆さんは、どれほど馴染みがあるでしょうか。

年末年始は、全国高校駅伝や実業団駅伝、箱根駅伝、ひろしま男子駅伝など、全国規模の大会も賑やかですが、広島をはじめ中国地域の各地でも、いくつもの伝統ある駅伝が続いています。

中電技術コンサルタントは、広島県の旧佐伯郡北部で昭和28年に始まった「佐北駅伝」に、今から38年前の1985年（昭和50年）、第34回大会から参加を始めて以来、今回の第70回記念大会まで、35回連続の出場を続けています。

### ■連続して出場していること

佐北駅伝は、例年、12月の第2日曜日に開催され、12月10日、コロナ禍による2年間の中止により、3年ぶりの開催となりました。

元々は好き者の素人ランナーが勝手に集まり、しつこく走り続ける弱小集団でしたが、中堅・ベテランが日々鍛錬し、その時々若い力の補充を行いながら、38年間に亘って出場を続けてきました。

単独企業の素人集団が、この間絶え間なく参加し、完走を続けたことと、その結果としての連続出場は、今となっては一つの奇跡と思えます。

### ■チームや大会があり続けていること

この駅伝に参加を始めて4年目の1988年大会からは、2チーム以上での参加を続けています。

特に、決まったメンバーのチームや部がある

わけではなく、都度選手を公募し、チームを編成しているため、業務の都合や体調不良等により、選手の確定には当日まであたふたするのが常で、今回も「順位よりも、2チーム出場できたことが奇跡」との声がありました。おそらく全国的にも、単独の組織が、一つの駅伝に2チーム以上で参加を続けている事例は、そう多くはないと思います。

近年ブームのマラソンやロードレースには個人でも参加できますが、駅伝はチームがなければ、出たくても叶いません。さらに、人口減少が続く地域での、一般道を利用した大会の運営には、多くの関係者のご苦労と尽力があるのは間違いありません。「出場できる大会、参加できるチームがあることはありがたい。」こうした機会を作り、維持してくれた先輩方や地域の方々には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

メンバーがチームの一員として、適材適所の役割と責任を果たし、エースが実力を存分に発揮する。若手・中堅・ベテランが知恵と力を合わせて、各々がベストを尽くしていく。そうして初めてよい成果が生まれるのは、駅伝も我々コンサルタントの仕事も同じだ、と教えられてきました。

駅伝出場を続けることで、地域社会貢献の一翼を担うとともに、メンバーと一緒に、自律したプロフェッショナルを目指していきたいと思います。



38年間出場



新人からエースへ



35回連続のゴール



第70回佐北駅伝出場メンバー

# コロナ禍におけるイベントの開催

株式会社荒谷建設コンサルタント  
薦本 純也

## はじめに

当社では、社員同士の交流を深めることを目的とした40以上の同好会が親睦活動を行うとともに、事業所毎に定期的なイベントを開催しています。

今回は11月2日（水）に開催した本社一斉活動について、当社が実施したコロナ対策を含めて紹介させていただきます。

## コロナ禍での開催への決断からボウリング大会開催まで

本社一斉活動はコロナ禍が続いているため、2019年の活動を最後に中止されており、今年も新型コロナウイルス感染症拡大を懸念し活動の中止を検討していました。しかし、行政や自治体の新型コロナウイルス感染症に関する行動制限の緩和やイベントへの参加に前向きな方も増えているため、開催する方向で再度検討を行いました。検討の結果、活動するイベント会場の感染症予防対策と当社の感染症予防対策が十分に行われていれば、開催できると判断し、開催を決断しました。

活動内容が少人数且つ直接接触がなく、運動量の少ないイベントを検討した結果、これら3つに該当すると考えられるボウリングを選択しました。後日、ボウリング場へ感染症予防対策に関する問い合わせを行い、手指消毒用アルコールの設置、貸出用シューズの消毒等の感染症予防対策が十分であることが確認できたため、今年の本社一斉活動をボウリング大会に決定しました。その後、参加者を募集し、約70名が参加となりました。

## ボウリング大会の新型コロナウイルス感染症予防対策

当社が実施したボウリング大会時における感染症予防対策は次の通りです。

- ・マスクの着用
- ・大声での声援の禁止
- ・ハイタッチ等の直接接触するような行動の禁止
- ・レーン内での飲食の禁止
- ・1チームの人数を制限
- ・表彰式を後日に開催

参加者に対して、ボウリング大会時の感染症予防対策を事前にお知らせしました。しかし、ボウリング大会当日、盛り上がることで感染症予防対策が疎かになる可能性もあるため、会場で再度アナウンスしました。

過去に行ったボウリング大会では、ゲーム終了後、別室に集まり表彰式を行っていましたが密状態になることから、後日対象者だけで表彰式を執り行いました。

これらのように、新型コロナウイルス感染症予防対策の案内や活動の開催方法を変えることで、参加者が安心してボウリングが行えるように取り組みました。

良いスコアが出ると興奮して、ハイタッチをしそうになる場面もありましたが、ハイタッチをしなくても、喜びをマスク越しの笑顔で共有していたため、感染症予防対策は十分に行えていたと考えられます。運営側からの感染症予防対策の取り組みに対する社員の意識の高さを感じられました。

## ボウリング大会の様様

今回の活動は、コロナ禍での開催だったため、制限のある中でも参加者が楽しめることと、次回も開催して欲しいと思っていただけることを念頭に準備を進めました。

ボウリング大会当日は運営メンバー一同被り物（少し早めのクリスマスの衣装）をして参加者の方を迎え、和みやすい雰囲気ですぐに親睦活動が行えるように取り組みました。

各チームの編成は、普段交流のない方、部門の異なる方と親睦が深まるようなチーム編成にしました。ゲーム序盤、会話は多くありませんでしたが、ゲームが進むにつれて会話も増え、参加者はゲームを楽しんでいる様子でした。

加えて、ボウリング以外でも楽しめる要素を作りたいと思い、レーン毎で参加者が被り物をした写真撮影や罰ゲームをし、大いに盛り上がりました。

## 終わりに

この度の本社一斉活動は、過去にはなかった制限のあるイベントでした。しかし、制限がある中でも、大人数で楽しむことができたイベントとなり、来年の開催に繋がるようなイベントとなりました。



被り物をしての受付



レーン毎で撮影  
※撮影時のみマスクを取っています。



罰ゲーム



ゲーム中



表彰式  
個人優勝の景品は、アラジンのトースターでした。



## 海外の仕事をしてみて

株式会社ウエスコ  
海外事業推進室 渡辺 敏

### ■海外業務を始めた

「海外で仕事したいですか？」と全社員にアンケートをしたら、約2割の社員が「してみたい」と回答した。そんな後押しもあってそのための準備をしてきた。情報収集、社内の英語教室、人材選定、社外連携、プロポ応募、外国人受け入れなど。そしてようやく今海外で業務をする機会を得た。社内では技術職に限らず、営業や経理、法務等複数の社員が関わっている。それぞれに明確な役割もあってなかなか人任せにはできない。慣れないことの連続で大変だけど、現場は新鮮な気持ちで満ち溢れている。

### ■やってみてわかる

今更ではあるが市場も人材も国内だけでなく国際的に展開していく必要性を感じる。弊社も利益の上積み、企業価値、新たな市場開拓や事業領域の多様化、それに社員の成長、マインドアップ等を目的にしていたが、実際に始めてみて初めて、その多岐にわたるメリットを実感している。今最も良かったと思うのは、国内業務では会えない様々な人との出会いによる自身の

成長である。周囲の支援なしに新しい挑戦の成功はない。長期にわたって信頼できる関係を国内外で築いていくことの重要性を感じている。

### ■若い社員の意識

先日社内でオンライン任意参加の海外業務進捗報告会を行ったが、参加した若手からは、楽しそう、続けてほしい、自分も参加したいけど本気でないと通用しないし勇気がいる等の感想を得た。

日本で働く若者の海外への関心は高まる一方であるが、内閣府の調査<sup>1)</sup>によれば、今の職場への満足度、意欲的に取り組む意識、自分の将来への希望を持っている割合は諸外国の若者と比べて低いとされる。今回ベトナムとフィリピンの業務には30歳前後の若手もアサインしたが、彼らはこれまでも増してやる気にみなぎっている。私への圧も強くなり、踏ん張っていらぬ前に前のめりにさせられる。頼もしい限りと言っておこう。

参考資料1) 内閣府：平成26年版子ども・若者白書



現地カウンターパートとの会議



夕食では調査団で情報交換



現場で方針決定すべきことは少なくない



現地課題の調査

## 自己紹介と入社感想



株式会社 福山コンサルタント

インフラマネジメント事業部 建設・保全中四国グループ 欧 静寧

令和4年4月に株式会社福山コンサルタントに入社し、建設・保全中四国グループに配属となった欧と申します。故郷は中国の福建省で、2017年留学に来日して、あっという間に6年も経ちました。今年、日本に就職することができて、お世話になった方々に心から感謝申し上げます。これから、日々の業務を通じて、信頼に応える土木技術者を目指して努力していきたいと思えます。

広島支社の道路設計グループにきてから半年が過ぎました。主に路線検討、交差点設計、交差点解析等の業務に携わっています。今まで学んだものとは違いますが、道路設計の面白さを感じています。また、コロナ禍が続いている厳しい

状況ですが、現地踏査に行き、デスクワークだけでは得られない学びを経験させて頂いております。道路の現状を自分の目で確認しながら、最適な提案に必要な考え方などを丁寧に指導して下さる先輩方のおかげで、少しずつではありますが、業務の流れ、専門知識や技術について理解できてきたようになりました。

コロナ禍で、他の部署の方や他社の方、皆さんと交流する機会がなかなかありませんのは少し残念だと思いますが、将来、皆さんとの交流機会が増えると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



## 入社して感じたこと



株式会社 福山コンサルタント

中四国支社 地域・交通計画グループ 吉田 健人

令和4年春に株式会社福山コンサルタントに入社しました吉田と申します。

地域・交通計画グループに配属され、現在は中国地方の都市計画に関わる業務に携わっております。兵庫県姫路市出身で、学部時代は四国・徳島にいたせいか、瀬戸内で自然豊かな広島は初めて来た場所ではないように感じます。

本年3月までは、明治大学農学研究科にて地方創生に関わる研究を行っておりました。コロナ禍の中での大学院生活ということもあり、実地で調査する機会に恵まれなかったことから過疎化が先行する中国地方において地域に資する業務に携われることを嬉しく思います。

しかしながら、研究活動とは異なりビジネスとして調査業務を進めていく上で、お客様の要望を意識しながら現状の要因分析を進め分かりやすい報告を行う一連の作業は想像以上に大変でした。自らの能力不足に対し日々地道な努力の重要性を痛感しております。経験豊かな先輩方に囲まれながら丁寧な資料作りを心がけ、少しずつではありますがお客様に少しでも良いものを届けられるよう努力しております。

研究分野の関係から交通分野に関わる知識は薄いこともあり、先輩方のアドバイスをいただきながら一日でも早く一人前の技術者になれるよう精進して参ります。

# 入社して感じたこと

株式会社 荒谷建設コンサルタント  
河川部 河川・砂防設計課 石川 鷹



2022年4月に株式会社荒谷建設コンサルタントに入社し、河川部 河川・砂防設計課に配属となりました石川と申します。私は、形のある大きなものをつくりたい、人々の生活に貢献できるものをつくりたいと思っていました。そして大学生を送る中で平成30年7月豪雨を目にし、日本一土砂災害の多い広島県を中心として砂防の設計を行いたいと思い、今この地で砂防設計業務に携われていることを嬉しく思います。

砂防堰堤を計画する場所は斜面が急であり、溪床は転石や露岩などにより足場が悪く危険な箇所が多く存在します。また河川の現場では河川状況を把握するため、約10mの棒の先に360°カメラを取付け、撮影を行う機会があり海に近い現場であったため、強風により、棒があおら

れ倒れないように必死に抑えたという経験があります。そのため他の現場と比べてより詳細な危険予知が必要だと感じます。危険予知活動を行う際は場所や時間などで変わる要因など想像し、怪我をしないよう注意し自分だけでなく同行するすべての方が安全に作業を行えるよう周囲に気を配っていきたいです。

入社してから半年が経ち、できることが少しずつ増え自身の成長を実感することがありますが、まだまだできないこと、分からないことが大半です。現場に行く際には危険予知をすることに関しては上司の方々に負けないよう意識するとともに、できないこと、分からないことに関しては上司の方々から吸収し、その経験を生かして仕事ができるよう日々励んでいきたいです。

# 1年を振り返って

株式会社 荒谷建設コンサルタント  
水工部 都市流域設計課 藤田 琴好



令和4年4月に株式会社荒谷建設コンサルタントに入社しました藤田と申します。大学では農業土木工学を専攻しましたが、設計に関することを学んでいなかったため、入社前は自分に務まるか不安が大きかったです。

現在、私は水道の設計・計画に関する業務に携わっております。配属当初は基礎知識を身につけるために、本を読んだり専門用語を覚えたりしていました。設計はやはり想像以上に難しいことが多く勉強の日々ですが、上司や先輩方、同期に恵まれ、地道ではありますが自分に出来る業務が増えてきたことに喜びを感じています。特に現在一緒に仕事をしている上司の方々は、質問をすればかなりの私に毎回丁寧にご

指導してくださり、感謝の気持ちで一杯です。

コンサルタントの業務は設計だけに限らず、発注者との協議を重ねなければなりません。その際に用いる資料は“誰が見ても分かりやすい”ものを作成するよう心がけていますが、自分では理解していても上手に表現することは難しいです。先輩方の伝え方を参考に、説明力を身に付けていくことが今後の目標です。

入社してからの約1年間の経験と周囲の皆様の丁寧なご指導のお陰で、1年前不安だったことも今では不安に感じなくなりました。これからも積極的に実直な姿勢を大切に、一日でも早く一人前になれるよう努力していきます。

## 入社して感じたこと



中電技術コンサルタント株式会社  
広島支社 寺尾 陸

2022年度に中電技術コンサルタント株式会社に入社し、営業部広島支社に配属されました寺尾と申します。入社して早くも8か月が経ちました。入社当初、文系出身の私にとって、建設コンサルタントの世界は未知の領域であり、知識が何もなく、右も左もわからず、不安で余裕もありませんでした。しかし、最近は仕事に慣れ、徐々にですができることも増えてきました。どんなことでも語り合い、励まし合える同期や一つ一つ優しく丁寧に指導して下さる上司、先輩方のおかげで、少しずつ知識を蓄えながら、仕事に楽しさとやりがいを覚えています。

配属されてから今日まで、積算や資料作成、外回りなど営業事務に携わっております。担当エリアでの業務受注は大変励みになり、発注者や社内の方々に頼って頂けることが私のモチ

ベーションとなっています。しかしながら、協議に同席した際には、専門用語がわからず不甲斐なさを感じることも当然多いです。わからないことは調べ、質問し、全てを吸収していきけるよう、日々精進してまいります。

私生活では、サッカーを幼いころからしており、建設コンサルタントリーグでは今シーズン優勝を決め、自らもゴールで勝利に貢献でき、先日のフットサル大会でも二連覇、そしてMVPを頂きました。もともとのポジティブな性格を活かしながら、仕事でも自信をつけ、大きく成長していきたいと思えます。

将来は、皆さまから信頼してもらえる営業担当者になれるよう、主体的に取り組み挑戦する気持ちを大事にし、日々努力していきます。



## 入社して感じたこと



中電技術コンサルタント株式会社  
情報事業部 桐山 魁

2022年度、中電技術コンサルタントに入社した桐山と申します。出身は茨城県で、茨城工業高等専門学校に通いました。その後、所属していた研究室の先生に紹介され、山口大学大学院に進学しました。その大学院で共同研究という形で関わりのあった中電技術コンサルタントへ就職することとなりました。

大学院への進学が決まった際には、まったく知らない土地でどんな出会いがあるのだと心躍らせていましたが新型コロナウイルスが拡がりました。引っ越す前には、なんでも自粛!が前提となっており、入学してからも授業や研究室の活動はリモートで歓迎会などのイベントもなく、2年間はほとんど人のつながりができるところなく終わってしまいました。

社会人となってからは、自粛の流れも比較的落ち着き、寮に入ったこともありイベントに参加する機会が増えました。寮生活では同期や先

輩方とBBQをしたり、クラブ活動ではソフトボールやバレーボールで体を動かしたり、駅伝のメンバーに選ばれたりと横や縦のつながりが広がってきました。また、寮の先輩に瀬戸内海に釣りに連れて行ってもらったり、上司と山へ行きパラグライダーで空を飛んだり、牡蠣小屋で牡蠣を食べたり、茨城に住んでいた時にはできなかった新しい経験をしています。

仕事面では、情報事業部に所属し、今まで関東平野に住んでいた私にはあまり馴染みのなかった豪雨による土砂災害関係の防災システムに係る仕事をしています。茨城に住んでいた時は、災害と言えば地震だった為、わからないことや初めて知ることも多くありますが、日々、様々なことを吸収し努力しています。

これからも、プライベートと仕事どちらも積極的に新しいことに挑戦し、様々な経験を積んでいきたいと思えます。



## 幅広い知識を身につける

復建調査設計株式会社

沿岸・地震防災部 沿岸技術課 中尾 雪音



2022年4月に復建調査設計株式会社に入社し、沿岸技術課に配属となりました中尾と申します。現在、私は主に防波堤や護岸の設計業務に携わっております。入社する前は沿岸技術にあまり触れてこなかったため、ほぼゼロからのスタートでしたが、仕事をしていく中で基準図書を読んだり、課内での若手勉強会に参加したりと新しい知識がついていくのを感じながら楽しく働いております。これまでいくつかの業務に携わりましたが、沿岸部門の専門知識のみならず

土質や測量、環境など幅広い分野の知識が必要になることを実感しました。コンサルタントとして多様な角度から意見を出せるように広い知識を身に付けて精進していきたいです。

また、最近では業務の中でDXを活用しており、私も土量の算出や現地踏査で実際に用いましたが、効率的であり可能性が広がると感じました。今後、沿岸の部門でもDXが必要になることが増えると思うので、若手のうちから積極的に挑戦していきたいと思います。



## 入社して感じたこと

復建調査設計株式会社

DX推進センター ICT推進室 島津 尚弥



令和4年4月に復建調査設計株式会社に入社し、希望していたDX推進センターICT推進室に配属となりました。入社当初は新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いており、同期全員と対面での1か月間のDX研修を受けることができ、6月より所属へ配属となりました。配属されたICT推進室では、事業部が抱える業務遂行上の課題に対して、ICTを活用した生産性の向上支援や、最適なシーズの選定支援を主に担当しています。配属当初は社内の環境や仕事に慣れていないため、少し戸惑うこともありましたが、先輩社員の助けを借りながら、ようやく仕事にも慣れ始めたところです。

最近では、事業部の担当者はもちろんのこと、クライアントからも直接要望を聞き取る機

会も増え、コミュニケーションの難しさを痛感しています。私は大学で画像処理等のメディア工学に関連する技術等を学んでいたこともあり技術に関する知識は多少ある一方で、多岐に渡る建設コンサルタントの業務は十分に理解できていないと感じています。そのため、あまり自身の専門性に偏りすぎず、相手が理解しやすいように適切な表現や方法を選ぶ、さらには相手の言葉や言い回しにも配慮しながら、コミュニケーションを取ることが大切だと実感しています。

これから働いていく中で、コミュニケーション能力以外にも身に着けていかなければならないことが沢山あります。一人前の技術者となれるよう、日々の業務を主体的に取り組んでいこうと思います。

## 入社して感じたこと

復建調査設計株式会社

管理部 総務人事課 河野 駿太



2022年4月に復建調査設計株式会社に入社し、管理部総務人事課に配属された河野駿太と申します。現在、私は主に勤怠管理や採用活動、保険の申請など幅広く種々の業務を行っています。

配属された総務人事課については、仕事内容に関して大まかなイメージはつくものの具体的に何をしている部署なのか初めはわかりませんでした。配属当初は、簡単な仕事からスタートしていきましたが、その都度出てくる専門用語や業務の幅広さから、仕事を覚えることに精いっぱいの日々が続きました。そのような中で、

所属の上司や先輩方が丁寧に仕事を教えてくださり、また、気にかけていただき、徐々に仕事も覚えることができ、職場にも慣れていくことができました。上司や先輩方には大変感謝しております。

配属から半年以上が経ちましたが、私が覚えた総務人事課の仕事はほんの一部で、まだまだ覚えるべき仕事はたくさんあります。これからも日々勉強すること、努力することを忘れず、業務に真摯に取り組み仕事を覚えていくことで、所属の一員として活躍できるように精進してまいります。



## 振り返りと今後の目標

株式会社 長大

社会基盤事業本部 第2計画事業部 第4計画部 村上 悠斗



令和4年4月に株式会社長大に入社しました村上と申します。

入社後は主に交通計画に関する業務に携わってきております。配属直後は右も左も分からず、期待と少しの不安を抱えていました。実際には先輩方が業務の目的、スケジュール感などを丁寧にご教授して下さったことで「今の作業内容は何のためにやっているんだ？」と疑問に感じることなく取り組めており、業務の全体像を理解できるようになりつつあります。現在では先輩方からのご指示に対し、それらを自身で考えることで「与えられた作業」にならな

いように取り組むことを意識しています。

入社時と比較して、データ分析や資料作成等できることが増え、少しでも成長を実感しています。これもひとえに先輩方のお力添えのおかげと感謝しております。そして道路交通課題の解決を担う土木技術者となれるよう今後は「積極性」「検討する力」「説明する力」の3つを伸ばしていくことを目標とします。

業務だけにとどまらず、建コン等の様々な活動に積極的に関わっていき、多様なつながりや視点を得たいと思っております。よろしくお願いいたします。

# 入社1年目を振り返って



株式会社 長大

社会創成事業本部 環境事業部 竹内彩結実

今年度、株式会社長大に入社いたしました竹内と申します。入社してから早くも9ヶ月が経過し、広島での一人暮らし、社会人生活にも慣れてきました。

現在、私は道路事業における自然環境調査や環境保全業務に携わっております。まだまだわからないことが多く勉強の毎日ですが、先輩方にサポートして頂き、業務に励むことができ

おります。これから繁忙期に入り、学ぶチャンスも多くなると思います。一つ一つの仕事を着実にこなし、一生懸命に取り組んでいく所存です。

最後に、コンサルタントは現場とデスクワークの両方を経験することができ、忙しくも飽きることのない仕事だと感じています。今後、社内・社外から自分に仕事を依頼してもらえような技術者になるため、日々精進します。



# 入社して感じたこと



株式会社 長大

構造事業本部 第2 構造事業部

広島・高松構造技術部 1課(広島) 宇野 将平

2022年4月に株式会社長大に入社いたしました宇野と申します。橋梁に携わる仕事がしたいという希望通りに、構造事業部に配属されました。

現在は主に橋梁予備設計に携わっています。橋梁予備設計は、架橋地の災害リスクや橋梁との交差物件の確認など、橋梁の構造検討以前のことから橋梁形式の選定まで学べるので、新入社員としてとてもやりがいのある仕事を任されていると感じます。

仕事では、様々な場面で未熟さを感じます。特に会議で先輩方が丁寧に説明している時に、ゆくゆくはこのように上手く話すことができるのだろうかと思然と不安になることがあります。

設計コンサルタントとしては、正しく橋梁設計することも大切ではありますが、本質は正確にコミュニケーションすることであり、その部分の成長が必須であると感じます。業務に対して適切な説明ができるのは、知識と経験の蓄積の賜物であるので、このような不安を解消するには仕事に対して努力をする他ないと感じます。

今はまだ社会人1年目であるので、コミュニケーション力など仕事に関して不安に感じることもあります。今はとにかく仕事に対して積極的に取り組み、知識と経験を蓄えていきたいと思っています。

# 「事業推進」のできる社員を目指して



株式会社 エイト日本技術開発  
松江支店 事業推進室 藤本 雄太

2022年4月に入社致しました、エイト日本技術開発松江支店事業推進室の藤本雄太と申します。大学時代は自転車を用了津波避難について研究していました。防災について学んでいたこと、また、普段から旅行が好きなことから公共インフラに興味を持ち、この業界を志望致しました。

現在は支店にて、応札前後の業務の流れや書類作成、積算などを学んでいます。事業推進（営業）は、1つの技術分野ではなく、多くの分野に触れる機会があります。入社して半年ですが協議参加や現場同行等を通じ、道路、橋

梁、トンネル、河川、港湾...他多くの分野の存在を知りました。

私には目標があります。それは、日本の今の暮らしを『より安全に、より便利に』次世代へと引き継ぐことです。そのような「事業推進」をするために必要なのは技術の知識だと考えます。今の日本のインフラはどのようになっているのか？これからどのようにご提案すれば『より安全に、より便利に』なっていくのか？このような疑問を持ちながら研鑽を積むことができればと思います。



## 入社のきっかけ



株式会社 エイト日本技術開発  
中国支社 都市環境・資源・マネジメント部 榎尾 果歩

令和4年4月に株式会社エイト日本技術開発に入社しました榎尾と申します。配属先では主に都市計画の業務に携わっています。

私は、就職活動中に当社のインターンシップに参加し、都市環境グループにて1週間の業務体験を行いました。インターンシップは、既に完了している業務について課題を与えられ、自分なりの検討後に実際の業務実績を紹介していただき、答え合わせをするという流れで進みました。その中で、業務の流れやこれまでに実施した幅広い分野の業務の紹介を受け、建設コンサルタントについての理解を深めることができました。当初、都市環境グループと聞いて都市の計画・設計の業務をイメージしていましたが、防災関連や交通関連などの様々な業務を扱っていることを知り、大学院で交通計画の研究を行っていた自身の知識や経験を活かすことがで

きるのではないかと考え、就職先として希望するようになりました。

入社後は幸運なことにインターンシップの受け入れ先であった中国支社に配属され、部署の方々に温かく迎え入れていただきました。当時、自身の専攻や研究の内容についてお話したことを覚えていてくださり、配属後は交通関係の業務を中心に携わらせていただいております。会社について知ることができ、私についても知っていただくことのできたインターンシップは非常に有意義な体験であり、参加して良かったと今も強く感じています。

入社から早くも8か月程経過しましたが、まだまだ知識も技術力も足りず、日々勉強の毎日です。1日も早く一人前の技術者となり、戦力となれるよう日々精進していきたいと思っております。

## 入社して感じたこと



株式会社 ウエスコ  
生活デザイン部 下水道課 岡田 将範

令和4年4月に株式会社ウエスコに入社した岡田と申します。配属先では下水道施設に関する耐震や防食、補修等の業務に取り組んでおります。

大学では土木分野の学科に所属しており、都市計画や交通計画の分野を主に研究しておりました。私がウエスコに入社した理由は、総合建設コンサルタントとして様々な分野の仕事をしており、そして、ウエスコで働いている方々の人柄に惹かれたからです。

私が所属する下水道課の仕事は、大学時代の研究内容と一切関わりのない分野でした。入社してすぐは、業務の技術的な部分において、と

ても新鮮な気持ち、そして、経験がないことへの不安を抱えていました。しかし、同じ課の上司や先輩方は、無知な私にも根気強く一から指導して下さい、不安な気持ちは日々薄れております。入社してもうすぐ1年が過ぎ去ろうとしますが、微力ながら上司や先輩方の力になりたいと強く感じております。

今後も知識のない設計や技術、経験のない業務に取り組む機会が多いと思います。きっと、自分が先輩となり誰かに教える立場になることでしょう。そのために、一人前の技術者と上司から認めてもらえるよう、日々精進し成長していきたいです。



## 技術者として活躍するために



株式会社 ウエスコ  
社会基盤デザイン部 設計課 渡邊 友泰

令和4年4月に株式会社ウエスコに入社致しました渡邊と申します。私は現在、道路や付帯構造物等の設計業務に携わっています。学生時代は、道路そのものに目を向けることは少なく、入社後は基準や用語を覚えることから始まりました。基準書やマニュアルを丁寧に読むと、普段利用してきた道路が、如何に合理的に利用者の安全性と利便性を考慮されているのかが理解でき、その奥深さに業務への興味と楽しさを感じました。

私が今でも日々、楽しさを感じて勤務することができているのは、年代や立場にかかわらず、様々な挑戦の機会を得られる社風と、興味や主張に対して丁寧に耳を傾けてくださる、先輩方・上長方のご寛大さによるものと感じています。調査用ソフトの推進や企業の広報、課内の関心のある業務への参加など、新たな挑戦により充実した日々を過ごすことができています。

今後も、通常の業務に力を入れるのはもちろんのこと、興味や楽しみという感情を糧に様々な挑戦を続け、経験を得ていきます。

設計業務を始めてから、道路について思いを馳せるようになりました。大昔から存在する「道」ですが、その在り方は時代によって変化しています。安全性と利便性を確保される道路であることはもちろんのこと、コンパクトプラスネットワークの構想の下、自転車等の軽車両の移動も十分に考慮されるようになりました。街中では主役が自動車から人に移り、地域の魅力や賑わいを引き出す公共空間としても見直されています。私たちがこれから過ごす将来も、道路の役割はより多様なものとなるように感じます。

時代や場所とともに変化する道路や、人を支える様々な構造物を、有用で価値のあるものとして計画できる技術者になることが目標です。



## ご挨拶

西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社  
代表取締役 北村 弘和

令和3年7月より西日本高速道路エンジニアリング中国(株)の代表取締役社長に就任しました北村でございます。

弊社は、高速道路のエンジニアリング部門(調査計画・設計施工管理・点検等)と道路関係のコンサルタント業務を行っております。コンサルタント会社の皆様や機械器具メーカー様には、日頃より業務実施に際してご支援ご協力を賜っておりますこと、心より御礼申し上げます。

私は、昭和58年に日本道路公団(現 NEXCO西日本)に入社しまして、広島道・山陽道(広島～廿日市)の建設に従事し、その後は東京本

社及び東北から四国的高速道路の計画・建設・管理を行なってきました。道路公団分割民営化によりNEXCO西日本となってからは、大阪本社の経営企画部に調査役から部長まで9年勤務した後、28年ぶりに広島へNEXCO西日本中国支社長として赴任し、NEXCO西日本常務取締役を経て、今回3度目の広島勤務となりました。

建設コンサルタンツ協会中国支部の会員として、社業とともに協会の活動に鋭意努力し、皆さまと一緒に中国地方の道路整備および地域の発展のため、尽力して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。



## 着任のご挨拶

株式会社 建設技術研究所  
中国支社長 小 瀧 訓 一

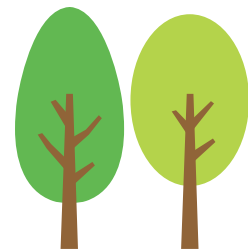
このたび、前任の三砂利明の後を継いで、中国支社長を仰せつかりました。

平成2年に株式会社建設技術研究所に入社し、主に河川計画業務に携わってきました。平成23年～平成29年まで河川計画部門の部長を務め、平成30年から大阪本社営業部長を拝命し、昨年より中国支社長を兼務しております。

我が国では、新しい資本主義社会の実現に向けて、「成長と分配の好循環」を目指し、その一環として国土交通省では「総合評価落札方式における賃上げを実施する企業に対する加点措置」を運用しています。我々建設コンサルタントは、単に職員の賃金アップを喜ぶだけでなく、品質の高い成果を納めることにより、「安

全で利便性の高い国土の形成」に貢献していく義務があると考えます。「安全で利便性の高い国土の形成」により、我が国の国力は増大し、企業の投資意欲の拡大につながり、社会経済の成長と税収のアップにつながることで新たなインフラ投資が生まれ、国力増大と企業の収益性が向上していく「大きな好循環」が実現すると考えます。

私はこれまで、建設コンサルタンツ協会活動に関わることはありませんでしたが、これからは、微力ながら建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えています。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。





## ご挨拶

株式会社 福山コンサルタント  
中四国支社長 小 笹 俊 成

このたび、前任の樋野光宏の後を継いで、株式会社福山コンサルタント 中四国支社長を仰せつかりました。

出身は島根県益田市です。益田高校から広島大学を経て、福山コンサルタント西日本事業部に入社して26年間、大学時代から数えると32年間、広島に在住しています。入社以来、道路計画・交通計画の部署に所属し、交通需要予測やパーソントリップ調査、都市交通マスタープラン、道路網計画、道路事業評価などに携わってきました。

近年、我々建設コンサルタント業界は大きな過渡期を迎えていると思います。3年前に始まった新型コロナウイルス感染症の流行はテレワーク導入等の働き方を革新・加速、ICT等の

科学技術の著しい進歩は国及び地方行政のIT化・DXを推進し、地図等の基盤情報のデジタル化に伴う3次元設計のBIM/CIMを進展、またインフラ施設・消費者行動のデジタル化はまちづくり等の各種インフラ計画においてIT業界等の多業種との協働化をもたらしています。我々業界の垣根が低くなり、他業種からの参入、他業種への人員流出など、業界の継続的な発展を実現するためには今まで以上に技術革新・高度化、人材獲得・育成等が大事と考えています。

私はこれまで、建コンの活動に関わることがほとんどありませんでしたが、これから建設コンサルタント業界の発展にお役に立ちたいと考えていますので、今後ともご指導・ご支援のほどよろしくお願いいたします。



## 新任ご挨拶

株式会社 ウエスコ  
代表取締役社長 北 村 彰 秀

このたび、前任の松原利直の後を継いで、中国支部理事を仰せつかりました。出身は兵庫県北部の豊岡市で、子どもの頃からスキーを楽しみ、学生時代はスキー部に所属していました。スキーは未だ現役です。仕事面では技術屋として主に道路計画、設計を担当してきましたが、今の立場となり実務に触れる機会が減り、少し寂しく感じています。

さて近年、我々、建設コンサルタントを取り

巻く環境は大きく変わり、多くの課題があります。その中でも担い手の確保・育成、働き方改革、生産性の向上、さらには、DX、グリーンインフラなど新しいニーズへの挑戦などは業界全体で対応する必要があると感じています。建コン支部活動を通じてお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。





## 新任のご挨拶

パシフィックコンサルタンツ株式会社  
中国支社長 木村 誠

令和4年10月1日付でパシフィックコンサルタンツ株式会社中国支社長に就任しました木村と申します。前任者よりJCCA中国支部理事を引き継ぎました。

出身は東北地方で、これまで、主に交通政策分野に従事し、交通需要予測、交通網計画、経済効果分析、事業評価、運輸部門における温暖化対策等の業務に携わってきました。入社後のほとんどの期間を東北地方で過ごして参りましたが、全国各地の業務に携われる機会に恵まれ、ここ中国地方でも幾つかの業務に携わらせて頂きました。2011年の東日本大震災を現地で体験し、震災復興事業等を通じた被災地の復興支援にも取り組んで参りました。

昨年夏、高校野球甲子園大会で宮城県の仙台育英学園高等学校が優勝し、深紅の大優勝旗が初めて“白河の関”を超えたと話題になりましたが、これとは逆に、“白河の関”を大きく飛び越えて広島にやってきました。中国地方で生活するのは初めてになりますが、中国地方も東北地方も類似点が多く、親しみを感じています。

これまで、建設コンサルタンツ協会の活動にはあまり関与出来ておりませんが、今後は中国支部理事として、これまでの経験も活かしながらJCCAの発展に少しでもお役に立てればと考えていますので、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



## 新任のご挨拶

株式会社 荒谷建設コンサルタント  
下山 勉

このたび、前任の安田業務部会委員の後任として着任いたしました榎荒谷建設コンサルタントの下山です。入社以来早40年余りとなりますが、建コンの活動につきましては、2012年に鳥取県委員会へ参加させていただき、2018年からは鳥取県委員長として独自のBIM/CIM勉強会や鳥取県との意見交換会等に取り組んで参

りました。そして今年度は中国支部の業務部会業務委員をさせていただくこととなり、改めて自分自身で何が出来るかを考えながら取り組ませていただいております。微力ではありますが建設コンサルタンツ協会の発展に少しでもお役に立ちたいと考えておりますので、どうぞご支援のほどよろしくお願いたします。



## 新任ご挨拶

中電技術コンサルタント株式会社  
佐伯隆之

このたび、前任の蔦川委員の後を継いで、業務部会委員を仰せつかりました。

広島で高校まで過ごしたのち、県外の大学を経て中電技術コンサルタント株式会社に入社しました。入社後は下水道設計、敷地造成設計、基礎設計などに携わり、昨年度より営業職に従事しております。

建コン活動につきましては、数年前に地域計

画委員会に参加したことがあり、また昨年度から業務部会にオブザーバーとして参加させていただいております。今年度から本格的に建コン活動に参加させていただくこととなりますので、これまで以上にお役に立てるよう尽力していきたいと考えております。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



## ご挨拶

株式会社 長大  
広島支社 大塚真弘

この度、前任の香川の後を継いで、中国支部総務部会委員を仰せつかりました大塚と申します。芝浦工業大学を卒業後、東京でのデベロッパーを皮切りに幾つかの建設に係る会社を経て、長大に入社しました。入社後は四国で約10年間営業に従事し、本年10月に広島へ異動となりました。中国地方での勤務は初めてとなりますが、この二ヶ月で人情味の厚い地域だと

感じております。

四国においては、建コン協会の活動に関わることがほとんどありませんでした。これからは支部活動への参加を通じ、また、ご指導賜りながら、建設コンサルタンツ協会の発展のお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いたします。



## 新任の御挨拶

株式会社 建設技術研究所  
中国支社 総務・営業部 部長代理 端 健 司

このたび、前任の三砂利明総務部会委員の後を引き継ぎ、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。

株式会社建設技術研究所には平成2年(1990年)に入社して以来32年間にわたり、営業職に携わってきました。入社後、平成10年(1997年)まで大阪で勤務し、平成14年(2002年)までの3年半を東京で勤務しました。中国支社(広島)には令和2年(2020年)より着任して

おります。

建設コンサルタンツ協会活動としましては、大阪在任時に「厚生委員」、「業務部会委員」を経験させて頂いておりますが、新たな気持ちで支部活動や定例業務部会などを通じて、建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



## 新任ご挨拶

株式会社 長大  
栢 裕一郎

このたび、厚生部会委員を仰せつかりました、株式会社長大の栢裕一郎と申します。

建設コンサルタント業界に入り約10年となります。山口県が本社の会社を経て現在は株式会社長大に籍を置いております。建設コンサルタントに求められる役割がこれからも変化していく中で、顧客ニーズに答えられるように、企業はもちろんのこと、私自身も努力していかな

ければならないと考えています。

私はこれまで、協会の活動に関わることがほとんどありませんでしたが、これからは建設コンサルタンツ協会の支部活動や委員会などを通じて、微力ではございますがお役に立ちたいと考えております。ご指導、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

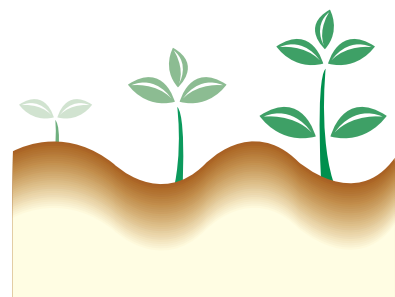
## ■ 支部日誌（令和4年4月～5年3月）

- 4月 6日（水）第1回道路委員会
- 4月12日（火）令和3年度中国支部監査
- 4月18日（月）土木技術者育成会議
- 4月20日（水）第1回地域計画委員会
- 4月25日（月）第4回吉井川総合水防演習運営会議
- 4月26日（火）第52回定時総会
- 4月27日（水）第1回防災委員会
- 5月11日（水）第2回道路委員会
- 5月17日（火）研修講師派遣（広島県）「中級Ⅱ講座（設計技術）」
- 5月18日（水）第2回地域計画委員会
- 5月20日（金）防災教育 井口台小学校
- 5月20日（金）第1回構造委員会
- 5月21日（土）令和4年度吉井川総合水防演習・・・延期
- 5月30日（月）まちづくり出前講座 三篠小学校
- 6月 1日（水）第1回業務部会
- 6月 1日（水）第3回道路委員会
- 6月 7日（火）第1回港湾委員会
- 6月 8日（水）第1回技術部会・技術委員長合同会議
- 6月 9日（木）研修講師派遣（広島県）「中級Ⅱ講座（設計技術）」
- 6月 9日（木）防災教育 白木中学校
- 6月13日（月）まちづくり出前講座 三篠小学校
- 6月15日（水）第3回地域計画委員会
- 6月20日（月）研修講師派遣（広島市）「アスファルト舗装」
- 6月21日（火）研修講師派遣（広島市）「構造物設計」
- 6月22日（水）第1回総務部会・県委員長合同会議
- 6月22日（水）第26回若手の会
- 6月29日（水）第1回建設副産物対策連絡会
- 6月30日（木）防災教育 日浦中学校
- 7月 4日（月）～8日（金）  
研修講師派遣（中国地方整備局）「基礎技術Ⅰ」
- 7月 5日（火）業界説明会 呉工業高等専門学校
- 7月 6日（水）第4回道路委員会
- 7月 6日（水）第1回河川委員会
- 7月11日（月）第1回役員会
- 7月19日（火）第2回防災委員会
- 7月20日（水）第4回地域計画委員会
- 7月20日（水）第1回港湾若手の会
- 7月20日（水）業界説明会 鳥取県立鳥取工業高校
- 7月21日（木）国土交通功労者表彰式

- 7月21日(木)～23日(土) WILLSUMMIT参加
- 7月24日(日) 令和4年度グリーン太田川
- 7月27日(水) 第27回若手の会
- 8月 1日(月) 中国ブロック意見交換会
- 8月 3日(水) 第5回道路委員会
- 8月 3日(水) 第1回WEB防災講演会
- 8月 3日(水) 第1回厚生部会
- 8月 3日(水) 研修講師派遣(中国地方整備局)「基礎技術Ⅱ」
- 8月10日(水) 第2回河川委員会
- 8月24日(水) 第5回地域計画委員会
- 8月25日(木) 生産性向上チームリーダーミーティング(若手の会)
- 8月29日(月) 第1回ICT委員会
- 8月31日(水) 現場見学会(技術部会)
- 9月 1日(水) 令和4年度災害時対応演習
- 9月 1日(木)～10月31日(月) RCCM資格試験
- 9月 2日(金) 防災教育 阿賀中学校
- 9月 2日(金) 業界PRチームリーダーミーティング(若手の会)
- 9月 6日(火)～8日(木)  
研修講師派遣(中国地方整備局)「構造物設計Ⅱ」
- 9月 6日(火) 第2回厚生部会
- 9月 7日(水) 第3回河川委員会
- 9月 7日(水) 第6回道路委員会
- 9月 8日(木) 第2回港湾委員会
- 9月12日(月) 第2回業務部会
- 9月13日(火)～16日(金) メターバース体験会(若手の会)
- 9月15日(木)～16日(金) CIMハンズオン講習会
- 9月16日(金) 防災教育 梅林小学校
- 9月21日(水) 第6回地域計画委員会
- 9月27日(火) 第3回防災委員会
- 9月28日(水) 令和4年度マネジメントセミナー
- 9月30日(金) 第28回若手の会と厚生部会意見交換会
- 9月30日(金) 第2回港湾若手の会
- 9月30日(金) 鳥取県委員会 BIM/CIM勉強会
- 9月30日(金) 第2回構造委員会
- 10月 4日(火)～5日(水)  
研修講師派遣(岡山県建設技術センター)  
「コンクリート構造物の点検・診断・補修(上級)」
- 10月 5日(水) 第4回河川委員会
- 10月 5日(水) 第7回道路委員会
- 10月 6日(木) 研修講師派遣(中国地方整備局)「橋梁管理実務者Ⅱ」
- 10月12日(水) まちづくり出前授業 広島工業大学

- 10月13日(木)～14日(金)  
建設技術フォーラム2022inちゅうごく
- 10月17日(月) 第2回 ICT委員会
- 10月17日(月)～21日(金)  
研修講師派遣 (中国地方整備局)「構造物設計Ⅰ」
- 10月18日(火) 広島高速道路公社との意見交換会
- 10月19日(水) 第7回地域計画委員会
- 10月20日(木) 経営分析説明会
- 10月21日(金) 第3回港湾委員会
- 10月21日(金)～30日(日)  
品質セミナー “品質の確保・向上に向けて”
- 10月27日(木) GIS講習会
- 10月27日(木) JCCA中国第1回編集委員会
- 11月 1日(火) 鳥取県との意見交換会
- 11月 2日(水) 第57回ゴルフ大会
- 11月 2日(水) 第8回道路委員会
- 11月 7日(月) 広島県との意見交換会
- 11月 9日(水) 第5回河川委員会
- 11月 9日(水) 第29回若手の会
- 11月10日(木) 第2回建設副産物対策連絡会
- 11月11日(金) 第3回港湾若手の会
- 11月12日(土) 防災教育 岡山市中区操山公民館
- 11月13日(日) 第12回フットサル大会
- 11月16日(水) 第8回地域計画委員会
- 11月16日(水) 業界説明会 徳山工業高等専門学校
- 11月21日(月) 中国地方整備局との意見交換会
- 11月22日(火) 研修講師派遣 (岡山県建設技術センター)「会計検査指摘事項の検証」
- 11月24日(木)～25日(金)  
建コン若手の会(本部・支部交流会)
- 11月25日(金) 現場見学会(防災委員会)
- 11月29日(火) 広島市との意見交換会
- 11月30日(水) 全国事務局長会議
- 11月30日(水) ICTセミナー
- 12月 1日(木)～18日(日)  
広島都心地下街における五感調査
- 12月 2日(金) 第3回構造委員会
- 12月 2日(金) 業界説明会 松江工業高等専門学校
- 12月 5日(月) 業界説明会 鳥取大学
- 12月 6日(火) 中国地方シンポジウム
- 12月 7日(水) 第9回道路委員会
- 12月 7日(水) 業界説明会 島根大学
- 12月 9日(金) 西日本4支部連携合同提言公開シンポジウム

- 
- 12月 9日 (金) 第55回ボウリング大会
  - 12月10日 (土) 防災教育 岡山市北区御南西公民館
  - 12月13日 (火) 第4回港湾若手の会
  - 12月13日 (火) 技術交流会 (港湾委員会)
  - 12月15日 (木) 現場見学会 (港湾委員会)
  - 12月15日 (木) 第3回ICT委員会
  - 12月17日 (金) 第4回防災委員会
  - 12月20日 (火) 第2回総務部会
  - 12月22日 (木) 岡山県との意見交換会
  - 12月23日 (金) 第6回河川委員会 整備局と河川委員会交流会
  - 1月 4日 (水) 官民合同新年互例会
  - 1月14日 (土) 防災教育 岡山市南区灘崎公民館
  - 1月18日 (水) 第3回業務部会
  - 1月21日 (土) 防災教育 岡山市東区瀬戸公民館
  - 1月23日 (月) ~ 2月3日 (金) PC技術講習会
  - 1月24日 (火) 第2回役員会
  - 2月 1日 (水) 研修講師派遣 (広島市) 「CIM」
  - 2月 3日 (金) 第2回WEB防災講演会
  - 2月27日 (月) 本部・支部意見交換会
  - 3月下旬 JCCA中国Vol.51発刊



---

## ■ 事務局からのお知らせ

### ●JCCA中国会誌のホームページへ掲載について

この中国支部の広報誌は、JCCA vol.38の発行から中国支部ホームページにPDF版にて掲載していますのでご利用ください。

<http://jcca-cg.jp/>

### ●JCCA中国へのご寄稿依頼

中国支部の広報誌JCCA中国は、年1回発行しています。

会員の皆様のグループ活動、読者のコーナー、連載寄稿等の自由なご寄稿を頂きますようお願いしています。

ご寄稿頂きますと心ばかりのお礼をさせていただきます。





## ■ 編集後記

新型コロナウイルスによる国内感染が始まって、3年が経とうとしています。2021年までは、緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が頻繁に発出され、行動制限が行われていましたが、2022年になると、感染者数はそれまでを大きく上回る波が襲来したものの、ワクチンの接種も進み、重症化率が低いこともあって、大きな行動制限も行われないうちに1年が過ぎました。この間、テレワークやWEB会議が普通のこととなるなど、我々の働き方も大きく変化しました。コロナ後の働き方にも大きな影響を与えそうです。

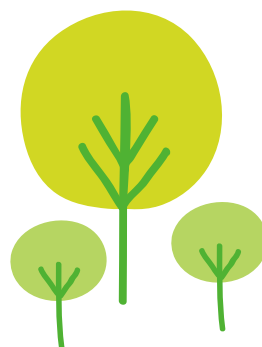
2022年も3月の福島県沖地震、7月から8月にかけての豪雨災害など、日本の各地で自然災害

が発生しました。国が進めている防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策によって、自然災害から命を守る取り組みが進んでいます。我々も、国民の安全安心な生活を続けるために貢献していきたいと思います。

2023年は広島でG7が開催されます。世界の首脳が初めて原子爆弾が投下された広島で何を感じ、何を決断していただけるか、大きな成果がでることを期待しています。

JCCA中国に寄稿、投稿していただいた皆様、ありがとうございました。来年もより良い紙面となるよう努力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(N. K)



■「JCCA中国」の編集は次の者が担当しております。  
今後とも皆様のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

来山尚義 (復建調査設計株式会社)  
小笹俊成 (株式会社福山コンサルタント)  
檜崎拓也 (株式会社エイト日本技術開発)  
大下倫明 (株式会社荒谷建設コンサルタント)  
仲井貴義 (株式会社ウエスコ)  
大場健太郎 (中電技術コンサルタント株式会社)  
下紺裕人 (復建調査設計株式会社)  
中村正和 (八千代エンジニアリング株式会社)  
石田勝己 (建設コンサルタンツ協会中国支部)

## 「JCCA中国」に対する照会は事務局へ

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会  
中国支部事務局  
「JCCA中国」編集グループ  
〒730-0013  
広島市中区八丁堀1番8号  
エイトビル8F  
TEL (082) 227-1593  
FAX (082) 227-4940  
E-mail cg-jcca@sage.ocn.ne.jp

R5. 3 発行

# 一般社団法人建設コンサルタンツ協会倫理綱領

会員は、社会のニーズに応じて、技術に関する知識と経験を駆使し、社会の健全な発展に寄与する建設コンサルタントの使命と職責を自覚し、信義に基づき誠実に職務の遂行に努め、職業上の地位及び社会的評価の向上を図らなければならない。

そのため次の事項を遵守するものとする。

## 1. 品位の保持

会員は、常に建設コンサルタントとしての品位の保持に努めるものとするとともに、会員相互の名誉を重んじなければならない。

## 2. 専門技術の権威保持

会員は、常に幅広い知識の吸収と技術の向上に努め、依頼者の良き技術的パートナーとして、技術的確信のもとに業務にあたらなければならない。

## 3. 中立・独立性の堅持

会員は、建設コンサルタントを専業とし、建設業者又は建設業に関係ある製造業者等と、建設コンサルタントとしての中立・独立性を害するような利害関係をもってはならない。また、依頼者の支払う報酬以外いかなる利益をも受けてはならない。

## 4. 秘密の保持

会員は、依頼者の利益を擁護する立場を堅持するため、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

## 5. 公正かつ自由な競争の維持

会員は、公正かつ自由な競争の維持に努めなければならない。

# 一般社団法人建設コンサルタンツ協会中国支部会員名簿

・支部長 小田 秀樹（復建調査設計㈱代表取締役会長）

・副支部長 坪井 俊郎（中電技術コンサルタント㈱代表取締役社長）・副支部長 小谷 裕司（㈱工イト日本技術開発代表取締役社長）

会 社 名	会 社 名	会 社 名
相生エンジニアリング㈱	㈱建設技術研究所中国支社	㈱千代田コンサルタント広島支店
アサヒコンサルタント㈱	国際航業㈱西日本支社広島支店	㈱東京建設コンサルタント中国支社
アジア航測㈱広島支店	国土防災技術㈱鳥取営業所	㈱なんば技研
㈱荒谷建設コンサルタント	シンワ技研コンサルタント㈱	西日本高速道路エンジニアリング中国㈱
いであ㈱中国支店	西部技術コンサルタント㈱	㈱日水コン広島支所
㈱ウエスコ	㈱セトウチ	日本工営㈱広島支店
㈱宇部建設コンサルタント	セントラルコンサルタント㈱広島支店	日本シビックコンサルタント㈱広島事務所
㈱工イテック中国支社	㈱総合技術コンサルタント中国支店	㈱ニュージェック中国支店
㈱工イト日本技術開発	㈱大広エンジニアリング	パシフィックコンサルタンツ㈱中国支社
応用地質㈱広島営業所	大日本コンサルタント㈱中国支店	広建コンサルタンツ㈱
㈱オリエンタルコンサルタンツ中国支社	ダイホーコンサルタント㈱	㈱パスコ
㈱片平新日本技研中国支店	㈱ダイヤコンサルタント関西支社中国支店	㈱ヒロコン
川崎地質㈱中国支店	中央開発㈱中国支店	㈱福山コンサルタント中四国支社
基礎地盤コンサルタンツ㈱中国支社	中央復建コンサルタンツ㈱中国支社	復建調査設計㈱
ケイ・工ム調査設計㈱	中国開発調査㈱	明伸建設コンサルタント㈱
㈱計測リサーチコンサルタント	中電技術コンサルタント㈱	八千代エンジニアリング㈱広島支店
㈱建設環境研究所広島支店	㈱長大広島支社	㈱陸地コンサルタント



*JCCA*

*Japan Civil Engineering Consultants Association  
Chugoku Branch.*